

伯利に於て經營する宗教學校の數三十餘、病院の數二十、修道院二三あり。之等は西伯利に於ける全寺院と共に該事務局の管掌に屬す。

革命の變亂以來、其の國教たることを廢せられ、教會所有の財産は多く沒收の厄に遇ひ、西伯利に於ける該教も外廓的に著しき壓迫を蒙り、僧官にして或は失踪する者あり、或は他に轉職する等ありて、稍荒廢に到るなきやの觀ありしが如きも、露國民衆の腦裡に浸潤せる神像(イコン)の影は到底之等の外的原因によりて消さるべくもあらず、希臘教の信仰は永久に在西伯利露人民衆の精神を支配すべしと見ること妥當なり。この宗教乃至信仰的狀態を考察するは、西伯利に於ける經濟活動の主體を觀察するに於て、所詮離すべからざる所なりとす。

第二編 西伯利經濟地理本論

第一章 西伯利礦產物の地理的分布及び鑛業狀態

第一節 金屬鑛

西伯利の西半部が、専ら低濕地若くは平野のみなるに反し、其東部且つ最も廣大なる地域は、概ね既に地球歴史の初期に存在し、且つ太古紀以來海底たることなき山地及び高原なり。東部西伯利の山脈高原及山地の形成には、火山力及皺波造山力の二力與れり。故に西部西伯利は一層後期の沖積層に蔽はれ、殆んど平野のみを有する地域にして比較的貴重なる礦物及金屬に乏しと雖、太古期の地質を有する東部西伯利は、各種の地質に富み貴重なる礦物及金屬類豊富なり。即ち東部西伯利には烏拉爾以東の鑛業地域殆んどこの一地域に集中せるの觀あり。然れども西伯利は地質學上未だ考究の及ばざる廣大なる地域を有するが故に、將來彼の動植物的資源と異り、到底人爲的方法を以て増殖を許さざる地球上に有限なる鑛物及び金屬の世界に於ける豫備耗盡したる以後に於ては、東部西伯利は我が地球上

に於ける礦業の中心地たるに至らんこと既に茲に豫想し置かざるべからず。

一、金

西伯利内地に於ける金の採取は、漸く十九世紀に到りて開始(初めて約五布度を採取したる三十年代以降)せられたるも、西伯利の史前時代に於ける此の貴金屬の採取は南部西伯利に於て甚だ大規模に行はれ、殊に亞爾泰に於て著しかりしは、亞爾泰山彙が「金山」なる別名を有するに徴して明かなり。斯は「グロイドツド」氏が金の亞爾泰より採取せられし證據に就て記述する所に據りて見るも明かなり。南部西伯利古墳より發掘したる各種金製品の莫大なる數量は、實に此物品中の大部分(最も嵩高にして重く且つ粗朴なる製作)が此等の地方に於て製作されしのみならず、之に用ゆる地金も亦該地に産せしものなる事を證し居れり。

山丘の稀なる曠原地方は西伯利に於ける凡ゆる金産地方中最も金に乏し。(トボーリスク縣内は僅にペレンソフスク郡内に於ける數個の採金所知らるゝのみ)。阿克モリンスク州に於ては金はコクテタウスク郡内に(コクテタウスク連山)散見し主に長石礦となりて産す。一九一三年の採掘量は、ゲゼシリンバフ氏有ゲオルギーエフ合金鑛一のみにして、其採掘量僅かに二四斤八六(ゾロトニツク)な

り。而も前年度に比し三斤二〇(ゾロトニツク)の増加を示せり。

セミバラチンスク州に於ては、ウスチカメノゴル、ザイサン兩郡内に有りて同州内に於て含金量最も豊富なる金は、クルチコムスカヤ連山(ザイサンの北方)に之を産す。此の地に於ては、含金砂の礦床淺くして其の作業は、僅少なる賃金を以て「キルギス」族又は「コサツク」族の手に依りて露天の下に行はる(砂百布度に於ける金の平均成分は甚だ微少にして十乃至二十「ドーリヤ」に過ぎず)金は多く砂中に散布せるも又礦脈を有するものも散見す。

目下採金しつゝあるは南區のみにして、一九一三年には金三十布度三十斤餘砂金四布度三十斤餘を採取せり。採金に従事する坑夫總計六千十四人にして、月三留乃至十六留の勞銀を給せらる。一立方「サーゼン」の採掘につき、二十留乃至三十留を以て請負ふものなり。但し坑内に於ては、一立方「サーゼン」を採掘するに五十留を支拂ふ外金塊を發見したるものには、一「ゾロトニツク」に付三留五十哥乃至四留五十哥の買上價格を給せり。一九一三年に於ける金坑所有者八十四、坑數は二六五、中採金中のもの九五、此中最も大なるものは露國採金會社七五坑にして、デ・エヌ・スノーフ商會(二八)ア・エヌ・ラエイコフ氏(二八)之に亞ぐ。

尙此地方に於ける採金法は依然として太古の方式を脱せず従て其産金額小なりと雖も、ウスチカーメノゴル地方に於ける金礦は之れに新式採礦法を利用するに於ては更に多量の産金を期待し得べし。

トムスグ縣に於ては、其東部マリンスク郡及び亞爾泰は、含金地にして既に七個の採金礦區の設定せらるものあり。マリンスク郡内に於て採金場は主として「キヤ」河及び其の支流の沿岸と散在し其の含金率は十乃至八十「ドリーヤ」なり。されど沼澤森林及河水の汎濫は、同地に於ける製産を困難ならしめ又其生産費を騰貴せしむ。浚泥機の使用は、此の地方に於ては可なりに普及せり。

亞爾泰の採金業は、主として東南部に於けるトマ、カツウーナ、レベーチ(ビーイ河の支流、諸河の支流及びアバカン河の右側に於ける支流等の河谷に散在し、亞爾泰の西南部に於ては、含金砂産地は「ウリバ、ブフタルマ(イルツイシユ河の支流兩河の河谷に所在するリヅデルスク、ズキリヤノフスキ)其の他の金坑にして、金は主として砂礦百布度に對して平均成分三十三「ドリーヤ」を有する礦脈金なり。往時亞爾泰の採金業は總て帝室内藏寮の有に屬せしも漸次同寮の直營に屬するものは僅少となり、借區として民業に移れるもの多し。單に簡單なる採取法

を用ゆる多數の小株金業者の外、亞爾泰に於ては若干の大企業(ドラガ「ロチナノフ」其の他)も存しトムスグ縣に於ける採金労働者は約二千五百人を算す。トムスグ縣の採金量を表示すれば左の如し。

一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一三年
布度	布度	布度	布度
一二六	一〇五	一〇三	二二三
斤	斤	斤	斤
三四	二	八九	一八(内砂金百九布度六斤五五分)
ソロトニツク	ソロトニツク	ソロトニツク	ソロトニツク
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
ドリーヤ	ドリーヤ	ドリーヤ	ドリーヤ
〇	一〇	〇	〇

而もトムスグ礦區マリンスク小礦區最も多く亞爾泰小礦區之に亞ぐ。而も含金分はマリンスク區は却て亞爾泰區に如かずと云ふ。

一九一三年の採金所數は亞爾泰礦區に五十五坑主數千八百七十五人、採金量四十五布度二十七「フント」九十五「ソロトニツク」六七「ドリーヤ」なり。内露國金礦會社は二十坑を有し坑夫八百四十三人を用ひ、十三布度の金を出し、ジャンネ博士は一坑にて十三布度十五「フント」を出す。

マリンスク礦區は三十四坑を有し坑夫千五十六人あり、採金量五十九布度十四「フント」なり。内露國金礦會社五坑にして坑夫三百八十八人、採金量二十九布度を有す。之に亞ぐはマリンスキー採金會社にして坑夫六百四十人、採金量二十五布

二十二「フロント」なり。

エニセイスク縣は、其の廣濶なる區域内に入る處産金地に富み、縣の北半部に於けるエニセイスク郡内に於て二個の採金業の系統あり。即ち北部のものはホヅカ―メンナヤ、ツングスカ河の左側支流及大ビーツ河の右側支流に散在し、南部のものは、大ビーツ左側支流及アンガラ河の右側支流に沿ふて散在す。此兩河系の採金業は夙に西伯利に於て最も豊富なるものと認められ、一八四七年に於ては約千二百五十布度の金を採取せしも、今や金の自然的消耗と小事業者の拙劣なる作業の爲に著く衰微に赴きつゝあり。大規模の企業は最も完備せる採金法浚泥機、汞和法等)を利用するに至れり。鬱叢たる深林地に在る採金場は、道路不完全及不通の爲に其生産費著しく騰貴せるを見る。一九一一年中北部の河系に於て三十四布度の金を採取し、南部に於ては七十一布度四分の一を採取せり。労働者數、二千六百十八人(一九一一年)とす。クラスノヤルスク、カンスク、兩郡の採金業は微々として振はざるも、アーチンスク、ミヌシンスク地方(クラスノヤルスク以南)には三個の主要なる採金場集團を有す。即ちユーサ河畔、上部チュルキム河系及エニセイ河畔に沿へるアチンスク採金場團、ミヌシンスク採金場團、エニセイ河の支流た

るシシム、ツウバ、アムキル、キキズキル諸河畔)及ウジンスク採金場團(ウリヤンハイ地方と隣接せるエニセイスク縣の最南部是なり。露國採金業者はウリヤンハイ地方へも進入し、同地に於て採金を行ひて百布度中約三十「ドーリヤ」の成分を有する最も豊富なる金を、ユーサ河の支流たるサララ河右岸に発見せり。(「イワニツキ」及「ネクラツフ」採金場)。此地方に於ける金は殆んど全部礦脈を有するものなるも、採金場の僻遠且つ交通不便なることは其生産力を著しく減退せしむ。ミヌシンスク郡内に於ける採金業労働者は、一九一一年に於て七百六十人を算し、イラスノヤルスク及アーチンスク郡には九百十八人、尙エニセイスク縣全部に於ける人員は、四千二百九十六人算せり。

最近エニセイスク地方の産額最も多く、アーチンスク及アンガールスク及ミヌシンスク地方之に次ぎ、一九一三年には百六十布度、一九一四年には二百〇三布度を産し、漸次金鑛の開發見るべきものもあるも、交通の利少きと資本及經營者の缺乏せるとに依り、未だ十分に採掘の運に至らず。

イルクーツク縣に於ては六個の採金地域を有す。即ちビリユサ、オカ、ペーラヤ諸河に沿へるアンガラ河系に三個、アンガラ上流及具加爾湖西方に三個を有し、其

の成分は概してさしたる差違なく平均せり。

ヤクーツク州は金産地として西伯利各地に冠たり。即ちレナ河の支流ウイチム河に沿へるウイーチムスク河系及更に距りたるオレクマ河に沿へる「オレクミンスク」河系是なり。前者に於ける金の成分は二「ゾロトニク」より四「ゾロトニク」半に達し、後者に於ては一「ゾロトニク」半乃至一「ゾロトニク」四分の三に達するも、同地に於ける金は土中に深く撒在（三十乃至五十「アルシン」）し採掘稍困難なり。

イルクーツク縣ヤクーツク州に於ける採金場の中心地は、イルクーツクの北方交界附近ボダイボウ「ウイーチム」河へ會流するボダイボ河（河口附近）にて、同地より三十八露里の區間は第一採金場迄私設鐵道の敷設あり。オレクミンスク、ウイーチム諸採金場は住民地より遠隔せる位置にある爲之等採金場との交通は極めて困難なり。従つて之に對する必要なる諸物資の供給も亦其價格廉ならず。同地は大資本を有する企業にして初て經營收支償ふを得べし。其の首位を占むるは年採取量七百布度に達するレナ採金株式會社にして、千九百十四年中に於ける同地採金業の労働者は一萬餘人なりき。アルダン河畔の諸地方も亦合金土を有す。更にスタノボイ山脈地方にも産金地あり。目下オレークミン及シユルレーリ等の

英國出資に係る採金所あり。一九一二年の採取額八百布度價格千六百萬留を算せり。

レナ採金株式會社は、本本金千六百萬留にして、十一萬株より成り、一株の價百五十留なれども、其相場の高低甚しく、一九一三年八月の交には八百五十七留を上下せり。株主は露人のみならず外國人甚だ多く英米の豪商は實に數千株を有す。本社を聖ペテログラードに置き、事務局をナデヂンスキー採金所（ボダイボ町の東北鐵路六十七露里、ボダイボ河の右岸）に置く。社員千二百坑夫一萬千餘（一九一四年）を有し、一九一〇年ボダイボ採金會社、殖産採金所、ボデレスキー採金所、其他數多の小採金所を買收し、其業務を擴張し、狹軌鐵道を布設し、電話を架設し、學校二、病院二を有し、尙レナ河航行に供する汽船を増加せり。一九一三年度の經費千五百六十八萬留、採金所數四十五を算し、多く縦坑にして深さ十三サーゼン乃至二十四サーゼン、合金地層二アルシン乃至五アルシン、出掘の砂礫一晝夜七十二萬布度乃至八十萬布度、之を朝夕二回水洗器に掛け以て採金す、其量約三布度内外なり。十月中旬より翌年四月下旬に到る河流凍結期は砂礫掘揚業のみに従事す。フイヨード「シエウスキー」オデジヂンスキー、アレキサ

ンドロフスキ、スバースキー等の採金所は主なるものなり。

後貝加爾州に於ける金脈(百布度に付約一(ゾロトニク)はウイーテム、レナ、ジツジヤ、インゴダ、チコイ、ネルチャ、オノン、アルゲン、シルカ、諸河等の河系に存し、西部後貝加爾に於ける土砂の成分は、東部に比して一層豊富にして、最近チタより凡二百露里の地點に於て一九一二年中約百布度に付き三(ゾロトニク)の成分を有する金坑を發見せり。ネルチンスク郡内に於ては帝室内藏寮に屬する採金場各地に散在す。(ウンダ、カラ、シヤマンカ、説河畔等)後貝加爾に於て試掘を願出たる數は二百以上に達するも、内鑛に着手されしもの四分の一強に過ぎず。金鑛は後貝加爾に於てはキヤ、チリマチハ兩河に沿へるカラ、シャツタマ附近の諸山嶺に存す。

一九一三年西後貝加爾鑛區にてはチコイ河沿岸バルグヂン森林及ウロイツコサーフスキ郡内に於て採金せられ就中バルグヂン森林内最も多かりしが交通の不便と冬期雪少き爲河水なくして作業困難を極めたり。フリーセルノコロンスキ採金所及びノラメイスキ採金所を主なるものとす。採金者數は本區内百十九採金所四百十三其内百二十四箇所採金せられ五十三布度十斤を得たり。東後貝加爾鑛區には御料鑛區あり。アルゲン、シルカ河及其の支流に沿

ひて最も多く産出す。一般採金者は五%を御料局に納入する規定なりき。一九一三年七十九箇所の採金所にて六十布度三十九斤を採取せり。而も御料地區内官營採金所及カールスキ、カサコーフスキ、ノラツロイツキ、ニージネボルジャ、オノンスキーの十箇所に於て二百布度三斤を得、其の内百二十六布度二十四(フント)は請負に依り他は直營に依りたるものなり。但し最近の精細を審かにするを得ざるが故に表示するを得ず。

黒龍州に於ては砂金の採取は黒龍江上流地域(後貝加爾との境界に於ける)ゼーヤ地域(セレムチ、ボーム、ジャリンド諸河畔)ニーマン地域(ブレーヤ河に會流するニーマン河畔)ヒンガン地域(ブレーヤ河流域及同河諸支流上流の一部に於て)等に於て行はるゝも各採金場と住民地との距離遠大にして之と交通する事甚だ困難なり、小舟を艀して河川を航行し狹隘なる道路に依り又は小徑を辿る事最も多し。砂金の成分は百布度に付き三(ゾロトニク)又は之を超過す。黒龍鐵道の開通は之に近接せる若干の採金場の設備及製産費を低廉ならしめたるも大産金地と隔たるは遺憾なり。

ブレーヤ地方に於いては一九一一年中百四十一布度半、ゼーヤ地方(黒龍州)に

於いては九十二布度を採取せり。前者に於ては機械力の作業減少して人力労働の増加せるを認む。最近十年間の統計に依れば、一ヶ年平均採金量は實に四百二十五布度^{ブド}十一斤^{フント}十七^グロトニク^ク十一^ドロリヤ^ヤの多額に上り、鑛山局は採金地域をアムール地區、ゼーヤ地區、ブレーヤ地區の三鑛區に分つ。而して一九一四年に於ける採金經營者の總數は二百七十六、採金所九百八十、其の面積九萬六千五百七十五^デシヤチン^ンなれども、實際採金せしは百五十三、採金所三百四十、面積三萬八千二百二十五^デシヤチン^ンにして、採金總量三百六布度三十五斤四十一^ゾロトニク^ク五十五^ドロリヤ^ヤなり。採金法は小規模の手掘を愛し、日給又は月給にて工夫を役するあり、或ひは請負人を使用して鑛區を監督し、其採金又は含金砂土を買収するものあり。冬は「シユルファ」と稱して深さ四、五「サーゼン」の豎坑を掘り、堅く凍結したる地盤の支持により前後左右に横坑を掘鑿し、含金砂土を搬出し、氷雪を融し洗ひて採金す。而して「ヅラカ」と稱する採砂機は、ウナへ河岸のアルクセーチエフ採金所に於て之を用ひ常に好果を收めつゝあり。その他機械はゼヤ、ブレヤ鑛區内に於ける黒龍探金會社に用ゐらるゝにすぎず。

上黒龍探金會社、上黒龍探金商會聯合採金會社、ニーマン採金會社等も機械使用

の希望を有するも未だ實行するに到らざるが如し、左に一九一四年に於ける採金一覽を表示せん。

採金法	黒龍鑛區地方		ゼヤ鑛區地方		ブレヤ鑛區地方		合計
	布度	斤	布度	斤	布度	斤	
手掘小規模のもの	一〇、三五	四四、二二	三五、二〇	二五、〇〇	一一、〇八	四七、一五	五八、二四
請負的大規模のもの	四五、二七	一六、〇六	八五、二二	八五、三九	九〇、二九	八二、六一	二二一、三八
ヅラカ機械によるもの	—	—	三二、〇〇	四九、七二	一四、一四	〇〇、〇〇	一七、三四
其他の機によるもの	七、〇九	三四、二〇	一、〇八	四一、二二	—	—	八、一七
合計	六三、三一	九四、四八	一一六、二二	一〇九、二七	一一六、二二	三三三、七六	三〇六、三五

最近五ヶ年間の採金所面積及採金量を示せば左の如し。

年 數	採金所總數		採金セシ總數		採金量
	採金所	面積	採金所	面積	
一九一〇	八一九	八二、五七四	二九七	三五、〇六九	布度 四九四、二四
一九一一	八一九	八二、五七四	三〇三	三八、〇一九	斤 二四、五四、六七
一九一二	八五〇	八五、八〇九	三二〇	三四、二三四	布度 四二九、三六
一九一三	九五三	九五、九二六	三二九	三六、八〇七	斤 三〇、三八、六七
一九一四	九八〇	九六、五七五	三四〇	三八、二二五	布度 二八七、〇九
					斤 八六、八七

工夫は支那人最も多く常に全數の八〇%内外、次は露人一二%朝鮮人八%なり。最近二年間の工夫の状態左表の如し(右行の數字は一九一三年度、左行の數字は一九一四年度)

礦區地方	露國人	朝鮮人	支那人	合計
黑龍礦區	六三〇	三四七	四、七二八	五、七〇五
セヤ礦區	五二六	二一三	三、七七九	四、五〇八
アレヤ礦區	一、五三二	八七二	六、五二三	八、九一七
計	一、一四二	六五二	一六、一四三	一七、九三七
	四六五	四八四	五、六九八	六、八四七
	五五一	四四七	五、九四〇	六、九三八
	二、六二七	一、九〇三	一六、九三八	二一、四六九
	二、一八一	一、三〇六	一五、八三二	一九、三二〇

勞銀は仕業及時季に依り異れども、日給額は大抵左の範圍内に在り。

仕事別	泥層	炭	砂土層
坑内工事	二八〇—三一〇 ^哥	三八〇—四〇〇 ^哥	
除土工事	二五〇—二七〇		
水道工事	二三二—二五〇	二二五—二五〇	
道路工事	二六〇—二八〇	二二〇—二五〇	
一般工事	二〇〇—二五〇	一七五—二二〇	

工夫は一般に宿舍及燃料を給せらる。食品及衣服は金山消費組合より購入し、採金經營者之れが爲め少からざる利益を得ると云ふ。物價は處に依り異れども、大約ブラゴウエシチエンスク市に於ける物價の三割乃至五割高なり。

各鑛山區の主要地には寺院學校病院等の設けあり。

沿海州に於ても亦人力作業著しく普及し、同州も豊富なる採金地域の多くを有す。アムグンスキー、アムグニ河上流の諸支流及ウツスキ、ウチャハン河沿岸地方是れなり。烏蘇里地方は將來露國の「カリフォルニア」たる資格を有し州内所在に金を有し殊にアスコリド島セデア、イマン、ピキン河及興凱湖に流下する諸河に沿ふて著しく、同州北部に於ける金の生産に當るには、大規模の企業を以てしつゝあり。

烏蘇里地方に於ける採金業の發展は、其交通路の缺如、生産に關する技術的知識の缺乏及地方の生活的條件等著しく之を阻害す。

沿海州に於ける採金業の發展も亦浚泥機の使用を要求し、殊に其の原動力を瀑布より得、且つ一の瀑布を以て若干の浚泥機を運轉し得る地方に於ては其の生産力著し。

今各地の採金状態を表示せば左の如し。

地方名	採金所及採金状態
オホーツク海域	一五坑(オホーツク事業會社は三坑を有し坑夫二百十七人採金量三千三布度四十四フントなり。) オホーツク海域(オホーツク事業會社は二坑を有し坑夫四十五人採金量八フントなり。)

ウヅーリ湖^{九坑}域^坑

黒龍探金會社は三坑を有し坑夫三百五十六人探金量十九布度五十フントなり。
第一ウヅーリ探金會社は一坑にして坑夫百十五人探金量十四布度十フントなり。
其他にアブリクスキー(探金量一布度一フント)、ヒイオテルスキー(一五フント)、アレキサンデルスキー(二布度二十フント)、インノケンチエフスキー(二五ゾロトニク)、ノロシダストウエンスキー(三六フント)探金所あり。

アリヨール湖^{三坑}域^坑

アムールアリヨール探金會社は二坑を有し坑夫七十三人探金量四二フントなり。
ニコライエフスキー探金會社は一坑にして坑夫三十六人探金量二一フントなり。

アムグニ下流域^{八坑}域^坑

マルケーウイツチ探金會社四坑を有し坑夫百三十六人探金量三十フントなり。
ケ・イ・ゲンリヒセン氏一坑にして坑夫五百八十人探金量二十二布度七フントなり。
ミロノフ探金會社一坑を有し坑夫百七人探金量三十九フントなり。
其他にウラザミロフスキー(探金量一九フント)、シオン(四フント)探金所あり。

アムグニ中流域^{二十三坑}域^坑

アムグニ探金會社は十坑にして坑夫三百二十人探金量二布度七十五フントなり。
黒龍探金會社は四坑にして坑夫七十四人探金量十八フントなり。
沿黒龍探金會社は一坑のみなるも坑夫百七十三人探金量三十九フントなり。
アツクケルマン氏有の金坑は三坑にして坑夫百八十二人探金量二布度七十四フントなり。
西伯利小麥探金會社は一坑にして坑夫九十六人探金量一布度十一フントなり。
エリツォーフ及レワシヨーフ氏有の金坑は二ありて坑夫數百四十人探金量四布度七十布度なり。
トコラン探金會社は一坑にして坑夫百五十二人探金量二布度三フントなり。
其他イシヤウチエンコ氏有一坑あれども坑夫數六十七人にして探金量一三フントのみ。

外に烏蘇里地方アスコリド其他

總計 探金量 一布度二十フント四十三ゾロトニク四十四ドリヤ
探金量 百二十五布度三十六フント六ゾロトニク六十四ドリヤ

勘察加州即ちウード河以北は、金はオホーツク海岸に於てはアヤン、オラ、ギヂガ諸河、及チユクチ半島のリツケ、デジネフ兩岬間并にアナツイル河の流域に於ても散見し、就中チユクチ半島は對岸アラスカの含金層を受けて甚だしく有望なり。

オホーツク沿岸、コーリ河、及アヤン港の奥地、ヤームスクの奥なる無名の小河、並にギヂガ河の上流域に砂金床を見る。而して最も有望なるはチユクチ半島内にして砂金床の鑛脈殆ど四百露里に亘り近き將來に於てカリフォルニヤ、クロンダイクの如き砂金地たるべしと稱せらる。目下(一)セルドツエカーメニ、(北緯約六十七度)(二)デジネフ岬より聖ラウレンチャ灣に至る沿岸、(三)聖ラウレンチャ山(三四〇七呎)(四)センヤウイン海峡のペンケグネイ入江の北岸よりバブス山附近(五)同海峡イトイグラン島の對岸メルテレス岬附近(六)ルイサヤガラハ岬よりプロウイデーニエ灣のブローウエル入江に至る附近(七)プロウイデーニエ灣口レスノーフスキ岬附近(八)アナツイル海灣附近の北岸ソコロフ山(九)同海灣ニコライ入江の北方ブリメートナヤ山附近(十)ネルピチー岬を僅かに距る同名の河に沿ひたる地等は、一九〇四年退職陸軍大佐ウオルリヤルスキーの組織したる東北西伯利會社にては政府の特許を得て、探險發見したるものにして、

秘密に採金し之を米國に賣り若くは有利の條件を以て米國人に採金せしめ居れりと謂ふ。ウオルリヤルスキーは、露國農務省より自己の費用を以て、チエクチ半島及其附近の諸島嶼に五箇年間に亘り鑛物の探險をなし、十箇年を経過すれば採金の三分現品を政府に上納する條件を以て採金營業の特許を得、米人の資本を以て東北西伯利會社を組織し、多大の利益を得しが、前述營業方法は露國鑛業法違反なりとの大悶着起り、一九一〇年に到り特許満期となりしかば、爾來東北西伯利會社をアナヅイル金鑛業會社と改め、切りに東北西伯利會社の享有せし權利の繼承に努力し、一方政府に於ては直營の意思を以て調査に専心せしが、一九一四年歐洲大戰の勃發となりて新規の改革若くは企畫なく、遂に革命の變亂に到つて秩序紊亂其の所屬も明らかならざるに到れり。

樺太州に於ても所々含金層を見るも未だ組織的の企業起れるを見ず。

今一九一四年全西伯利金産額を表記すれば左の如し。

州	縣	名	布	度	フ	ン	ト
沿	海		一	五	七		三
後	貝	加	二	五	三		三

黑	龍	三〇六	三五
イルク	トック	?	
ヤク	トック	八〇〇	〇〇
エニ	セイスク	二〇三	〇〇
ト	ムスク	一〇三	二三
アク	モリンスク	—	二四
セミ	バラチンスク	三四	六〇
總	計	約一九六〇	

右は一九一四年、露國內に於て獲たる金の總額三千七百萬留の六割七分に相當し、東部西伯利は殆ど其九割六分を産す。尙多額の金は密に沿岸州内の鬱林地方に於て作業せる支那又は朝鮮周旋人(即ち窃取者)の手を経て、沿岸州地方より國境外へ搬出せらるゝが故に、之等は一般統計に計上せられざるものとす。十年以前一九〇三年に於ては西伯利は、既に千五百五布度即ち全露國金産額の七割五分強を産出せり。金の最大部分は、撒布せる地中より多くの徒勞を伴ふ夥しき勞力に依りて採取(純粹の金所在地より二割弱)せらるゝものなるも、要するに現在に於て

は往時發見されたる砂金所在地は消滅し若くは減退し、新なるものは未だ發見の途上にある状態なり。但し格外に豊富なる金礦又中位の成分を有する含金地帯と雖も、尙西伯利にありては地方の事情に依りて唯大資本を擁する企業のみに適する事を認めざるべからず。然れども概して廣大無邊の東部西伯利に包容する金は將來世界に於ける有數の資源として開發せらるべき運命を有す。

二 銀

銀は先年來世界市場に於ける價格低廉なりしを以て、西伯利に於ける之れが採掘精鍊は微々言ふに足らざりしも近時稍之に注目する者多きに至れり。銀の產地としてはセミバラチンスク州にてはカルカラリンスク、パウロダール兩郡、トムスク縣内に於けるズメイノゴルスク(ズキリヤノーフスク及びブリヅデルスク坑)クズネツク(サリールスク坑兩郡并にネルチンスク郡(後貝加爾州等名あり。曠原地方に於ては甚だ高率の銀の成分を有する諸坑散見す。即ちキジル、エスベに於て八〇・二二五プロセント又グリダートフスクに於ては四十九噸の礦石より七十六噸八九の銀成分を有する銀鉛礦を産出す。ヤクーツク州にては、銀は銀鉛礦となりて各地に露はる。就中ウエルホヤンスク地方レナ河を距る百五十露里の地

の如きは、全山本鑛にて一九一五年ボーセンコ技師一行の探險して觀測せる所に依れば同地方は鉛と共に銀甚だ豊富なる事を報せり。

三 銅

銅はキルギス曠原に最も豊富にして、同地に於ては時として尙村落地方に露出せるものをすら見るにあり。即ち阿克モリンスク郡の東南部(スバスコエ及其他の精銅工場)パウロダール郡の南部及カルカラリンスク郡等最多し。其の量多きに拘らず阿克モリンスク及びセミバラチンスク州の銅坑は品質優良ならずして銅の成分は一割を出でず。同地に於て最も大なる企業はスバスコエ會社及アトバサルスキー銅坑會社アネレスキー銅坑會社とす。附近に石炭産出し、その銅鑛量の豊富なること、曠原に既定せる鐵道線路の敷設等は孰れも曠原諸州に於ける銅工業の爲に有望なる將來を豫想せしむ。

阿克モリンスク州に於る銅鑛の採掘量は、一九一三年度に於て合計二百四十八萬四千六百布度(前年に比し十六萬五千九百六十五布度の増加)に達せり。之を鑛山別にすれば、

阿克モリンスク郡ウスペンスキー鑛山

一、六二三、五五〇布度

アトバサール郡ボクロフスキー鑛山 七五七三六三
 同郡 ナデジヂンスキー鑛山 一〇三六八七

此等の銅鑛は多くスバースコエ製銅所にて精鍊せらるゝが、其含銅量は純銅二五%乃至三〇%なり。而して精銅所は鑛石百六十六萬一千六百四十二布度(一九一二年に比し十四萬七千六百十二布度増加)より精銅三十萬六千六百九十二布度(一九一二年に比し三萬五千二百七十二布度増加)を精鍊し得たり。一九一三年クモーラ河沿岸に新設せられしアトバザール鑛業株式會社は、今後専ら精銅事業を經營すべき方針なりと謂ふ。セミバラチンスク州にては一九一三年銅産額六布度にすぎざるも銅鉛銀混鑛三萬八千四百七十八布度を得たり。

鑛坑名	鑛區面積平方サーセン	所有者名	採掘量	位置
グリゴレーエフスキー	五六二、五〇〇	ケ、エフ、ベルミキ	一九一二年採掘せず	ザイサレ郡アクベクト邑附近イルグンドエリクン河岸
アンホンスキー	六〇三、二七〇	—	一九一二年採掘せず	同郡同邑附近ツゼーニシカ河岸

トムスク縣内に於ては亞爾泰地方銅に富めり。同地は西伯利に於て最初に銅の採掘を開始し(十八世紀の始)又多數の豊富なる銅産地(殊にズメイノゴールスキー郡内に於て)を有するに拘らず、今や亞爾泰に於ては單にスガトフスキー、チユー

ドン、イルツイシユ河の支流ウバ河系に於ける(兩坑のみ作業し、其銅はスバースコエ工場に於て之を精鍊せしむ。亞爾泰に於ては一般に銅工業を發達せしむるを得べき餘地の多し。

エニセイスク縣に於て多數銅産地を有するを以て名あるはミスシンスク郡(其東北部イルベンスカヤ領地イツクリ湖附近)なり。イルクーツク縣内に於てはウダ河の沿岸に之を有し、後貝加爾に於てはチコイ河の流域及ヒルカ河の沿岸に之を有す。ヤクーツク州にてはアルダン山脈及ウイリユーム地方に銅鑛豊富なり。勘察加州に於ても亦發見せられたるが、未だ採掘の企てられたるものなし。コマンドルスキー島内の銅鑛は極めて優秀なりとの報あり。西伯利に於ける産額は左表の示すが如く急速に發達し居れり。

銅の精鍊額(單位千布度)

一九〇七年	一八〇八年	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年	一九一三年
六八、九	一五五、〇	一五六、〇	二〇〇、〇	二三〇、〇	三一六、〇

最近七年間に西伯利に於ける銅の採掘高は五倍せりと雖、之れを大體より觀察すれば未だ漸く其端緒を開きたるに過ぎず、將來益々急速の開發を促がすに至ら

ん。

四 鐵

鐵鑛の存在は、西伯利各所に認識せられ、トボーリスク縣に於ては、チユーメン附近に於て鐵の坭石(鐵三割)を有し、セミバラチンスク州に於ては、二個の山表(トガイ、ケンヂベ)に無量の鐵鑛の露出せるを以て有名なるカルカラリンスク郡を有す。(純粹なる鐵七割)。概してキルギズ曠野に於ては、二十餘の鐵鑛石の産出所を有し、且つ往々附近に石炭層を有するを以て有名なり。トムスク縣内に於ては、クズネーツ郡(クズネーツとは蹄鐵といふ意なり古來鐵の産地なりしことば此名に依りて見るも明なり)、クズネーツカより遠からざるトム河に會流するコンドマ河の右側支流に於けるテリベサ河畔に於て、夙に磁鐵鑛及赤鐵鑛の豊富なる産出所を發見せり。(純鐵の成分六割五分以上にして鑛石約一億布度を産し、殊に二三十露里を距りたるコルタン附近に良質の石炭の露頭を有す)。エニセイスク縣に於ては、鐵はエニセイスク郡ミヌーシンスク兩郡に於いて、殊にアバカン河上の上流に多くアバカン礦脈の鐵の成分は七割に達す。其他同郡内にはイルベンスク官有地(ツーパー河の右側支流キシル、イルバ等諸河の沿岸)にも鐵を産し、鑛石は六割四分乃

至六割七分の鐵の成分を有する磁鐵石なるも、同地は交通困難なる缺點を有す。尙同郡他の地點に於ても鐵鑛の存在する事を認められたり。

鐵は一七六〇年以來一八二九年に亘りミヌシンスク鑛山區にイルピン製鐵所設置せられ、年に二萬五千布度内外の製鐵を見しが、運輸の不便資本の缺乏より之を閉鎖したり。一八七一年アバカン河に沿ひコルチユギン氏の設立に係るアバカン製鐵所は(鐵鑛の含鐵分二五%乃至四五%)漸次發展し、後會社組織に變じ、一八八七年前後最も其の盛を極めたりしが、現時に到り稍退歩の域に入り、年産鑄鐵十萬布度、銑鐵五萬布度にすぎず。エニセイスク市を距る九露里ザラデーエフ、ボクポーフ等の村落には富裕なる鐵鑛を産す。含鐵分平均二五%乃至五〇%にして處に依り七〇%の多量を有すといふ。交通の不便と資本なきとは未だ之を經營するものなく、地方住民は之を取り鍛冶工に密賣すといふ。イルクーツク縣に於ても鐵はニージネウーヂンスク郡内にて四割九分乃至六割五分の鐵の成分を有するアンガラ附近のニコライエフスク鐵山、イリマ河の諸支流、貝加爾湖の東南岸及其他の地方にも産出す。

後貝加爾州は亦鐵鑛に富みウエルフネウーヂンスク郡内に於けるベツロウス

キーザード驛の東南一帶に豊富なるを以て、己に十八世紀に於て官立製鐵所の設立を見しが、其設計宜しからざるが爲常に缺損のみに陥り殆んど廢頽の有様なりしも、近時歐洲戰亂に際し兵器製造に用ゐらるゝに到れり。

由來後貝加爾の産鐵は、己に久しき前より著れたるものにして、成吉思汗の起りしオノン河谷は、現時の蒙古にあらずして後貝加爾南部なりとの説、信據すべき考證あり。而して成吉思汗の兵器の資源は之を後貝加爾に採りしと明かにして同地方ブリヤート土族の鍛冶に特技を有するを以て見るも己に古き歴史を有すを察するに足る。黒龍州は礦物富裕なるも鐵未だ採掘せらるゝに到らず。沿海州にも可成の鐵礦を有しニコライエフスク附近成分四割三分及ソフィスクより百六十露里の黒龍江右岸に於ける褐鐵礦脈は頗る有望と認められ居れり。

更にチュチへ海附近より、オリガ、蘇城及奧地のニコリスク山林區地方には、磁鐵礦の擴布頗る富裕なり。就中オリガ山林區の鐵礦は其量最も多く、灣岸より北十二露里にあるペロゴリススキー鑛山のみにて少くとも一億布度を有すと云ひ、近き將來に於てオリガ灣頭に世界有數の大鐵礦所を現出すべしとは露國有識技師の常に唱導する所なり。蓋し其擴布量の多きのみならず、含有純鐵は五割六分乃

至六割に達し、加ふるに附近に佳良なる無限の炭脈を有するを以てなり。當地方ブラゴダークヌイ、ペロゴリススキー、ベルシインスキーの三鑛山は、一九〇九年試掘せられしが、資本缺乏の爲め僅に六萬布度を得たるのみ。爾來ブリネル、及アルツノ兩氏其採鑛に従事し、一九一五年には七鑛區に就業せしが、ブリネル所有のブラゴダークヌイ鑛山にては磁鐵礦二萬二千三百布度、アルツ所有のペロゴリススキー、ベルシインスキーの諸鑛山は、三萬六千六百布度、蘇城及ニコリスク山林區に於ける鐵礦は含鐵分七割に及び、其擴布又頗る大なりと雖も未だ其の採掘に着手せず。尙勦察加州も亦良鐵礦を有す。

斯くの如く豊富なる鐵の産地に富むに拘らず、現時西伯利に於ける之れが採掘は微々言ふに足るものなく、一九一二年の如き僅か三十六萬布度を製産し、約一千百萬布度價格四千萬留を輸入殆ど烏拉爾よりのみに仰げり。蓋し斯の如きは西伯利に資本、企業心及人文的開發の缺如せると、鐵産地の大部が僻遠にして人跡稀なる地方に位置せる爲に其設備費の高價なると、各地域個々に對する需要を缺き、此等の地方より搬送するに安價にして且つ便利なる道路を缺ける爲めなり。

五 錫、鉛、黒鉛、ニッケル、安質母尼、其他雜金屬

(イ) 錫

錫はキルギス曠原後貝加爾のオノン河畔及沿海州に産す。又トムスク縣のトムスク附近オビ上流河畔にも散見す。而して沿海州の銀鉛鑛山に於て採掘する鑛石は略日々二百噸餘にして鉛一二、一%錫一八、七%銀少量を含む。

(ロ) 鉛

西伯利に於ける鉛鑛業は、重要な位置を占む。而して多く銀と混入して包藏せられ、此の銀鉛鑛業は到る所に之を見る。

セミバラチンスク州に於ては、バルハシ湖北岸の曠野地に二、三の銀鉛鑛區あり。又亞爾泰地方にも多く、前者即ち南區方面にては未だ採掘を見ざるも、北鑛區に於ては既に採掘に従事し、一九一三年には銅銀鉛混鑛三萬八千四百七十八布度、銀鉛鑛二萬二千布度を採掘せり。

アクモリンスク州に於ては採掘權出願中に係る銀鉛鑛二十六、銀鉛銅鑛十三あるも、未だ採掘の運に至らず。

トムスク縣は亞爾泰鑛區に豊富なる鑛脈發見せられたれども、交通の不便と資金の缺乏との爲未だ採掘せられず。

ヤクーツク州にてはウエルホヤンスク地方に豊富なる銀鉛鑛脈の存在せること前述の如し。

將來ヂズヤ製鉛所の設立を見るに至るべきなり。更に純鉛鑛としてはアルダンの河の支流(河口より二百三十露里)ウスニチュン、ヤギヤンヂヤ河岸の鉛鑛頗る有望にして鉛六十五%、銀八%を含有す。而して其の鑛脈も長きに亘り豊富なり。

沿海州に於ては鉛鑛業比較的盛にして採掘所四、鑛坑十三を有し蒸汽機の捲上機を備へ一日百五六十噸の鑛石を出す。その含鉛分は三八%なり。銀鉛鑛は九鑛區二十二坑を有し、その工夫七百に達す。一日出鑛量及含鉛分は錫の部に述べたり。

而して分布區域は、南烏蘇里地方の海岸近きシマコーフカ邑とオリガ灣との間に在るウラヘ、タウベ、ハウゴ、リフン、アラクモーフカの諸川の流域及ウラヂーミル灣に至るフルヘ河(裏並にツリヤ岬よりグロデコヲ邑を経て、ボルタウカロ邑に到る間に最も多し。されど採掘を見たるもの少く僅かに河系に沿ひ海岸を距る三十六露里の處に百萬留の資本を有するチユチヘ鑛業株式會社及其の他二三者採掘するを見るのみ。

今探鑛せる鑛山を擧ぐれば左の如し。

一、チユチへ株式會社

許可年月 探掘未掘

ボリソフスキ—銀鉛鑛—一九〇三—探掘

レオニドフスキ—銀鉛鑛—一九〇三—未掘

マルガリトスキ—銀鉛鑛—一九〇三—探掘

マリンスキ—銀鉛鑛—一九〇三—探掘

ニニンスキ—銀鉛鑛—一九一二—義務探掘

オレコフスキ—銀鉛鑛—一九一二—未掘

スウエートルイ—銀鉛鑛—一九一三—未掘

フエリクソフスキ—銀鉛鑛—一九〇三—義務探掘

二、エ・ター・ウオルロク氏

エリザベチンスキ—銀鉛—一九一二—未掘

三、エル・テー・ブリテネル氏

キリルロフスキ—銀鉛鑛—一九一二—準備作業

而して最近同州に於ける白鉛の探掘量を擧ぐれば次の如し。

一九一二

三一七六三布度

一九一三

一八三七、二六五布度

黒龍州にては未だ踏査中に屬す。後貝加爾州にては、ハマルベタン山系及ヤプロノイ山系中に多きも未だ探掘せず。

(八) 滿俺

滿俺はセミバラチンスク州にてはセミバラチンスク、カルカラリンスク兩郡間のアルユルキク山(酸化滿俺七〇乃至八〇%)、エニセイスク縣はミヌシンスク郡内の多數の地方、及アンガラ河支流地方に於て採取せらる。其他に於ても未探掘の儘に委せられたる多量の鑛石埋藏せらるゝものゝ如し。而して烏蘇里鑛山區に於て探掘許可を受けしもの四坑山あれども未だ探掘の運びに到らず。

(二) 亞鉛

亞鉛の今日迄に發見せられしは、沿海州南烏蘇里地方に於けるチユチへ鑛業株式會社所有の鑛山のみ。而してその含亞鉛量は五八%なり。其探掘量を擧ぐれば左の如し。

一九一二

一七〇、二二六布度

一九一三

一、六三二、八八五布度

(ホ)安質母尼其他

安質母尼は硫化安質母尼として露はれ、後貝加爾及黑龍江畔に産し、ザキビナヤ驛附近、ニッケル、コバルト其他の金屬鑛は西伯利各地に散在するも、その鑛石は屢發見せらるのみ未だ發掘に到らざるのみ。

水銀は後貝加爾州に辰砂となりて産し、水鉛は沿海州烏蘇里鑛山區に産す。

(ヘ)石墨(黒鉛)

石墨鑛はセミバラチンスク州ウスチカメノゴルスク郡内、イルクーツク縣イルクーツク市の西方二百五露里ツウキンスカヤ連山(一八四〇年商人アリベルの發見に係るも該鑛脈の採掘には先づ便利なる道路及鐵道の施設を必要とす)、エニセイスク縣ツルハンスク地方、下ツングスカ、クシイカ、及エニセイ河下流の右側支流のバフタ河等の沿岸にあり。ツルハンスク産黒鉛は、錫蘭産に勝るも、之が製造には多大の資本を要す。沿海州内は(一)ウラヂイミル灣岸(二)ウスペンスキー林區内ベリツエヲ林附近(三)セデイミ灣岸(四)チエルニゴフスキー林區(五)プチャテイン島に在り。

シホテアールン山の支脈を横斷するウスリ河岸の結晶片麻岩中にも多く現出すれども、品質粗惡にして混淆物多く價值少なし。チエルニゴフスキー林區及プチャテイン島の石墨鑛は其質善良脂分多く、殊にプチャテイン島のは鑛石中石墨分多量にして大に有望なるが如し。但石墨は管に烏蘇里地方のみならず全極東を通じて未だ一箇所も採掘せられざるを以て其擴布及品質等尙不明なり。

第二節 非金屬鑛**一 石 炭**

石炭も亦西伯利に於ては極めて豊富にして到る所に其鑛脈を發見す。

セミバラチンスク州に於てはイルツィシユ河より九十五露里のパウロダール附近にエキバス、ツウズスキヤ炭坑(炭量約六十五億布度)在り。炭質は縦し多數の粉炭と塵埃を混すると雖も、西部西伯利の此方面に於ける森林伐採の結果材木搬出の爲めイルツィシユ河航行の諸船舶、及附近鐵道に對し好望なる販路を發見し得るならんも、同地に於ける諸種の企業は目下殆ど活動を中止すること久しきに亘れり。尙該炭坑は輕便鐵道に依りてイルツィシユ河と連絡せらる。其他キルギス曠原はカルガンチンスキー(アクモリンスク、カルカラリンスク間)、クウチエキンスキ

一(ア)クモリンスクより遠からず、ヂヤマンツーズスキー(パウロダル南方百四十露里イルツイシユ河より五十五露里)ザイサン等諸炭坑を有せり。キルギス曠原の石炭は其質概して良好ならず、即ち其質硬く燃燒後凝結することなく、且つ鑛脈は不正なり。

トムスク縣に於てはクズネツカヤ盤層は石炭の豊富なるを以て己に世界に名あり、即ち總面積四萬方露里に亘り約四百露里の幅員を有する所謂クズネツカヤ石炭盆地是なり。該地域にありてはトム河及兩地を貫流する他の小河川の沿岸到る所に明らかに石炭の露頭を認め得べく、又西伯利鐵道幹線に最も接近せるバラハンカ河(線路より四十露里を距る)沿岸の産出所を起點とする一大炭層は、南方三百八十露里の地點に至る迄一帯に連互し、チユムキシ、コンドマ、チシヤ諸河畔に於ける豊富なる産炭地に至りて終結す。同地にコルチユギンスカヤ、アンヂエルスカヤ、スツゼンスカヤ、レベヂヤンスカヤ等の諸炭坑あり(アンヂエルスカヤ以下三箇の坑山はトムスクを距る遠からざる鐵道沿線に在り)。

アンヂエルスカヤ坑は目下採炭量最も多し(一九一二年の出炭額約二千萬布度、一九一三年は二千三百萬布度)。スツゼンスカヤ、アンヂエルスカヤ兩坑に於て採

掘せる石炭は、主として西伯利鐵道幹線西部線區の需要に當てらるゝも、其全需要を充たすに足らざるを以て、コリチユギンスカヤ坑の更に豊富なる産炭よりの補給を必要とせり。コリチユギンスカヤ坑の炭層は厚き處は二サーセンに達し、殆ど無限に連互し、其延伸は二露里に亘り、炭量は無慮數十億布度に及ぶ事、實測調査に依りて判明せり。併もクズネツカヤ盆地の一小部分に過ぎず。以て該盆地に於ける炭量の豊富にして實に測るべからざるものあるを知るべし。其品質の優良なると、其位置鐵道幹線に接近せる爲に、コリチユギンスキー炭は西伯利鐵道就中其西部及更には亞爾泰鐵道に對して急速に其販路を開拓するに到るべく、之が設備は既に一九一二年中に開始せり。コルチユギンスキー炭は特に其品質の優良なるを以て秀づ。即ち半脂質にして灰を生ずること鮮く、且つ燃燒の際熱度は八千度以上に達し、約六割の冶金用骸炭を包含す。アルヂエンスカヤ及スツヂエンスカヤ炭は此等の點に於て同炭に劣れり。コリチユギンスカヤ炭の價格は二三年來産地に於て一布度四哥六四を超ゆることなく、且つ之をクルガン迄運送するも、一布度に付十哥三三に達するに過ぎざるを以て、西伯利鐵道の西部線區に對しては、同炭は烏拉爾炭、スツヂエンスカヤ炭、アンヂエルスカヤ炭に比して孰れよ

りも販路に於て有利なり。尙クズネツカヤ流域に於ては、バチャツスカヤ、コルタ
ンスカヤの兩石炭産地も亦有名なり。

エニセイスク縣に於ては石炭産地は許多の地方に發見せられ居れり。即ち北
部に於てはクレイカ河沿岸ツウルハンスキ地方に於けるエニセイ河の右側支
流(ミノーシンスク郡内アバカン河の右岸)イズキフ、ミノーシンスク附近及びアン
ガラ河の中流沿岸等是れなり。イズキフ炭は東部西伯利炭中最良の石炭にして、
炭層の厚さ平均三及四アルシン骸炭成分六割を有す。イズキフ山はアバカン河
の河口を距る三十五露里の郡内に於ける住民地域に所在し、石炭の採掘及輸送に
至大の便利を有す。而してアチンスク、ミノーシンスク間の豫定鐵道が、此の地方
産石炭の利用を重んずべきや明らかなり。

イルクーツク縣に於てはイルクーツクの西北方百二十露里の地點にチエンム
ホフスキ石炭盤層(幅員約四十乃至五十露里約千二百萬噸)を有し、同炭は燃燒單
位約七千の高度に達し、且つ骸炭成分約五割を有す。西伯利貝加爾兩鐵道線區、貝
加爾湖の汽船及イルクーツクに於ける民間事業は悉く同炭を使用し居れり。

ゴロウインナヤ驛附近の炭坑は、採掘中止の状態にあり。ザビーツイ驛に在

る炭坑は、クヅネツ、ミルレルの合資にして驛を距る七露里、年々七百萬布度内外
を採掘す。チエレームホラ驛附近にはシチエルクノーフ、ラズミンカ、マローフ
スキ、マルケイウイチ等の炭坑より年々千五百萬布度内外を採掘す。クリー
セラ及カシヤノウカの諸驛及ボロウイナ驛にはイワノーフ、マトウエーエ
フの合資炭坑あり。年約六百萬布度を採掘す。ウツリエ驛に近き、バルハー
ト邑には官有炭坑あり。囚徒を使役して採掘す。其量年約百五十萬布度にし
て本縣内に於ける石炭採掘量は年約二千九百五十萬布度とす。炭質悉く良好
ならざるも西伯利鐵道は此の内年二千萬布度内外を使用し、後貝加爾鐵道は約
二百萬布度を使用す。而して殘高百五十七萬布度は製鹽所及若干の工場に使
用せらる。

後貝加爾州に於ては多くの地方に於て石炭を散見すと雖も、一小部分を除き他
は泥炭及褐炭にして單に生石炭の儘使用せらる。是骸炭成分を有すること少く
速に撒布さるゝ性質を有するが爲なり。

本州に於ける石炭はタルバハダイ邑を去る七露里の地にあるテチユーフ氏所
有のタルバハダイ炭礦會社、後貝加爾鐵道のノーフスキ驛附近のザミヤーチン炭

礦會社及び第一チンスキ炭礦會社等によりて採掘せられ、主に後貝加爾鐵道用に供し、目下(一九一六年)運炭に電車を使用せり。全坑夫數二千餘人採炭年額千二百萬布度に達す。

黑龍州はブレヤ河沿岸インノケンチエフスカヤ驛附近黑龍江中流沿岸、其他の個所に於て充分燃料に適する良質の石炭を散見せざるにあらざるも、未だ大規模の採掘起らず而も概して石炭に乏し。黑龍州の採炭業は、一九〇六年の試掘、一九一一年の採掘開始にして、一九一四年迄に六十九萬八千布度の出炭を見たるのみ。而して最近繼續就業せるは黑龍江石炭會社、トピル石炭會社となり。前者はデブ河右岸河口より七十五露里の地にあり、後者は黑龍江左支流大ピラ河畔にあり。されど炭質一般に粗惡にして採炭業も未だ重要産業として見る能はず。その販路の如きも黑龍鐵道用に幾分供し、他は民家若くは民間小工業に用ひらるゝのみ。沿海州に於てはナホドク灣より四十露里を距り蘇城河の沿岸に位置する蘇城産炭地(石炭は特に多からずして採炭は千二百萬布度以下なり、烏蘇里鐵道と連絡の爲枝線を敷設せられたり。)パラバミの境界附近、黑龍灣沿岸ハバロウスク附近ニコライエフスク及凱興湖近傍及其他の地方に産す。

本州炭礦の豊富なること殆ど無比にして殊に烏蘇里地方は地下全部炭層なりと謂ふも過言に非ず。されど炭質は多く粗惡なる褐炭にして斷層多く且つ交通不便にして資本缺乏せる爲め未だ其の發達を見ることを得ず。市場全く日本炭の獨占到歸せしが、政府は一九一四年以來自國炭保護の爲め一布度五哥の輸入税を課し大に日本炭の輸入を壓迫せんとせしが、自國炭質不良にして未だ其目的を達する能はず依然課税前に等しき輸入を見る。

烏蘇里及沿海地方兩區の總出炭量は年約二千萬布度にして就中炭質佳良なる蘇城炭は千二萬布度の採炭あれども鐵道及陸海軍用にも尙不足を告げ市場に出づること罕なり。而して該地方の需要炭量は年約三千萬布度にして其不足は總て日本炭に依りて補充せらる。

鑛脈の傾斜は五、六度乃至七十度層厚三サーセンに至るものあれども多くは二アルシン内外なり。粘土及砂を混じ火力弱く硫黄分多し。一九一五年本州内の全採炭量は一等炭七坑にて四百五十萬五百六十四布度(三十二萬留)、下等炭十一坑にて千百三十七萬四千四百七十六布度(八十一萬五千留)にすぎず。左に重なる炭礦につき略述せん。

(イ)ポドゴロドスキー炭礦

本坑はリントゴリム商會の所有に屬し、ウスリー鐵道に沿ひ浦鹽より二十七、八露里の地にあり。延長二百サーゼンの廣軌鐵道をウスリー鐵道のウーゴリナ驛に接続す。本炭の分折は

無灰	揮	灰	硫	發
コークス	發	分	黃	熱
	分	分	分	量
六〇・四二%乃至七二・六一%	一二・三八%乃至一六・〇六%	八%乃至一五・六九%	〇・六七%乃至〇・八九%	五二・九七カロリー

本炭礦は深さ百八十五サーゼンの斜坑二箇を有し、坑内三箇の並行層より探掘す、層の厚さ二アルシン四分の一乃至三アルシンにして十二度乃至十六度の傾斜になす。現探炭箇所は地表下約四十サーゼンにして既に海面以下に在り、海水の浸入甚し。總炭量見積五千二百二十五萬布度にして現在の出炭量年約千五百萬度なり。多く浦鹽斯德に輸出し暖房用とし切込炭は主として煉瓦製

造所に、塊炭は多くは製粉所用とせらる。時としてハバロフスクに販送せらるゝことあり。其の生産費は一九一五年に於て一布度四哥乃至四哥半に當る。工夫は全部支那人にして設備は稍完全に近し。

(ロ)クラエウゴリノスバースキー炭礦

本坑はウーゴリヤ村にあり。ウスリー鐵道に沿ひ三十露里炭礦と別稱す。技師スキデルスキー及アルツ氏の經營する所にして地稅として探炭每布度四分の一哥を收めたり。その分折成分左の如し。

灰	揮	灰	硫	發
分	發	分	黃	熱
	分	分	分	量
二・六五%乃至八・七一%	三三・八七%乃至三四・九五%	三六・%乃至四〇%	五〇・九一カロリー	

二箇の豎坑を有し深さ二十一サーゼン層厚二乃至三三アルシン傾斜五度なり。二坑共に最新式の蒸氣機關を有すれども一九〇六年に於ける見積總炭量約八百四十萬布度にして爾來多量の探炭ありて既に廢坑に近づけるものゝ如し。

(ハ) マングガイスカヤ炭礦

浦鹽斯德の對岸アムール灣岸のボシエトスキー林區内に在りてバラパーシイ邑より六露里アムール灣に注ぐボリシヤヤマングカヤの支流マールイマンダグガイの河谷にあり。浦鹽の鑛業家ユ・イ・プリネル氏の主宰する英國商會の經營する所なり。其の分析成分左の如し。

灰	分	七・七三%
揮發分	分	七九・四六%
揮發分	分	一一・四九%
硫黃分	分	〇・八二%

本炭礦は四坑あれども、第一及第二坑は鑛脈複雑にして採掘困難を極め第三第四の兩坑殊に第四坑は鑛脈の走向單純平坦なるを以て實際的價値を有するものは第三第四の兩坑とす。炭層は總て七箇あれども中第一層と第二層とのみ採掘せられ、第一第二の層厚は〇・三サーゼン及〇・四サーゼンなり。炭質は第二層優良にして殆ど無煙炭なり。品質は英國のカディフ炭と劣らざるものゝ如し。而して第一第二層の見積炭量は、九千萬布度にして、未だ着手せられざる他の

五層を算入するときは無慮數億布度に達すべし。

(ニ) デ・エス・ポロヂン氏炭礦

目下スキデルスキー技師の有に歸し、ニコリスクウスリ斯克市より東北四露里ニコリスク驛より七露里の地點にあり。一九〇八年三月發掘せられ、炭層の覆土は大抵砂礫なり。炭層六箇あり、上部の三層は扇形に擴がり層厚一・五サーゼンにして三十度の傾斜をなす。炭層の走りは穩健にして炭量三千二百萬布度を算す。灰分少なく、發熱量五千カロリーに達し、炭質優良なり。其の原價は六哥四分の一(ニコリスク市にて)なり。本炭の需要はニコリスクウスリ斯克地方にあり、主とし暖爐用に供せられ、エウダニエフカ、イマン、ハバロフスクにも多少供給す。

(ホ) スイフーンスキー炭礦

本炭礦は技師アンフイロゴフ氏及シドコフ氏の所有にして、ニコリスクウスリ斯克市の東北三露里のスイフン河岸サリニコフ山にあり未だ充分測定せられざるも、鑛脈非常に複雑にして斷層多しと云ふ。鑛脈はゴロヂン氏炭礦と同一脈にして炭質も殆ど相等しく、炭價もニコリスクウスリ斯克市に於てポロヂン

炭と同様なり。

(ハ)ウダロフスカヤ炭礦

本炭礦はムノゴウドーブナヤ村附近ウスリー灣に注ぐマイへ河岸スーチャ
ン鐵道のシイコトロー驛より二十露里の地に在り。輸送困難にして所有者に
成算なかりし爲め一時其の採掘を中止せしが、近年アルツト技師に殆んど無代
價に等しき六百留を以て賣却せられ、買主は近年盛んに採掘に従事し、烏蘇里鑛
山區内に於て其年額採炭量は他炭礦を壓し、一九一二年には石炭六萬三千布度
褐炭四百二十八萬七千布度、一九一三年には石炭五萬五千布度褐炭六百二十六
萬布度を採掘せり。炭質は概ね粗惡にして褐炭多く、炭層の厚さは平均一・五サ
ーゼンなり。本炭礦は瓦斯僅少にして、坑内安全燈を用ふるの要なく、又換氣法
によりて空氣を清淨ならしむるの必要なし。運炭はマイへ河畔迄十三露里小
車を以てし、それより鐵道又は支那船により他に搬出す。

使用人員は一九一四年、四百二十八人にして他の百二十人内外若くは二十人
にすぎざるに比し、著しき多數にしてその規模の大なるを知るべし。

以上は烏蘇里鑛山區に屬するものなれども、更に沿海鑛山區につきて見るに、

本區には有名なる蘇城(スーチャン)炭礦あり。

○蘇城炭礦

本炭礦は地理學者マリアフキン氏の記述に依れば、古き昔より支那人の採掘
を試みたるものにして、現在シホートアーリン山に於て支那人が石炭にて銀鉛
鑛を精煉しつゝあるに徴しても尙此の事實を推知し得べし。位置はナホドカ
灣に注入する蘇城河の河口より四十露里の上流右岸にあり。炭田の延長十三
露里に亘り、西南より東北に向つて擴大し、幅一露里乃至五露里、面積三十五平方
露里なり。

本炭礦は處により著しく炭質を異にす。西部方面の石炭は、堅緻なる無煙炭
にして熱力強く、一盃の石炭は能く十盃の水を沸騰せしめ、シーツア河西北端の
石炭は、脂分多く、良好なる骸炭を製造すべく、火力は百二十布度の石炭にして一
立方サーゼンの薪に比敵す。西部方面の炭質は全西伯利に於て最良質のもの
にしてその分拆成分左の如し。

灰	分	七・七一%
骸炭	分	七五・六二%

硫 黃 分

〇・三四%

揮 發 分

〇・三四%

發 熱 量

五五〇〇カロリー

無煙炭は第一號坑深さ五十二サーゼン、凝結炭は第二坑より採掘す。第一坑には二層あり。第三坑には六層ありて、其の内四層のみ現在採掘せらる。而して炭量は無煙炭半無煙炭六千七百七十六萬布度凝結炭三億六千九十六萬布度にして、總合炭量は實に四億二千百九十六布度なり、而して年額平均六百萬布度の産炭あり。

本炭礦は極東に於ける他の炭礦と異り、最新式の設備を有し、坑内にはウオリフ式安全燈を使用し、且つ數箇の換氣機を用ひて、瓦斯の爆發及坑内火災の豫防に努め、動力は凡て電氣及蒸氣に依る。本炭礦に於ける露天職工勞働者は、約九百人にして朝鮮人の勞働者は二百人あり。

本炭礦は當初陸海軍用として年額六百萬布度採炭の設計なりしが、蘇城狹軌鐵道開通し、四箇の峠を越て五箇の引揚機及架空輸送機をも備へ、設備漸次完成を告げ來り、今は年額千萬布度の輸送力を有す。

右の外烏蘇里、沿海兩礦山區の産炭地含炭地を擧ぐれば左の如し。

エレニンスキ―炭礦、ボソロシイウニイコフスキ―及イワーノフ氏の有にして、浦鹽斯德より五十五露里、キバリ―ソヲ待避驛附近に在り。

ノワヤナデージダ炭礦(坑夫二十六人)は米國人クラルクソン氏の管理する所なり。

アレクサンドロフスキ―炭礦はクラウツオフ氏所有にしてアムール灣岸にあり。

アンヒロゴフ氏の炭礦はスイフーン河に沿ひ、ニコリスクウスリスク市附近にあり。

ペルワレーチカ炭礦は浦鹽斯德附近マムール灣の西岸にあり。

マウヤトヤカリエフスキ―炭礦はウスリ―鑛業會社に屬しアムール灣の西岸にあり。

浦鹽斯德より九露里乃至四十三露里のアムール灣の西岸にはウゴリナヤ河に沿ひウグロイ村に近く炭礦あり。

アムール灣に注ぐアンバクル河畔の炭礦は

プリージテオウラークの附近及ウゴリノイバーデイ附近の二箇所にあり。
 マールイマンダカイ河畔ボバウオイ山アボ村にも炭礦あり。

タウリチヤンカ村附近、バラバーシイ村附近、ウスリー灣に注ぐセヂイミ河畔、
 テイロク岬に近きエクスベデイチヤ灣岸のボシエトスカヤ邑、ウスリー灣の西
 端にあるマイツン入江附近、シイコトヲ村附近、ウスリー灣に注ぐテムーへ河
 岸ネジノ村附近、ウスリー灣内カンガウス入江附近、トダーゴウ河岸、ウスベ
 ニカ灣及ブレオブラゼーニヤ灣の間に在るチエニユワイ灣に注ぐスズーへ河
 畔、オリガ灣並にブラストーン灣岸。

ウスリー鐵道のピキン驛より十露里乃至十五露里を距るピキン河畔、ウシヤ
 ゴウ河畔、マールロイルチヘツヅイ河畔、ボルタウスキー村附近、コンスタンチン驛
 附近、ウスリー鐵道のクロデコーフ驛より十六露里を距るソヒヤアシクセイフ
 カの兵村附近、リポウエツ村より八、九露里を距るホニヘサ河畔、ニコリスクウ
 スリスク驛に於けるベトロシイケウウイツチ及ウエルジイポーフスキー氏所
 有地内等に散在す。

ヤクーツク州に於ては石炭はレナ及アルダン河沿岸に之を産し、勘察加州に於て

はペンジンスカヤ及ギジギンスカヤ浦の沿岸に産す。即ちペンジンスキー灣よ
 りコウローフ邑に至る間と、オホーツク沿岸の諸所、及びパロンコルフ灣よりメチ
 グンスキー入江に到る間に多く擴布せらる。

樺太州に於ては西海岸の隨所に之を有し、ヅウイスキー坑を最良とす。

一般に西伯利に於ては年々約一億布度の石炭内七割は鐵道の使用に向けらるる
 を採掘し、アンヂエルスカヤ、チエルムホフスカヤ兩坑の産出を最とす。西伯利に
 於ける石炭業に従事する勞働者は一萬人弱とす。

二 鹽

鹽は西伯利に於ては鹹湖及鹹泉に産し、又は岩鹽としても存す。トボーリスク
 州に於ては鹹湖七十四個を有し、其大部分はバラバ殊にチスカリンスク郡内に在
 り。曠原諸州は自然の鹹湖に富み、五十二個内採取しつゝあるものは十五個に足
 らず、重なるをコリヤコウスコエ、カラスクスキー、カラバン等とす。國庫より借區
 せしめある三個の鹹湖を除く外、他は凡て無監督の儘地方のキルギズ及哥薩克族
 の採取するに委せられつゝあり。

セミバラチンスク州の鹹湖はイルツイシユ河の兩岸に位置する爲、其産物の販賣

上特に便利なり。特に鹹湖に富めるをパウロダール郡となす。同地方産鹽は、ト
ボーリスク、トムスク兩縣に輸出せられ豊富なる鹽を有するカラバン湖はセミバ
ラチンスクの西南方八露里の地に所在す。アクモリンスク州内の鹹湖は、曠原地
に在りて住民地との距離遠大なり、産額の大なる(約二百五十萬布度)はコリヤコウ
スコエ湖(パウロダール附近)なるも、其品質優良ならず(稍苦味を帶ぶ)。

セミバラチンスク州の鹽は北區パウロダール郡に最も多くして鹽湖より天
日にて製す、鑛山技師の報告によれば同郡内北方高原地に四十一の鹽湖ありと
云ふ、其中二十五はパウロダール市附近にあり、十一箇はイルツイシユ河の右岸
に、十四箇は左岸にあり。其製鹽は管に地方の需要を充たすのみならず、オムス
ク、トボーリスク、トムスク、ダール、バルナウール等の諸市に輸出す。而も鹽質善
良にして含鹽の多量なる湖はコキヤコーフ、カラスク、ウイシネフ、ポリシヨ
エタオルジャン、ダイコヌール、マラルダコー、ロヤムイセノフ、チャヤクシチン、ピ
シツース、ポリシヨエカルコマン、テミルツーズ、バラブ等なり、其内五箇は私有な
れどもコリヤコーフ、カラスク、ポリシヨエカルコマンの三湖は有稅借區にし
て製鹽千布度に對し四哥三、乃至五哥、其の他は食鹽の多少及交通の便否により

借區料を定めて貸下げ居れり。而も一九〇九年主なる鹹湖より收獲したる鹽
量は左の如く、四百六十九萬六千百箇五百三十九布度に上れり。

リヤコーフ	三、九七九、二四一	布度	ポリシヨエカルコマン	一〇九、八〇〇	布度
ボルシヨエタルジャン湖	二二〇、〇〇〇		ビンツーズ	二七四、一七〇	
カラコーク	一〇三、三二七				

南區にてはイルツイシユ河の右岸二五、左岸二六の鹽湖あり。其の内左岸に
あるカルカラバン湖は一年十一萬六百留一哥を以て露人に借區せしめしが、一
九〇九年の其製鹽は六十一萬八千布度なりき、此等鹽湖の外亞爾泰山脈地方及
セミバラチンスク市附近に岩鹽を産すれども未だ盛んならず。而して南北兩
區全帯に使用せられし製鹽人夫は、五千三百人内外、鹽一布度の價は現場にて十
哥乃至十八哥とす。

トムスク縣に於ても多數の鹹湖を有する(特にバルナウリスク郡内)も、鹽の採取
は唯ポロウオエ諸湖即バルナウリスク郡の西南部及ブルリンスク湖同郡の西
境附近に在り、周圍三十露里數百萬布度の鹽を有すに於て行はるゝのみにして一
九一一年中ブルリンスキー湖よりは九十八萬八千布度を採取せり。ポロウオエ

諸湖の産鹽は、バルナウルへ搬出し同地より更にトムスク及其以遠へ仕向けらるゝも、曠原商業の大道路に近接して所在するフルリンスコエ湖産鹽の輸出は、一層重要にして、一九一三年に於ける西部西伯利産鹽は、千百七十六萬七千六百二十九布度に達せり。

エニセイスク縣に於ては鹽はアナバラ河口、ツルハンスク地方トロイツク郡、ミヌーシンスク郡(タガルスコエ、ベイスコエ、シユネツ等の諸泉より出づる鹽の産所)等に産す。廣大なる一般市場に對する鹽の大製産は、セミバラチンスク州及本縣ミヌーシンスク郡内に於てのみ行はれ、地方市場に對する大製産は、西爾泰地方に於て行はる。西伯利一體に地方産鹽は専ら河川の便に依りてのみ輸送せられ、歐露よりの鹽の輸入は鐵道便に依りて益々増加し居れり。

イルクーツク縣に於ける主要なる鹽の製産地は、ウソリエ(イルクーツク市の東北地方)製鹽所にして同所に於ては鹹水より鹽を製産し其濃度は六度半より七度半(ポーメ氏の濃度計に依る)に及び其年産額は四十萬布度に達す。

其の他キレンスク郡内には、ウスチクツ河のレナ河へ會流する附近に年額僅に七萬五千布度を産せるウスチクツ製鹽所を有するも、後貝加爾及黑龍州に對する

輸出の途を欠如せるは、同地に於ける産鹽の發達を阻害す。ウソリエ及びウスチクツ兩製鹽所は孰れも官有なるも、イリマ河畔には民設の製鹽所(産額二萬五千布度)を有す。イルクーツク縣の産鹽は、年額百十萬布度(一九一四年)に達す。

後貝加爾州は良鹽に乏し。即ちトロイツコサーフスク郡内の蒙古との境界附近に於けるキランスコエ産鹽地(鹹井より汲取る鹹水)は有名なるも、セレギンスク郡内の諸湖に於ては低廉なる燃料なきが爲に、鹽の製産費は甚だ高價なり。製鹽は通じて約三萬布度を産するのみ。

ヤクーツク州内には鹹泉及岩鹽の産所を有し、レナ河の沿岸は鹹泉に富めり。其最北端に在るはストルボワの下流百八十露里のレナ河右岸にあり。ソリヤンカ河(オレクミンスクの下流二十五露里)は多數の鹹泉を有し、ナマン河及其支流ブングンニヤフ河岸に於て、又トンゴ河(ウイリコイ河の右支流)附近に於て鹹湖を發見し、同地より遠からざるクキスキル、ツースに於ては紅泥灰石より成る高き右岸より白色の岩鹽突出せり。十八世紀中葉より露國人の間に有名なる此の産鹽地は、其品質イレツク産鹽にも劣らざる良鹽なるに拘らず、今日迄未だ何人にも採掘せらるゝことなかりしなり。同地より三十露里下流のウイリイム河右岸には有

名なるケムペイヂャイスキ鹹泉あり。夏期恰も噴火口の如き形したる深處より湧出せる此の小流は、一度冬期に入りて酷烈なる寒氣に逢へば更に夏期溶融したる地層の上部凍結し、泉は定時的に噴水の如く約一サーゼン半の高度を以て殆んど飽和せる(二割五分)鹽の溶解物を放散せしめつゝ上方へ噴出す。

該溶解物は自然の貯水場に集積し、低き温度と蒸發の爲に元素的礦物クリオガリツ、クロナトリウムの水化物を形成す。同品は形狀整へる透明なる結晶體をなすを以て春期の温暖に逢へば崩壊す。其大なる堆積は、普通食鹽の積置所へ集積せらる。夏期中に乾燥し冬期穩道開通すると共に數千布度の數量に纏めて州内各地方の鹽販賣店に送附せらる。目下該鹹泉はケムベンダイ河底に横流せられんとする危険に脅威せられつゝあり。是れ同泉の噴出孔は春期河水の氾濫する際河岸を崩壊し、且つ右方偏倚して其河床を變換する河の水準線より僅々一サーゼンの高さに位置すればなり。

現時州内の人口稀薄にして交通不便なる爲鹽の採取は甚だ鮮く單に陝隘なる地方的需要の範圍に止れり。

黒龍沿海兩州及勘察加に於ては鹽の産地を見ず。一般に西伯利産鹽は西伯利

の技術的低劣と怠慢との爲、實に其採取量甚だ少きのみならずその質著しく粗惡なり。即ち漁業地に於ける魚類及牧畜地に於ける肉類に鹽を施す爲に、良質なる鹽を必要とするに拘らず、亞爾泰及キルギス産鹽は原始的の方法を以て製造し且つ之を所要の程度に精製を施さざるが故に之等に用ゐらるゝこと少し。ミヌーシンスキー産鹽亦殆ど之と同一なり。イルクーツク縣及ヤクーツク州に於ける製鹽は消費市場に至る安價なる交通を欠く爲に極めて制限せられ、イルクーツク縣後貝加爾黒龍兩州に於ては鹽價甚だ不廉なり。目下西部西伯利に對しては總額約五十萬布度の鹽を却て歐露及獨逸より輸入しつゝあるも、其域内に天然産鹽所の豊富なると、漁業及畜産物の罐詰用として其需要益々増加しつゝあるに依り、西伯利に於ける製鹽業は必然急速なる發達をなさざるべからざるなり。

三 硫酸曹達及硫化曹達

硫酸曹達はアクモリンスク州内コクイエタウスク郡の諸湖(約一萬布度)バルナウリスク郡(大小マルムキシヤンスキー兩湖約三十五萬布度)及トロイツユサフスク郡(キランスク鹹泉より)内に於て採取す。

硫化曹達はキルギス曠原の諸湖ミヌーシンスク郡のペーイスコエ湖ウエルフ

レンスク郡内(タバギキジュイ)等に夥しく産す。要するに西伯利内地に産する硫化曹達の量は地方の硝子其他の工場の需要額を著しく超過す。

四 石油

礦油は貝加爾湖の東岸及樺太(殊にオハ河沿岸)に於て發見せらるゝのみなるも、其他地方に於ても油脈の徴候を見ざるにあらず。されど未だ採掘の運に到らざるが故之が産出を見ざるのみ。貝加爾湖畔の石油鑛は最近の發見に係るものなれども有望なる將來を有す。

五 雲母

雲母はヤクーツク州後貝加爾州に於けるママ河(ウイテム河の支流)沿岸、貝加爾湖南端附近のブキストラヤ、スリュヂヤンカ兩河畔及アングラ河の支流たるタセエワヤ河并にカン河(クラスノヤルスク郡)沿岸等に散見す。雲母の採取は最も簡單且つ容易なるも、遠大なる距離と不良なる交通とは斯業の進歩を妨害す。

六 石綿

石綿の徴候はイルクーツク縣後貝加爾州トムスク縣カツウーナ河系及びウシンスク地方に於てもウサ河沿岸に之れを認め、其の採掘はミヌーシンスク郡内ア

バカン河の支流カムキシタ河沿岸に於て開始せられたり。

七 粘土

耐火粘土は西伯利の多くの地方に有するも之を營業するもの少し。

即ちキルギス曠原マリインスク、トムスク、クラスノヤルスク、カンスク諸郡内に行はるゝに過ぎず。イルクーツク縣ベーラヤ河(アングラ河支流畔)には陶器製造所に用ゆべき高麗粘土を有す。

八 寶石

寶石類は西伯利の各地に散在す。即ち紫石英はセミバラチンスク州のカルカラリンスク郡、エニセイスク縣及び沿海州内に産し、綠玉石はイルクーツク縣のツウングスカ附近に金剛石はエニセイスク郡に於ける大ビーツ河の支流(メリニノチナヤ河、小粒のもの)の沿岸に産し、紅玉石及貴石榴石は後貝加爾州、貝加爾湖の東岸バルグジンの南方に産す。此等の諸縣及後貝加爾州ウルリギンスキー連山及アツウン、チャロンに於ては、左の如き各種の寶石類に富めり、即ち瑪瑙、肉、紅玉、玉髓、綠玉、柱玉等なり。此内の或種類は沿海州内に於ても散見し、多數の綠軟玉はイルクーツク縣内に於てもチエレムホウの南方約五十露里の諸河畔オノ、ウリク河

等に産す。水晶は貝加爾湖の南端附近に、碧玉、白斑紅玉、綠石英は亞爾泰に産す。トバース、オパール等はヤクーツク州に於て豊富なるも未だ採取せられず。マンモス骨角は、レナ下流域に於て採取せられ、其量大らざれども本州輸出品として著名なり。一九一二年合計二千餘布度(價格約七萬五千留)を産出せり。

九 大理石、石灰石及石材

優良なる白大理石は、後貝加爾に於ける貝加爾湖の東岸及オノン、アルグン兩河系の沿岸に産し、又エニセイ河の上流アナズチエンナヤ村附近には灰色白色及び時としては班紋ある大理石を産す、建築用石材就中砂利石灰石は烏拉爾よりオビ河に至る間を除く外西伯利の到る所に之を散見す。

石灰坑及石材坑はイルクーツク縣及沿海州に於て最も盛にして、イルクーツク市附近には十四ヶ所の石材坑あり。オリヒ邑ウツーリエ邑マリチンスク邑には石灰石坑あり。ニジネウーヂンスク郡ツルイウススキー邑附近には、石灰坑二ヶ所、ウエルホレンスク郡カムイセツト邑附近三ヶ所あり。

沿海州にはグロデコーヲ石坑及石灰製造所、ニコリスクウスリスク石坑及石灰製造所名あり。更にウスリー驛附近には石灰石坑あり、花崗岩坑あり。スバース

キー村には、石灰坑ありて軍用に供し、スナルスキー村の石灰坑はボロヂニ氏の所有に係る。コルホクスキー驛附近へフチルスキー山中に純良なる灰色の花崗岩を産出するもの三坑あり。クラスナヤレーチカ村附近には石材坑と二箇の石灰坑あり。

一〇 硫黄

硫黄は亞爾泰地方及後貝加爾州(イリヂキンスキー採取所)に産し、勘察加州に於ては多數の硫黄坑を有す。同州に於てはバロシコフ灣の南、クロイツキ湖附近ウソイ噴火山に夥しく擴布せるを見る。

斯くて金屬及鑛物の豊富なる爲に西伯利は其域内に廣大なる工業を發達せしむべき凡ゆる條件を有するも、交通の不便、製産力の退嬰疲憊、地方企業者の技術的知識の欠如、就業心及資本の一般的缺乏、及外國市場への輸出困難なると共に地方市場に於ける需要を制限する、事等、其住民の文化程度の低き西伯利の一般状態は著しく之を阻害す。

然れども將來西伯利に於ける金屬及鑛物の製産は、歐洲に於ける此等の豫備の減少及外國市場との交通の改善に伴ひて必ずや甚大なる發達をなさざるべから

す。

第二章 有用植物の分布及び農林業

第一節 有用植物の分布

西伯利に於ける植物の分布を考察するに當りては、先づ天然地勢上の區別に就きて着眼するを必要とす。

凍土帯は無樹帯にして、地上一年の大部凍水に蔽はれ、草類と雖も之を見ること稀なり。オビ河口入江附近より東方に延び、タイムイル半島よりエニセイ、レナ河口附近に亘り、更にチュクチ半島の頸部に達し、一方スタンポイ山脈の頂部附近をオホーツク海岸線に並行して北緯六十度附近に迄楔入せり。この帶狀地域は唯一望蘚苔類に蔽はるゝのみにして、芝草と雖、之を發見すること難し。而して其の種類は、野苔、紅覆盆子、紅莓苔等なり。此の北氷洋岸の曠茫たる寒野も、春季の温風凍水を解かすに會すれば、蒼々たる一面の青苔に蔽はれ、馴鹿の群、食を逐ふて移行するを見る。之等蘚苔類は、西伯利に於ける百餘萬頭の馴鹿を養ふ所のものにして、其の經濟的價值も全く閑却するを得ず。

森林帯に在りては、嚴寒地の特徴として一帯に針葉樹多く、其の種類の如きも極めて豊富なるが如きも未だ調査せられたるものなし。されど旅行家探險家の記する所に依れば、柏樺、樺、滿洲松、紅松、唐檜、落葉松、赤楊、楊、楓樹の類なり。西伯利北部の樹木の限界地方に於ては、自然林なると氣候寒冷なるとにより樹木の高さ低く、偃松其他の灌木類の多くを見る。

西伯利全土に於ける森林の面積は、實に二億萬「デシヤチン」我が二億萬町餘に當るにして、自然の儘に委せられたる大富源をなし、建築材、燐寸材、紙材、燃料として必ずや世界の一大供給地なるべしと雖も、未だ開拓の手茲に及ばず、而も濫伐と山火事との爲めに、漸次其の富源を失ひつゝあり。殊に其の山火事の如きは、一度火を發すれば數年に亘りて鎮火することなしと稱せらる。以て其の鬱葱たる度を知るべし。

更に森林帯内にありては、地衣類多く、又菌類簇生し、食用植物を多く有せり。而も此の地帯は、其の地味豊腴なるが爲め、漸次移民の開拓の侵入を受け、此の地帯中にも多くの農業地域を有するに到れり。而して此の地帯内に生育するは、小麥にしてこは寒氣に堪ふるを得るが故に比較的北方に迄延伸せり。更に大麥、燕麥、ラ

イ麥、裸麥の類も採取するを得べし。

曠野帯は、西方ステップ(キルギス地方)には、廣大なる地域に渡りて樹影を見ず、一帯に丈低き刀禾科の草類密生し、漸次亞爾泰山若くは烏拉爾山地方に近づくに従つて、樹木を見るも、多くは松類及樺類なり。

サヤンスク、及び亞爾泰山地には、松、樺、檜の類多く、高度漸次高きに及び灌木類のみとなる。東部殊に極東地方に到るに従ひ山林漸次密となり、オホーツク海岸の如き、時に碧波の入江を蔽ふて密林の海邊に迄迫れるを望み、東方民族の無能無爲なるを嘲るの觀あり。

セミパラチンスク州に在りては、其の北部は樺、白楊の樹多けれども南に行くに従ひ樹木少なく終に全く曠漠たる原野となる。夏期は長からざれども燕麥、大麥及小麥を熟せしむるに足る。南部カルカラリンスク郡に到れば北境より直ちに曠漠たる原野と化し、多少の高低を見るも山谷共に矮小なる雜草あるのみにして樹木を生せず。北方イルツイシユ河を挟む沿岸地は一帯に農耕に適し、松樹多く草木到る所に繁茂す。亞爾泰山地方附近は、山間南向の地には能く小麥を産し、北向の地には燕麥、大麥、裸麥を産し、降雨少なき年は一般に穀類豐熟す。沼澤多く雜草繁

茂して人長に及ぶ。

アクモリンスク州は、全面積の二十分の一は雨量少なく水量に乏しく耕作至難の地域なり。北部は南部に比すれば地味豐饒にして樹木多し。小麥、大麥、燕麥及黍等を産し、菜圃には馬鈴薯、白菜、葱、瓜、西瓜等を生ず。草木は、北部に松、樺、柳、白楊等繁茂し、南部に到るに従つて樹木少く牧草多し。

トボーリスク縣には、僅かに全面積の三分の一のみ農耕に適し、ベレゾーフ、スルグート郡の如きは、全く農作する能はず、住民の多くは漁業及林業に従ふ。南部は農産物の主要産地にして、小麥、大麥、裸麥、燕麥、稗、馬鈴薯、蕎麥、豌豆、大麻、亞麻を出す。北方は漸次森林と沼澤と多く、オビ下流地は、蘚苔のみの凍土帯なり。

トムスク縣は、縣内黒土地方多く農耕盛んなり。北部地方は樹木多けれども、樺、白楊の類にして松、樺、檜の如き良材を出さず。而して耕地少なく牧草多し。漸次南部に到るに従ひ低地に松、樺の類を見、耕地には河川に沿ひ點々白楊の樹影を見る。更に南に到れば亞爾泰山の山地にして、河系は針葉樹を以て蔽はれ、ビー河岸は樺、松の類多く土地黃黑色にして牧草繁茂す。北部は小麥、大麥、燕麥、裸麥の穀類を出し、南部は更に之に麻類を加ふ。南部は菜園に富み、西瓜、胡瓜、白菜、葱、胡蘿蔔、大根

等成熟す。

エニセイスク縣は、土地中部西伯利を南北に貫きて存するが故に植物の豊富な他地方を壓せり。北方タイムルの凍土地方より南は亞爾泰サカンスクの南境に到れり。北部即ちツルハンスク地方は、北部は六年の九月氷雪に蔽はれ農耕不可能にして、唯蘚苔類を見るのみ、其の大部分は無樹帶なり。されど南部に到りて針葉樹林を成し、松樺檜の類を見る。されど全く穀類の産なし。漸次南に到るや、山林は通過すべからざる深林となり、針葉樹鬱々たり。小麥大麥燕麥裸麥馬鈴薯等を産し、牧草また甚だ多し、南部ミヌシンスク地方にては煙草の産近來見るべきものあり。

イルクーツク縣は、海に遠く高山多くして高原地、海拔平均千二百呎以上に在るが故に、寒氣甚しく植物の種類豊富なりと謂ふ能はず。されど到る所深林多く西伯利鐵道沿線の如きは其典型的なるものなり。エニセイスク縣と同じく、松、樺、楊の類に富み、農作物の類も、小麥、裸麥、大麥、蕎麥、粟、豌豆、大豆、大麻、馬鈴薯の類にして、葱、大根、蕪菁、胡蘿蔔、甜菜、白菜、胡瓜、西瓜の菜圃あり、ペーラヤ河岸にては粗悪なる煙草を産す。牧草はバラカンスク郡内最も多し。苜蓿、ウイカ、零陵香、エスバルツェー

ト、等野生せり。

ヤクーツク州は、最も乾燥せる大陸的氣候なるが、其の變化の關係より二部に區分さる。一は東部西伯利に於ける最大深林地方にしてヤクーツク、オレクミンスクの二郡及びウイリユイスク郡の南部ウエルホヤンスク郡の最南端なり。他は凍土帶にしてウエルホヤンスク、ニルイクスク、ウイリユイスクの北部之に屬す。前者は比較的氣候良好にして農牧地あるも、後者は全く之を缺ぐ。樹木は概ね松樺の類にして農作物は大麥を最とし、裸麥、小麥、燕麥之に亞ぎ馬鈴薯また多し。蔬菜類は胡瓜、西瓜の二種にして、牧草はヤクーツク、ウイリユイスク、オレクミンスクの三地方に多るも質惡し。

後貝加爾州に於ては、多く山地なるが故に樹木に富み、松樺の類に富み、紅落葉松、樺、榆、ハコヤナギ等、到る所に鬱葱たり。而して産物としては、裸麥最も多く、小麥、燕麥、大麥、蕎麥、馬鈴薯之に亞げり。其他麻作は有望にして、野菜の類亦豊富なり。

黑龍州は、後貝加爾州と大差なく、到る處松、落葉松、樺、榆、楊の類茂生し、果樹も林檎、梨、葡萄、李等形小にして肉少なしと雖も、本州南部セヤ、ブレヤ、アルトラ等の諸河岸に生育す。農産植物は、裸麥、小麥、燕麥、大麥、蕎麥、稗、豌豆、玉蜀黍、馬鈴薯、日廻、大麻、亞

麻等を有す。又蔬菜類はセヤ河口及都會附近に近時盛んに栽培せられ、其の種類には白菜、葱、人参、甜菜、大根、瓜、西瓜等あり。煙草も生ずれども未だ其の作付を見ず。牧草は一體に生育過良なり。

沿海州は、全面積の六分の五以上山岳丘陵に屬せりと雖も全然不耗の地は甚だしく狭小なり。殊に本州は西伯利に於ける雨量最多の地方なるが故に、全州草木類蒼葱たり。樹木は松樺類の他柏、樺、樺、胡桃、バルハルト、白楊、菩提樹の類生育す。農産植物又種類甚だ多く、裸麥、小麥、燕麥、大麥、稗、玉蜀黍、蕎麥、豌豆、馬鈴薯、甜菜、大豆、大麻、亞麻、甘藍、煙草、西瓜類、白菜類、チユミーザ類生育す、而して南部烏蘇里河上流沿岸より凱興湖附近及朝鮮滿洲界に近き一帶即ち烏蘇里の平野は農牧業地にして、黒龍州界より黒龍江口に到る流域及烏蘇里河口より上流三四十露里一帶の地方は林業地域なり。

樺太州は、全島悉く森林と稱するも不可なき迄樹木繁茂し、杉、赤松、落葉松、樺、赤楊、樺、榆、ハコヤナギ、及柳の類多く、農作物には、小麥、裸麥、燕麥、馬鈴薯、葱、人参、大根、西瓜、白菜等生育し、其の地味の豊饒にして農作物の發育よく、其の種類に富むこと、全西伯利に於て有數の地域に屬す。

勘察加州は苔蘚地帯多く概して樹木富裕ならず。オホーツク海岸の東南部は、沿岸にも樹木多く、ヤブノロイ山脈に近づくに従ひ針葉樹多し。勘察加半島の西岸は沿岸遠く樹木を見ず、十露里乃至二十露里にして樺及楊樹の林あり。東海岸は沿岸より針葉落葉の諸樹を散見し、奥地に進むに従ひ繁茂す。チユクチ半島に至れば蘚苔の地多く樹林大ならず。農作物は、ペトロパウロフ市を距る四露里の農事試験場の實驗する所に依れば、烏蘇里及瑞典産の大麥、裸麥、燕麥、馬鈴薯、玉菜、胡瓜、蕪等時に依りて收穫するを得れ共、定時的農産物收納は期し難しとなり。南部アヤン附近に於ては稍農耕に依り食用植物を得べしと雖も有望なるものにあらず。

第二節 農業地域の地理的分布

西伯利は地域尨大なるに拘らず、殖産的農業を行ひ得る地域は、黒土及概して比較的肥沃の地層と温和なる氣候を有する前掲の低地及河谷に限定せらる。西部西伯利に於て、凡そ北緯六十度に達する北方に於ける鬱林及五十度に達する南方に於ける曠原は、農業に對して不可抗的の障壁を築けり。東部西伯利殊に沿黒龍州に於て、農業地域は比較的南方に展開せるも、北方に對しては否らず。西部西伯

利の北部に於ては、純農業的部分に對し左の如き半農半工の諸地域隣接す。即ト
ボーリスク、ツウーリンスク兩郡の南部及ナリキムスク地方の南部是れなり。東
部西伯利に於ける之と同一の地域は、エニセイスク、キレンスク、ウエルホレンスク
諸郡の南部及びヤクーツク州の西南部なり。最近其農業を著しく發達せしめし
はヤクーツク州殊にオレクミンスク、ヤクーツク兩區及びウイユイスク區
にして、一九一二年中同州に於ける食糧用穀物の作附は一萬七千五百四十四デシ
ヤチン即ち春蒔の裸麥及び大麥各七千五百デシヤチン、春蒔の小麥二千五百デシ
ヤチンに達し、全作物の過半はヤクーツク區之を占め、之に亞ぐをオレクミンスク
ウイユイスク兩區とす。ヤクーツク州に於ける農業の發達は、森林の爲に土地
の清淨困難なると、嚴寒の到來早く降霜久しきに亘ると、更に地層概して疎薄且つ
培養力弱きとの爲に妨げらるゝも、熱と光(化學的光線の作用)の潤澤なる事は穀産
植物の極めて急速なる成長と成熟とを助成するものあり、之を例へば同地に於て
小麥は七十三日乃至八十六日を以て成熟するも、歐露の東部諸縣に於ては九十七
日乃至百八日、又イルクーツク郡に於ては百一日を要す、故に同州に於ては、地勢海
面より著しく高くして小麥の屢々早寒の害を被る地方の爲に、種子用穀物を培養

するも亦一策ならん乎。ヤクーツク州に於ける播種は五月一日乃至十日、刈入れ
は七月二十日乃至八月一日の間に行はれ、良作の年に於ける小麥の收穫は約五倍
(播種量の)裸麥は約六倍とす。同州の農夫は其土地の種子を尊重するを以て甚し
く之が缺乏を感ずる事あり。蓋し種子用穀物も亦食用に供せらるゝが爲なり。
全作附反別の半數以上はヤクーツク族に屬するが、最近二ヶ年間は乾燥と蟬の發生
との爲にヤクーツク族の農業不作なりき。馬鈴薯、蔬菜及燕麥は北半球の寒極と認
めらるるウエルホヤンスクに於てすら發育するも、同地に於ける農事は單に娛樂
的の性質を帶ぶるに過ぎずして、温床的農業のみ可能なるスルグツ、ベリョゾフ
及ツルハンスクに於けるが如き職業的の意義を有せず。夏期生育期に於ける氣
候は勘察加に於ては極めて濕潤にして晴朗なる日僅少なる上、常に海面より寒風
の吹き來る爲に、農業は全然不可能にして、僅に甘藍、蕪菁及馬鈴薯の栽培のみ之を
なすべし。

沿海州に於ける穀物の耕作は同地方に於ける露國人の増加と共に益々發達し
つゝあるも、現在に於てすら小麥の作附反別は漸く四十萬デシヤチンに達するや
否や疑はしき程なるを以て、同地方は其の食料用として滿洲より七百五十萬布度

以上の穀類を輸入せざるべからず。同地方に於ける小麥作の極めて良好なる状態を尠からず妨害するは、夏期の土壤の濕潤なるが爲に時として麥穗に「蒼」又は淡紅色の斑點狀をなしたる特殊の菌を生ずる所謂「醉ふ」たる穀物の原因たり事あると、屢々穀物の甚しく乾燥する事にして殊に夏期に於ける空氣の極端に乾燥せることは、穀物の種子をして良く充實せしめず、且つ穀類の發育を害して之を麥稈内に窘壓し、爲に穀粒は粒小く輕量にして皺を有するに至るを常とす。森林を開拓して耕地となさんとするに、多大の勞力と雜費を要し、而かも強風一陣穀物を荒らし、又農業に最も便利なるべき河谷に於ける不時の洪水が耕地に泥土を齧し、又は穀物を全然壓倒すること珍しからず。一九一二年イマン、ビキン兩河の河谷に於ける洪水は、其土地の移住農民を全く離散せしめたるが如き一に之がためなり。最近沿海州に對する滿洲產穀物の輸入を禁止すべく決定せしが、此の處置の直接の結果として招徠されたる沿海州に於ける穀産物の暴騰は、唯西部西伯利よりする同地への穀産物の特典的輸送に依りてのみ抑止し得べく、併も此の場合に於ても唯鐵道が損失を虞れて其輸送を行はざるに於ては、輸送の距離遠大なる爲従來に比して更に若干穀價の騰貴を招く事とならざるを保せず。

之と全然異りたる原因即ち濕氣の極端なる缺乏の結果は、西部西伯利の曠原地たるアクモリンスク、セミパラチンスク兩州の比較的南部に於ける農業有望の度を減殺する所少しとせず。兩州に於ける降雨は之を最も必要とする六月の交に於て特に尠く、兩州に於ける肥沃なる地區は、其地層の性質上人爲的灌漑、人畜の飲料用としての「雪溜」及除雪等の設備なからんには、歐露よりの移住民は速に該地の耕作法に慣熟する能はずして途方に暮るゝ外なかるべし。

西伯利の作附反別、一九一二年西伯利にては五百八十四萬七千デシヤチンに食料用穀物(通計して)を播種せり。即ち西部西伯利三百四十三萬デシヤチン、東部西伯利六十七萬デシヤチン及曠原地方ツルガイスク、セミレチンスク兩州を含む七百七十四萬七千デシヤチン(露國全體に於て約七千六百萬デシヤチンなり)にして、其收穫は二億五千五百五十八萬七千布度露國全體に於ては四十億布度以上に達す。内西部西伯利は一億五千五百七十八萬七千布度、東部西伯利二千七百七十五萬八千布度、曠原地方は七千二百四萬二千布度を獲しが、同年西伯利に於ける食料用穀物の收穫は左記の如く前五ヶ年間(一九〇七年乃至一九一一年)の平均收穫に比して三倍半強の増收を見たり。即ち西部西伯利に於ては二千九百一十一萬四千布度

(十三割九分)東部西伯利に於ては百四十一萬四千布度(十四割七分)、又曠原地方に於ては三千六百四十九萬八千布度(七割三分)とす。今此の増加率(平均十二割五分以上)を各州縣別に示せば、アクモリンスク三十二割、露國內の如何なる地方と比較するも之に勝るものなし。セミバラチンスク十七割三分、トボリスク十四割八分、沿海十四割八分、エニセイスク十三割三分とす。

西伯利に於ける春蒔の穀物か、其土地の氣候的條件就中四季の雨量の配分上左表に現はるゝ所を見れば、其の卓越せるを知るべし。

秋蒔穀物に對する春蒔物の割合

セミバラチンスク	九割九分一厘	アクモリンスク	九割九分一厘
ヤクーツク	十割	黒龍	十割
後貝加爾	九割八分四厘	沿海	九割八分八厘
トムスク	九割一分一厘	トボリスク	八割一分一厘

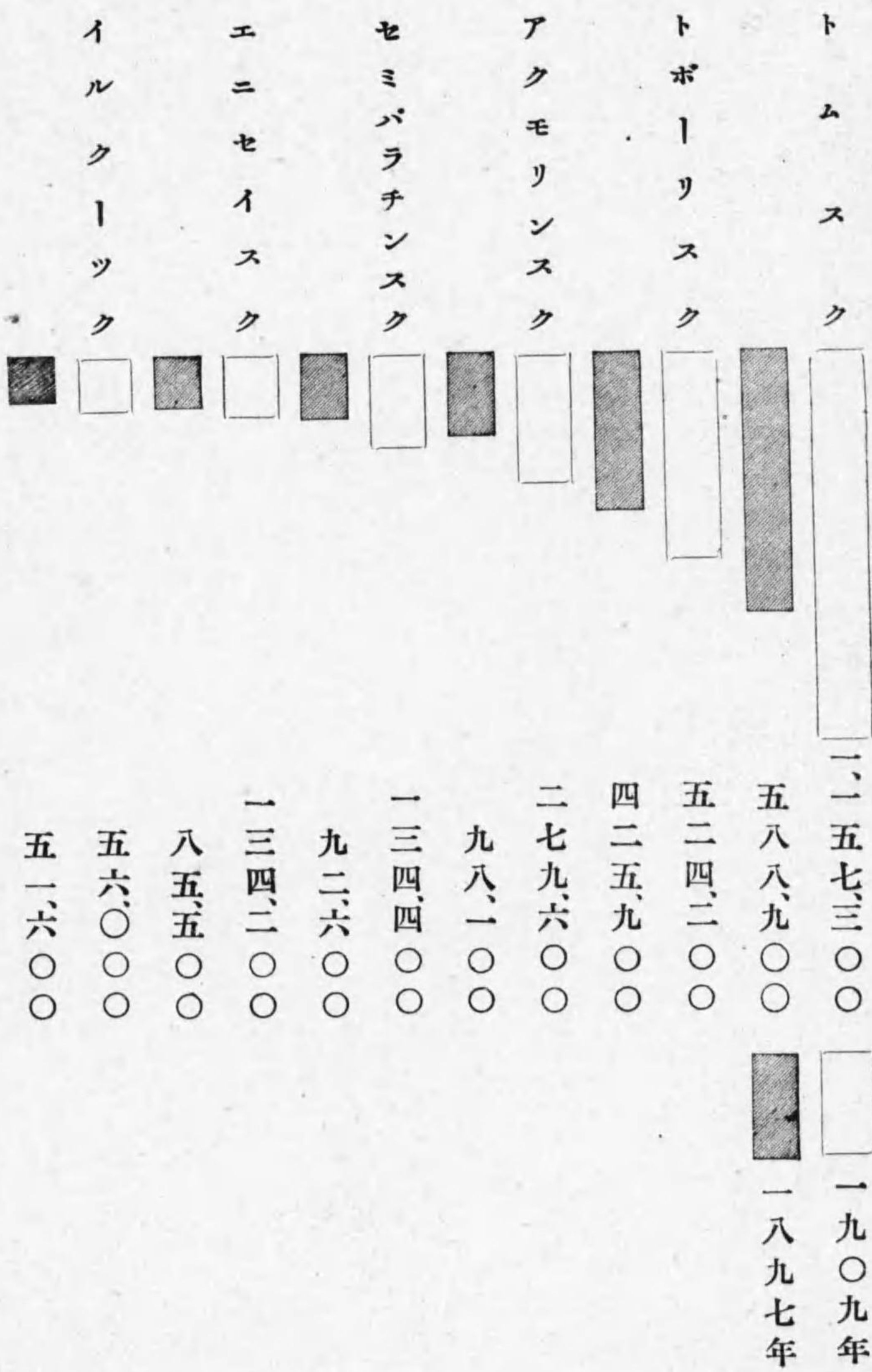
西部西伯利に於ける秋蒔裸麥は僅に五十八萬三千デシヤチン、同小麥五千デシヤチンにして、東部西伯利に於ては裸麥六千デシヤチンを有するも小麥は全然耕作せず。

一九一二年に於ける春蒔小麥及裸麥

州縣名	作附反別(デシヤチン)		收穫(單位一千布度)	
	小麥	裸麥	小麥	裸麥
トボリスク	五一六、一二三	二二、三九七	二八、一三三	一、一七九
トムスク	一、五六一、六三二	八二、五一三	六二、三五九	三、七〇六
エニセイスク	一四一、七五八	六二、二六九	五、九八五	二、九七一
イルクーツク	四七、三四九	九四、六八四	一、五一〇	三、〇八五
黒龍	一三七、七四五	四、六六七	八、六三七	一、七五
後貝加爾	五三、七九二	一八九、六二九	一、八二三	六、五九八
沿海	九二、一三四	九、二二一	五、二五五	六一六
ヤクーツク	二、五八六	七、四八六	八八	二八〇
アクモリンスク	五八七、六一六	八三四	二六、〇六六	三八
セミバラチンスク	一七七、三七八	六、〇一〇	七、〇八三	二一九
合計	三、三六三、〇六三	四八一、六八三	一四七、〇一〇	一八、七六八

作附反別の増大が移民運動の發達と關係ある事は容易に看取し得べく、殊に小麥作附反別の増加を看ば、明瞭に之を現はし又之に依りて各州縣別の移民運動の發達をも比較する事を得べし。

小麥作別反別の増大



トムスク縣に對しては同期間百九萬四千人の移住民渡來せしに依り、同地に於

ける小麥の作附反別は九十萬七千五百デシヤチン(殆ど十割)を増加し、之に類似せる増加はアクモリンスク、セミバラチンスク兩州及エニセイスク、イルクーツク兩縣の關係に於ても之を認むる事を得べく而かも同一期間に合計千八萬人の移住民を見しトボーリスク縣に於ては、小麥の作附反別は僅に三萬四千七百デシヤチンを増加せり。此の十三年間に西伯利全體に於ける小麥の作附反別は七割方増加せしが、一九〇九年以降西伯利への移民運動は著しく減少せしに依り、同地方農業の發達も最近に於ては從前の十三年間に於けるが如く爾く急速ならず。

播種用穀物を除きて之れを考ふるも、一九一三年に於て、西部西伯利に於ては一億二千五百萬布度、東部に於ては二千二百萬布度及曠原地方に於ては六千三百萬布度即ち合計二億一千万布度の穀類を殘存せるが、一九一二年に於ける各州縣の住民一人當の殘高は次の如き數字を表はせり。即ち黑龍州三十四布度、トムスク縣十九布度、アクモリンスク州十六布度、エニセイスク縣十五布度、沿海州十三布度、イルクーツク縣十二布度、セミバラチンスク州九布度、後貝加爾州七布度、ヤクーツク州一布度半(トボーリスク縣は記載なし)従つて若し住民一人當十五布度の數字を基礎として考察せば、一九一二年に於てはイルクーツク縣及沿海、セミバラチン

スク、後貝加爾、ヤクーツク諸州より穀類を輸出すること全然不可能なるのみならず、却つて其輸入を要求せるものと云はざる可からず。一般に於て同年に於ける食用穀物の過剩額は、西部西伯利千八百五十萬布度、東部西伯利七百七十五萬布度、曠原地方六百五十萬布度、即ち合計三千二百五十萬布度にして、此の額は外國市場へ輸出し得るものなるを以て、若し之に當然殘餘を有すべきトポールスク縣の分を加へんか、前記の數字は一層増加せざるべからず。

西伯利に於ける爾餘の穀物の普及は、一九一二年度に於ける左記資料の示すが如く極めて微々たるものなり。獨逸小麥はエニセイスク縣に最も多く普及し(三千百二十一デシヤチン)、トムスク縣(九萬二千デシヤチン)、イルクーツク縣(三萬デシヤチン)及後貝加爾州(二萬六千デシヤチン)に多く、蕎麥は沿海州(三萬デシヤチン)後貝加爾州(二萬六千デシヤチン)、トムスク縣(二萬四千デシヤチン)稷はトムスク縣(三萬九千デシヤチン)及セミバラチンスク州(三萬七千デシヤチン)、玉蜀黍は沿海州(二千五百デシヤチン)にのみ栽培せられ、豌豆はトムスク縣(一萬六千デシヤチン)に多く、大豆は沿海州(四千七百八十三デシヤチン)、燕麥はトムスク縣(八十九萬七千デシヤチン)、トポールスク縣(三十五萬デシヤチン)、黑龍州(十四萬千デシヤチン)、エニセイス

ク縣(十一萬デシヤチン)、アクモリンスク州(九萬六千デシヤチン)、扁豆はトムスク縣(百七十デシヤチン)、アクモリンスク州(百八デシヤチン)に多く、馬鈴薯はトムスク縣(五萬八千デシヤチン)、トポールスク縣(一萬七千デシヤチン)、アクモリンスク州(一萬五千デシヤチン)、エニセイスク縣(二萬三千デシヤチン)、沿海州(一萬デシヤチン)等に最も多し(上部數字は孰れも端數を略せり)。

第三節 農耕法及穀產業

一、西伯利に於ける農耕法

遊牧民遷住地に對する家畜の適應以外(正確に言へば農業)草刈場及定住所の無き爲めに人類の家畜に從屬するを特色とする牧地制度は、西伯利に於ては極北部及東北部に於ける異種族民の間にのみ純乎たる形態に於て現存す。曠原地方のキルギス族の間に於ては同制度は既に其純粹を失ひ、彼等は凡て定住的冬舎を有し、多數の者は冬期用として乾草を貯藏し且穀類の播種をすら行へり。鬱林地方に於ては、草燒(田地用として森林を清除する爲燒く事)及更に一層普及せる「枝下し」(樹木より樹皮の一部を剥ぎ取るを以て樹木乾萎し従つて容易に伐採せらる)を特徴とする森林耕作制度最も汎く行はれ、此等の方法に依りて「平地」の開豁地及田地

をも設定し得べきベリユクを得るものとす。然れども西伯利に於ける農業の最も盛なる部分に於ては、黒龍沿岸の多數地方に於て見るが如き(野蠻極まる)不整頓の方法より最も典型的の形式たる三耕法に於ける煖床生禾穀に至る迄の各種の方法を有する耕地休閑制度盛に行はる。純乎たる方法に於ける休閑制度(五六種の穀物を連作して十五年休耕する)は往時西伯利の農業地方の全部に普及し居たるも、時日の経過に伴れて移民運動の發達と地方住民の自然的増殖とに従ひて土地の寛濶は縮少し、同一土地に於ける連續播種の數は益々減少(三四種の穀類を連作して六年乃至十年間休耕す)せしが、西伯利鐵道幹線の開通と共に西伯利農作地の住民は一層急速に増加して土地使用の自由縮少するに至り、特に外國市場に於ける西伯利産穀類の需要増加し且つ農業機械の利用旺なる結果耕地の急速なる擴張を促す事一層甚しきに至り、此の過程の結果として休閑期の一大短縮を見るに至れり。例へばトムスク縣に於ては既に之を三年乃至二年更に甚しきに至りては一年間とするものすらあるに至れり。多くの地方に於ける農夫は三耕法を行ふ結果、曠原地の草刈場は當然消滅する譯なるを以て、家畜用飼料栽培地を有する事なし。此事象は自然地方に於ける飼料草の改善に依り草種播種の普及及各

地方に最も適合せる多耕草栽培制度の實行を慫慂せずんばらず。トボーリスク縣に於ては、三耕法に對する過渡の方法として班耕法を認む。同縣北部の農業地たる諸縣に於ては收穫高を三割或は十二割方すら昂上せしむる施肥法益々普及するに至れり。沿海州に於ては著しき面積の自由なる土地を餘し且つ人口の稀少なる爲、専ら不整頓なる休閑法行はれ居れり。東部西伯利の諸農業地方に於ては専ら休閑制度のみ行はれ、其の進化の度は未だエニセイスク縣、ミノーションスク、アチンスク、クラスノヤールスク諸郡及びイルクーツク縣のイルクーツク、バラガンスク兩郡等の人口多き地域に於てのみ之れを見るべく、沿海州殊に南烏蘇里地方に於ては、露國人の耕作休閑制度に對立する支那人及び朝鮮人の「併列法即ち畦式」耕作法の遙に良く黒龍沿岸の最も多濕なる氣候に適合せるを見る。此法は入念に耕鋤されたる耕地を自十二ウエルシヨク至一アルシンの間隔を有する併行せる畦と成し、各畦間は毎年之を交代せしむ。之に依れば過剰の水分は溝へ落下し、地層は夥しく衰耗する事なく、又畦間の鋤耕は良好なる風化の作用をなすものとす。然るに支那及朝鮮人の耕作事業は單り一畦式栽培法を用ふるが爲めのみならず、彼等が肥料を使用し且つ耕地の大部分には禾穀のみを栽培せず、大豆、粟、高

梁及玉蜀黍を栽培し、其間には西瓜、胡瓜、甜瓜等を作るに依りて、更に一層確實なり。大豆は其根に窒素を蓄へて地層を培養し、莠草の繁茂するを防ぎ、且つ地層を輕鬆ならしめ以て禾穀の播種に準備す。其他支那人及朝鮮人は良く特選清掃したる種子のみを用ふるに、露國人の之を行ふ事なきも優劣の分岐點をなせり。黒龍沿岸に於ける勞銀騰貴の場合、支那人の耕作法に於て特有なる手先の勞働に代ふるに、プラネット手押鋤耕機及馬匹牽引犁又は更に一層有利なる機械の結果を以てする事能はざる限り、露國農業者は經濟上到底之を凌駕する事能はず。

尙播轉法耕作の順位に關して、西部西伯利の農業地方に於ける第一の穀物たるは小麥(裸麥は往々少し)にして、第二裸麥、第三大麥とす。東部西伯利及黒龍州に於ても此の關係に於ては西部西伯利と特別の差違ある事を認めざるも、南烏蘇里地方に於ては小麥と共に第一の穀物として蕎麥の栽培さるゝを見る。

西部西伯利に於て最も弘く耕作さるゝ穀物は小麥にして(穀類全體の四割乃至五割)其種類左の如し。即ち硬質のものはクバンカ、ペロツールカ白及紅コロスカ等にして、特にセミバラチンスク州及ピースク郡に於ては稍品質劣れるペンローヅにも亦著しく普及し居れり。軟質のものは所謂露西亞小麥にして、概してトポ

ーリスク及トムスク州に盛に栽培さるゝ品種なり。而してこの西伯利産小麥の性質に關して、トムスク大學に提出せられたる醫師バウスキー氏の學位論文の記述する所によれば、西伯利小麥は最も主要なる營養成分たる蛋白質一七・二六%を有し、此點に於ては歐露産小麥の一七・八七%と伯仲の間にあり。且含水炭素を含むこと歐露地方産のものより尠きが故に、寧ろ品質優良にして、乾燥充分なる點に於ては水分一〇・七%にして、歐露産小麥の水分二・二一%に彷彿たり。

之に亞ぐは燕麥にして、更に之に亞ぐを裸麥とす。收穫率は西部西伯利の農業地方に於ては、平作の場合、マデシヤチンに付六十布度、トポリスク縣の南部及トムスク縣のバルナウリスク、ピースク兩郡及エニセイスク縣のミノーシンスク郡に於ては七十乃至八十布度に達す。特に豊作の年に於ては此等の地方は一デシヤチンに付二百布度又は二百五十布度をすら收穫する事ある程なるに關はらず、近年收穫率減少の愁訴を聞くこと屢々なるは、全く一般に休閒期の短縮と早魃頻々たるが爲めに外ならざるべし。黒龍沿岸に於ては平作に於ても一デシヤチン六十布度以上を收穫する事なく、同地方に於ける土地耕鋤期間の長きは收穫率に悪影響を及ぼすものなり。烏蘇里地方に於ける支邦人の穀物は、一層收穫率高く

粟百布度、玉蜀黍八十乃至百布度、大豆七十五布度(平均)を得つゝあり。

西伯利に於ては穀物の生産力を増す人爲的方法を講ずる事甚だ尠く、人工的灌溉はセミバラチンスク州の南方に行はれ居るも、露國移民は耕作法に於てキルギス族傳來の例に倣ふに過ぎず。ミヌシンスク郡に於ける農民(例へば「猶太風」と稱せらるゝ住民地たるユヂイノイに於ける)は、灌溉用溝渠を通じ、後貝加爾に於けるブリヤート族も若干地方に之を設置せり。除雪の最初の實驗はバウロダル郡に於て行はれ、施肥はトボリスク州トボリスク、ツウリンスク兩郡内に於て使用せらるゝに至れり。

二、農業用機械

農業用機械は最近西伯利に於て甚しくその普及を見るに至り、一九一三年には農具及其豫備部分の製作并に修理に従事する工場十三個及倉庫七百六十七個を有し、西部西伯利に於て其數特に甚しく、殊にビースク、バルナウリスク、ズメイノゴルスク諸郡の若干村落の如きは各數個を開設し居る有様なり。其他オムスクには二十九個、セミバラチンスクには十三個、ウスチ、カメノゴルスクには十一個、クモリンスクには七個、ノウオニコラエウスクには十個、ビースクには十五個、バルナウールには十二個、クルガンには九個、ミヌシンスクには六個、クラスノヤルスク

クには五個、知多には十二個、イルクーツクには五個、浦鹽斯德には六個、ブラゴウエシチエンスクには七個、トムスクには六個の倉庫を發見するを得べし。倉庫數の多少は近接地域に於ける農業の發達程度を表明するものにして、倉庫數の四分の一強は露國移民廳に屬し、一八九八年に於て僅々二十個を有するに過ぎざりし同廳も、一九一三年に至りては既に二百十四個を有するに至れり(十四年間に三千七百五十萬留の農具及種子を販賣せり)。爾餘の倉庫は個人企業及地方産業組合(西伯利製油業組合に屬する同組合は、西伯利に於ける最初の勞働組合にして、唯トムスク縣内にのみ二個を有す)に屬す。倉庫數に依りて露國移民事務局と相競ふは米國に於ける萬國收穫機會社にして、倉庫及工場の数に於て首位を占むるはトムスク縣(一は二百四十個他は四個なり。往時鋤及耙を唯一の農具とせし西伯利に於て、其後ペルミヤンカ(犁の一種)を使用するに至りしは他なし、地層軟弱にして深く開墾するを要し、殊に莠草の除去に格段の注意を要する西伯利に於ける開墾事業は堅牢にして充分なる重量を有する犁を要すればなり。西伯利に於ける農業用機械中最も良く販賣さるゝは、簸淨機、總打機、就中收穫機なるが、作附地の廣濶なると收穫及刈入期に於て勞銀の騰貴すると、穀物收納期の短時日(殊に沿海州に於

て夏期快晴なる天候稀なる爲なるとは、西伯利に於ける農業機械の需要を増大ならしむるに與つて力あり。草刈機は冬期用として枯草の貯藏をなすキルギス種の間にもその需要を見出しつゝあり。一九〇九年中西伯利は四百九十六萬六千布度の農業用機械を輸入せしが、内著名なる仕向地はノウオニコラエウスク(百二十五萬布度)及オムスク(九十一萬五千布度)なりき。

第四節 蔬菜及牧草

一、蔬菜栽培業

蔬菜栽培業はイルクーツク縣内大市邑の附近即ちアレクサンドロフスク、バラガンスク、キーレンスク諸郡内に於て、盛に行はれ、諸採金所及ヤクーツク州の一部は蔬菜の供給を皆之に仰ぐ。西伯利に於ける瓜類の栽培は夏期の氣候的條件が南露と酷似せる諸地方に於てのみ普及せるが故に、南露よりの移民セミパラチンスク州、カクモリンスク州の一部、ミヌーシンスク郡及亞爾泰山麓(特にバルナウリスク郡内)等に誘致せらるゝもの多し。セミパラチンスク州産西瓜及甜瓜は西伯利内に其名高く、ミヌーシンスク、バルナウリスク兩郡の西瓜は甘味を推さるゝもその形小なるを憾むべしとなす。夏期に於ける温度と光線との潤澤なるヤクーツクに於ても西瓜の栽培有望なれど、同地方にては、間々好事的に之をなすものあるに過ぎず。

二、煙草の栽培

煙草の栽培はセミパラチンスク州内(パウロダルスク、セミパラチンスク及ウスチ、カメノゴルスク郡内)の胡索族の間に多少普及せるを見れども、其目的とする所キルギス族に之を供給するにあるが故に、其規模甚だ小にして單に三百乃至四百デシヤチンの栽培をなすに過ぎざれば、歐露輸入煙草と競争するに堪えず、地方煙草栽培業は之が爲めに次第に絶滅に歸せんとしつゝあり。ピースク郡に於ては亞米利加煙草を試作し、今やその栽培地域約百デシヤチンに及ぶ、同郡に於ては此外土耳其煙草の試作をも行へり。又ミヌーシンスク(三十七村落に於て)、アチンスク(五村落に於て)兩郡に於てはマハルカ及バクーン種を栽培し、尙イルクーツク縣の一部及烏蘇里地方(ビキン河畔)に於ても煙草の栽培を試むるものあれど、同地方の氣候的條件は同品の栽培に適應せざる爲成績思はしからざるが如し。西部西伯利の煙草栽培業は鐵道開通の打撃をうけて著しく不良となり、往時は一デシヤチン百三十五留以上の収入ありしも昨今は低下して四十五留を超ゆる事なし。

三、甜菜の栽培

甜菜の栽培は氣候的條件より見てミヌーシンスク、バルナウリスク兩郡内に於ても可能にして、同地方には前世紀の八十年代及九十年代に於て早く甜菜の製造所を有せしが、交通不便にして消費市場と隔離せると運轉資本不足との爲に閉鎖するの餘儀なきに至れり。カンヌク郡内及びシエリスビハ(トムスク縣ズメイーゴルスク郡附近)に於ける白ブルラクの試作は成功し、一デシヤチンより糖分約二割二分を有するもの約二千布度の收穫を得るに依り、チング氏の如きは同地に砂糖工場設立の爲一千デシヤチンの土地を租借し、且つキエフスク、ハリコフスク兩縣よりの移民を多數に混ざる地方住民等は好んで甜菜の栽培に努力し居れり。

四、牧草の栽培

西伯利に於て始めて牧草を試作せしは二十世紀初頭にして、當時ヤルトローウスク郡オムーチンスカヤ郷の農民等はリユーガル、ヤハズエンドウ、アハガヘリ等の播種を試みしも、久しからずしてその土地の氣候的條件に適せざる事を見出せしため之れを中止するに至れり。然れども油脂製造業の發達と牧草生育地面積の減少とは、西部西伯利即ちピースク、クズネーツク兩郡内に新なる牧草栽培の企圖

を喚起し、一九〇七年に於て之を見るに、前者に於ては一デシヤチンより約三百布度の苜蓿を收穫し、後者に於ては四百布度を得し程なるが、其栽培地は三百デシヤチンを超ゆる事なかりき。黒龍沿岸地方は從來牧草の栽培に成功せざりしが、同地方に於ては牧草に代ふるに燕麥を以てし、今尙ほ盛に之れを刈り取りつゝあり。西伯利各地の爲に之れを謀るに、向後最も良く其地方に適應する牧草を發見せざるべからざること勿論にして、現下の状態にては先づ其地方に於て最も良好なる野生の飼料用植物を選擇し之が改良より始むることを急務とせざるべからず。思ふに西伯利の地層に最も良く適應するは瑞典産リユツエルナ、ジツニヤク、リユーガル及び野生のエスバルツエト等なるが如し。

第五節 園藝及林業

一、果樹の栽培

西伯利に於ける果樹の栽培は、一時的とせば或一部の地方に於て之に對する有利なる氣候的條件を見出すことなしとせざるも、一の永久的事業としては之を期待すること難しとなす。形状小にして酸味ある野生の櫻實は、トボーリスク州のクルガンスク、チユメンスク、ヤルトロフスク諸郡及びミヌーシンスク郡(テシンス

カヤ郷に於て(丙)に散見すべく、クルガンスク郡内及ズメイノゴールスク郡の一部(エゴリエフスコエ村)に於ても之を産業的目的(ジャム及果實酒)を以て栽培し居れり。ピースク郡内の諸村落に於ては左して上質ならざる果實を生ずる林檎樹を栽培し、更に一層大陸的な氣候を有するミヌーシンスク郡内に於ては、果して早春の暖氣に依りて生じたる林檎及梨の樹葉、嫩芽及花が晩春の余寒(時としては五月末に於てすらあり)の爲に害せらるべきや明にして、産業的果樹栽培の發達すべきや否や疑なき能はず。南部烏蘇里地方の野生果樹即ち林檎、梨、杏、野櫻子、胡桃及葡萄等は接樹に依りて之を改善すること難く、冬期に於ける酷寒と夏期に於ける極度の濕氣とは産業的果樹栽培の發達を妨げ、殊に果樹皮の腐蝕を誘致する降雪は、諸般の豫防法を講ずるに拘らず、一九一二年に於けるが如く非産業的果樹栽培にすら害を及ぼすこと少からず。歐露及支那よりする(黒龍沿岸へ)安價なる輸入果實は、地方果樹の高價に値する(且つ粗悪なる)栽培を無意義ならしめ、又既に近く鐵道に依りて行はるべき土其機斯坦西伯利間の連絡は、中央亞細亞の果實を容易に同地へ招徠すべく、其價値を更に一層低下すべきこと想像するに難からず。

二、漿果

西伯利の漿果栽培業は最近に於て完全なる一産業たる日あるを期すべし。野生の蠻莓、覆盆子、スグリ等は其美味と香氣とに依りて勝り、且つ其栽培法に於ては今や唯だ果實の形狀を大ならしむるの苦心を剩すに過ぎず。大形にして稍長く且つ青味を帯べる果實房を成して生ずる點に於て葡萄に似たるが故にアルダン葡萄の稱あるアルダン、スグリより採取せらるる果實酒(重量に對し一割二分の酒精を有す)は、其味、寺院酒に酷似して優良なるものなるが故に、該酒は州内僻地に於ける祭祀に際しては恰も、寺院酒の如くに使用せらる。オペレビー(アカシアの一種)及クニヤーゼニカ(覆盆子の一種)は、前掲諸果實の如く精良なる糖蜜果漿ゼリー及ジャムを製造するに最も安價なる材料を供給するを以て喜ばる。トポリリスク縣ツウリンスク、トポリリスク、タタールスク諸郡に於ては、産業的目的を以て盛に赤覆盆子及び紅莓臺子の採取行はれ、特にコンヂンスク地方に、赤覆盆子豊富なり。之が採取は八月下半期中松林に於て行はれ、その額は各部八十乃至百布度の間にあり。赤覆盆子はトムスク、エニセイスク兩縣に於ても亦産業的果實と云ふべく、同果實は秋に於て採取せる儘市場に出され、冬期に於ては凍結して賣出され、又鬱林に於ては蘇苔岸を蔽ふ池沼に於て紅莓臺子を採取すべし。大體に於て西伯利

に於ける果實の採取は凡てに於て最も精鍊せる形式を有し、赤覆盆子樹は果實を良好ならしむるため七八年毎に一回づゝ焼かるゝを常とす。

三、工藝用植物

西部西伯利の中部殊にエニセイスク縣内に於ては亞麻の播種せられ居ること著しく、又南部諸縣よりの移住民は日向葵、大麻及びその他橄欖科の植物を培養しつゝあり。セミバラチンスクの曠原に於ては、甚だ珍奇なる野の纖維質植物、西伯利大麻等の多數に成長せるを見るが、該植物は容易に工業的目的に利用し得べし。

四、森林

西伯利は現時世界の如何なる地方よりも最も森林に富み、西部西伯利のみにて露國林務廳の計算に依れば一億一千万デシヤチンの森林を有し、沿海州の一億六千万デシヤチンを有すること既に驚くべしと雖、エニセイスク、イルクーツク兩縣及びヤクーツク州内に於ける森林の面積に至つては到底計算し盡し得る所にあらず。西伯利に於ける諸森林が其性質の同一ならざるは勿論にして、池沼多き密林地の森林は之を山地の森林に比するに遙に劣れり。西伯利に於ける森林

の樹木の大多數は針葉樹にして、何等混合せざる純粹の樹種を有し、松、樅、杉等は連續して莫大なる地積を占むれども、其種類の多種多様なると共に工藝目的に副ふべからざること熱帯森林と其の軌を一にせり。西部西伯利の東部(タタールスク郡以東)は、其烏拉爾に接する部分に比して遙に良好なる森林を有し、トボリスク縣の南部諸郡は北部に比して遙に森林鮮く、又曠原地方は森林に乏しきこと綠地に似たり。トムスク縣は約千四百万デシヤチンの森林を有し、その中に於て最も森林に乏しき地方をバルナウリスク郡の南部とす。東部西伯利に於ける森林は、エニセイ、アングラ兩河畔及ヤクーツク州内に多く、黒龍沿岸諸州中沿海州は特に森林豊富なり(一萬二千三百万デシヤチン)。西伯利に於ける森林中最も價値ある種類は柏林にして、之と關聯せる胡桃業はトボリスク縣トボリスク、ツウーリンスク、タタルスク諸郡内に於て最も順調なる發達をなし、該地方の柏林は莫大の面積を占め通過し難き池沼に依りて幾多の部分に分たれつゝあるを見る。之を例へばツウーリンスク郡ベルキムスカヤ郷に於けるノソウスク柏林の如きは一萬デシヤチンを有す。トムスク縣に於ける柏林は、トムスク、マリインスク兩郡并に専ら異種族民の胡桃業に従事するクスネツク、ピースク兩郡内に存す。亞爾泰の

柏林に對する地方住民の態度極めて非產業的にして、新下種用たる一個の毬果をも残さず最後の一果に至る迄之を採取せずんば止まざるのみならず、之を採取するに當りても、樹枝を折り鉤を以て粗暴に毬果を取り且つ天候不良の際の如きは樹下に於て焚火し以て樹根を害し、又薪材及建築用として之を伐採する等の爲に殆ど全滅せんとするの虞あり。是れ實に西伯利住民の經濟的訓練甚だ至らざる顯著なる一例なり。エニセイスク縣に於ける同業はエニセイ河に沿へるマヌーシンスク郡内に特に發達し、後貝加爾に於てはヤブプロノウオイ山脈就中インゴダチコイ兩河の上流地方に最も發達し、尙同業は黒龍沿岸に於ても存在す。ボルキムスク地方を除く外胡桃業は到る所單に副業に過ぎざるのみならず、最近に至りては其収入は多數の柏を害する山火事及胡桃の不作頻々として生ずる爲に一般に著しく低下せり。所在の柏林は或る一村落住民の共有物たるものにして、胡桃の收穫は該村落全住民に依りて一時に行はるゝを常とす。唯チユルキムスカヤ鬱林(トムスク及マリインスク郡内に於ける)に於て之を區域に分配するを例外とすべきのみ。而して亞爾泰に於ける或る柏林は、恰も私有物の如く、父子相傳して之を占有す。胡桃業者は胡桃を買出人に賣却し、買出人は之を舟筏に依りて汽船

埠頭に搬送す。其販路の大部分たる歐露方面に於ては胡桃より胡桃油及搾滓を製す(油ぎりたる塊にして其味は甘きに失す、西伯利に於ける農民は戒食期に牛乳の代用として茶に入れて之を飲用す)。同業は概して目下露西亞人たる住民に取りては不利益なり。如何となれば同業の成績は富籤的性質を帯び、且つ農民をして長期間其常業より離れしむればなり。若し胡桃油製造業にしてオビ、エニセイ兩河の下流に於ける魚類罐詰用として大規模を以て之を製産する方法を講せんか其現収入を數倍増加せしむる事を得べく、又此の優秀なる油が橄欖油に代用すべきが上に其價格の遙に低廉なるは喜ぶべし。

西伯利林産富源の開拓中幾分にも正當なる方法に準據せるは、單に僅少の地方に過ぎず。トポリリスク縣に於ては樹脂、木炭、テルペンチーヌ及針葉樹油の製造行はれ、英獨兩國に對する白楊の輸出を開始し居るが、兩國に於ては之を以て果實函を製作す、蓋し柳樹製籠は果實に特種の不快なる臭氣を移すがために、該果實函の需要多きを以てなり。トムスク縣よりは箱製造用として英國に柏材の輸出を開始せり。製材業の最も發達せるは黒龍沿岸就中沿海州にして、該地方は一圓濕潤にして加ふるに氣候極めて濕氣を含めるためその産する所の木材は著しく

織緯の脆弱を來し、建築及小細工用の材料として其質餘り良好ならざるに關らず、今や黑龍沿岸地方の木材取引額は約一千萬留に達せり。さりながら日本及支那沿海地方に於て木材の消費せらるゝことは、今猶ほ餘り良好ならざる黑龍沿岸地方の木材をさへ需要して止まざる迄に莫大なり。黑龍州資本家の經營する木材業は、建築用材の製作に殆ど全力を傾注し、沿海州に於ける木材事業は、黑龍州の夫に比すれば規模一層宏大なり。黑龍沿岸地方に於ける木材取引の中心點は浦潮斯德(取引高約百五十萬留)、ハバロフスク(約六十萬留)、ブラゴウエシチェンスク、聖オリガ海及皇帝灣等なり。西伯利木材業の前途に關しては更に後章に於て述ぶる所あるべし。

第三章 動物の産業的利用と牧畜漁獵

第一節 牧畜業

動物の土地に對する關係は、植物のそれの如く密接なるものにあらずして、寧ろ人類文化の度に對する關係の深刻なるを以て、彼等は實に之を使役する人類の能力如何によりては、彼等に最も適合せる地域以上著しく遠方に普及する事を得

るものなり。而かも有益なる動物と有益なる植物の普及に於ける類似點は、或る一定の程度迄存在するものにして、西伯利に於ても亦之を看る事を得べし。若し夫れ西伯利極地地方に於ける唯一の家畜が、馴鹿及騎用犬なるが如きは、其地方の氣候的條件と此等の動物に對する食物の存在する事に基因するものにして、馴鹿は良く土地の風土に適應し、且つ地方住民の主要なる要求を完全に充足せしむ。馴鹿は何等の苦痛もなく寒氣及蘚苔地の風に堪へ、冬期に於ては馴鹿苔の名を以て知らるゝ、寡少なる植物のみを食し、併も左して深からざるを常とする同地方の積雪下より自ら之を獲て喰ふ。馴鹿は自己の總てを地方異種族民に供給す。即ち其肉は食用に適し、皮は被服及住所の用に適し、筋は糸に代用せられ、馴鹿夫れ自體は同地方唯一の運搬機關たり。然れども馴鹿は、其代償として地方異種族に愛撫せられ、冬期に於ては寒風凜烈ならざる南部へ移住し、更に夏期に到れば蚊と蝨に悩む事なき海邊へ移されて生育す。西伯利の東北部に於ては、所々に騎用犬を唯一の家畜とする所あり。斯かる地方は積雪深く且つ軟鬆にして、馴鹿の體量に堪へず。從て犬を唯一の運搬機關とし、(又犬は専ら此用にのみ供せらるゝ)此等の地方は魚類豊富なるを以て、其乾物は騎用犬の唯一の飼料たり、水草を追ふて移住す

る牧畜は滯住に適する地方の或部分が諸種の不便殊に水の缺乏の爲に其用をなさざる事あるが故に、其區域は極めて廣く之を占有せざるべからず。斯かる地域に於ては、農業は牧畜業に比して遙に利益尠し。然れども凡そ牧畜業は其性質上地方の自然的條件を成るべく有るが儘に效果多く利用せんことを要求するものとす。曠原に於ける牧畜業は炭疽、黒死病、旱魃及霜冰の爲に生ずる飼料の缺乏、吹雪及狼等の害を受くる事あり。黒龍沿岸地方は特に斯業に有利なる條件を有せず。第一飼草の品質優良ならず、即ち極めて濕潤なる氣候の爲に飼草は水分多くして營養に乏しく、又其の中に芽を交ふること甚だ多き爲、之より得たる枯草は粗硬にして莖太く芻嚙に適せず。尙家畜の放牧期短き上、牧場は一般に池沼及丘岡多く、夏期に於て家畜は蚊、蠅、大腸虫等に惱まざるゝも、南部後貝加爾には全く之を見ず。此等の原因に依りて牧畜業は、發達せざるが爲、同地方は年々滿洲及蒙古滿洲を経てより九百萬留の肉類屠殺用家畜を含むを輸入し居れり。

一、牛類

西伯利全域に於て牛類豊富なるは、後貝加爾、曠原地方、ヤクーツク州、トボリスク、トムスク州兩縣等とす。森林帯は多汁質なるも、過濕ならざる牧草と温和なる氣

候とは牛類の爲めに最も佳く、森林帯及亞爾泰山麓に於ける風土は、哺乳家畜に最も有利(同地方に於ては牛酪製造業も亦特に發達す)にして、其平野は屠殺用として最も價值ある性質を有する體軀の大にして脂肪に富める牛類畜を産出す。一般に從來西伯利に弘く普及せる露國種の牛類は體軀矮少にして肥滿し且つ乳量尠し。然れども此缺點は或る不可避の原因より來れるにあらずして、實に家畜の手入方拙劣なると防寒設備の不充分なる結果なり。されば其手入方良好ならんか、乳量は一擧にして増進すべく、又西伯利に於ける夏期の飼料の質が現在西伯利産乳が其脂肪の豊富なる點に於て尙優秀なるが如く良質ならば、西伯利は將來優良なる乳牛を有するを得べし。牛類飼育の方法と其結果とは西伯利住民の文化の度が如何に低きかを最も明瞭に表示するものにして、西伯利産牛畜の改良は優良なる輸入種族との交配に依り、又は之を輸入種に交換するが如き方法を以てすべきにあらず。現存家畜の境遇を改善し以て內的に該種族の改良を計るべきなり。

二、牧馬

曠原地方の廣濶なる面積は、時々馬匹の養殖に良好なる條件を具備せるを見る。晩近歐露に於ける牧馬用平野の次第に縮少しつゝあるに依り、キルギス族の棲息

する曠原に於ては特に同業の發達を見ざるべからず。キルギス族の産馬は單に駿速と其耐久力を以て秀づ。蓋し是キルギス族が専ら該性能の發達と維持とに努力したるに由るものにして、従つて、同種は輓馬其他の勞役には稍不適なり。農業地帯の西伯利馬は飼料及飲料の關係に於て多慾ならず、且つ快速なるも、體力弱くして軀幹矮し。特に劣悪なるは後貝加爾産馬にして、肥軀矮小にして騎走及重量物運搬の孰れにも適せず。唯トムスク産馬のみは軀幹比較的大にして、重量物の運搬及農業勞役の孰れにも適す。黒龍沿海兩州には、蒙古馬とトムスク産馬との雜種多く、地方の風土と地方の農業的要求に最も適合せる特有の地方種馬匹を育成す。蓋し地方産にあらざる馬匹は同地に於ては其發育悪しければなり。今や概して西伯利の農業地帯に於ては馬匹に對する二個の重要な要求を充足すべき地方種を育成せんとするの希望顯著なり。即ち農業勞役と重量物運搬に堪へる力と耐久力と是れなり。然れども住民は從來西伯利に於て獸醫學校の設置なき爲に科學の指導に俟つ事なく、單に自己の直接的經驗に依れるにすぎず。

三、養豚

西伯利の養豚は極めて最近發達せる産業にして、一九〇四年日露戰爭當時より

之れを促成せるに過ぎずと雖長足の進歩を以て普及しつゝあり。十二年以前二萬五千頭以下と計算されたるクルガンスク郡内に於て、今や養豚事業著しく發達して大なる収益ある産業となれり。牛酪製造業が本郡内に於て初て開始されしと均しく、養豚業も亦同郡を嚆矢とすと言ひ得べく、牛酪製造業に關係せる外國商社先づ牛酪製造より生ずる牛乳の殘滓を豚の飼料に利用する事に着想せしが、繼て地方住民も亦之に倣へり。クルガンに初めて豚屠殺所の設けられしは、丁抹の商社ブリユリイ、テゲーリンの開設する所、一九〇八年にして、同年中に合計二千頭を屠殺せしが、一九〇九年には既に二萬六千頭に及び、翌一九一〇年に至りては、七萬五千頭に達せり。而して一九〇九年に於ては地方民用ハム及腸詰に對する五萬布度以外鹽豚五萬布度、ヘット四千五百布度を製造せしが、ユニオン商社は毎年二十萬度以上の鹽豚を製造す。今やクルガンスク郡民の得る養豚業の収入は、彼等の牛酪製造業より得る収入に比して僅々數千留を下るに過ぎず。屠殺所へ供給すべき豚の集團的育成には、管に牛酪製造の殘滓を使用するのみならず、多數の面積に發育速なる馬鈴薯の栽培をも行ひて、農民の之を主業とするものあるに至れり。即豚が最も早熟の馬鈴薯を地中より抜き出して食し終れば、之を更に比較

的晩熟の馬鈴薯其他を植付けある畑へ移動せしめ、之に依りて耕地を輕鬆ならしめ、以て次の播種に備ふるものとす。前記の如き養豚業と牛酪製造業との關係に依りて、養豚業は牛酪製造地方に著しく普及し、特にビースク郡内に多し。養豚業の急速に發達せる爲に副産として、西部西伯利よりは多額の堅牢なる白色ブラシの優良品を輸出するに至れり。曠原地方は極めて乾燥せる地域とて、豚の増殖行はれざるも、黒龍沿岸地方には豚の數頗る多し。然れども同地方の豚は滿洲及朝鮮種にして體軀矮小(平均四布度半)なる上味も良からず。黒龍沿道に於ける養豚業は、専ら烏蘇里地方に普及し、同地方へは増殖の爲め後貝加爾より常に露國種のみならずヨークシャ種及ベルクシャ種をも輸入す。一般に養豚業は常に牛酪製造業及葡萄栽培業の行はるゝ地方のみならず、黒龍沿道にも亦甚だ好望なり。

四、羊及山羊

羊及山羊は曠原地方、亞爾泰及後貝加爾地方即ち特に乾燥せる氣候と風土とを有する地方に於て其普及に對し最も良好なる條件を發見す。概して農業地方の西伯利産羊は劣等種にして、肉及脂肪を提供する事寡く其皮は良質ならず。キルギス族の飼養する羊は、曠原種にして良種に屬し一頭につき約一布度の脂肪を提

供し同種は今や森林帶の各地方に於ても普及し來れり。亞爾泰山麓も可なり良質の白色の皮を有する羊を有し、鹽漬羊肉の輸出はクルガンスク郡にも開始せられ居れり。後貝加爾州は羊及山羊牧養の爲に特に良好なる條件を備へ、同地に於ける羊は今や約百二十萬頭を算し、其乳は隣接せる沿海黒龍兩州の一大需要に應じ得べき高加索産にも劣らざるチーズを製造し得べし。後貝加爾に於ては最良の山羊肉を得るに必要な凡ての條件即ち氣候の乾燥及び細く且つ硬きも營養的なる飼料を有する乾鹹湖に富み、且つ其地勢海面上より著しく高き等の長所を有す。従つて後貝加爾産山羊肉は佛國海岸産のものに比して一層優良なり。故に若し之を後貝加爾より特別冷蔵列車に依りて歐洲へ輸出するの組織成らんか、同地に於て容易にして且つ良好なる販路を得るならん、極めて濕潤せる沿黒龍州の氣候は羊の爲に甚だ不良にして、同地方全體に於ける羊は總數僅に一萬頭を越ゆる事なく、極めて濕氣を含める氣候と堅硬なる牧草とは此地方の養羊上一大障礙たる特異疾即ち肝臟蠕蟲發生の原因をなせるが如し。

五、綿羊業

西伯利に綿羊業の開始せられたるは、最近十年以内なりとす。前世紀初頭の四半

世紀間にミスシンスク區及び後貝加爾のセレンギンスク附近に於て行はれたる綿羊養殖の企圖は全然失敗に歸せしも、南露に於ける牧羊用原野の縮少は、牧羊業者をして廣濶なる西伯利の曠原地方に注意を拂はさしむるに至れり。現時綿羊養殖業の行はるゝは左の如き西伯利の各地方とす。即ちオムスク、ベトロバウロウスク間のマリアノフカ驛附近(二十七箇の企業にて綿羊約五萬頭、コロステレフスカヤ曠野(ズメイゴールスク郡内、一九〇六年以降)約一萬七千頭、アチンスク郡内のウチ・ユーム湖畔(三萬デシヤチンを租借せり)ミスーシンスク郡内のウイバタ河畔及びバテニ村附近是れなり。バテニ村附近に於ては莫斯科ウラヂミール、アレクセーエフ商會が綿羊養殖の爲約五萬デシヤチンの土地を租借せしが、尙イシムスク、チユカリンスク、ピースク諸郡内及びベリアガーナスカヤ曠野(セミバラチンスク郡内)に於ても牧羊業者の租借せる地域あり。その種類はマザエウスク即ち黒海種、西班牙メリー種ラムブリエ種及少數のカラクリヤ種にして、綿羊が西伯利の極めて大陸的にして酷烈なる氣候及び甚しく長期に亘る冬期に充分適應し得るやの問題は、今日尙ほ彼此孰れも最後の解決を見ざるも、尠くとも牧羊業者はメリノ種が充分に西伯利の風土に堪へマゼウスキ種も亦寧ろ南露産のものよりも

清潔にして毛長く且つ細く強靱にして輕量なる一層良質の羊毛を提供する事を證せしが、是は全く曠原の性質と飼料の素質とに職由す。即ち同地方に於ては塵埃多き煖床的耕地に放牧せざる故に毛を汚す事少し。又毛を縮らし且つ之を傷け時に脛を傷ける曠原草は牧羊業者は開墾に依りて之が除去に努む。綿羊に對する或る流行的惡疫は、西伯利に於て今日迄之を認めず。然れども眞正の狀態は未だ充分に判明せずして、或は綿羊養殖業は其風土に馴致せしむる條件に依りては後貝加爾へも酷烈なる氣候と海面上著しく高き地勢に馴れたる西藏羊を輸入し得るならん。之を要するに西伯利産羊の地方種は其種族内の改良を爲し得るものにして、種族の改良は地方牧羊者の爲にも一大重要任務なり。蓋し斯る羊は地方住民の多數に向つて安價なる歐露への輸出物たればなり。

六、馴鹿

馴鹿の養殖は西伯利特有の純民族的にして且つ可なり古き時代より行はるゝ牧畜業なり。馴鹿は高尚なる鹿の一小族にして西伯利に於ては亞爾泰山地(主としてカルゴン河附近及びプフタルマ河の右側諸支流并にコスカ河等の河谷後貝加爾全州の森林多き山地、就中インゴダ、ヒロク、チコイ諸河の上流アレクタイスク山

嶺、シルカ、オノン兩河畔、ハルグジンスク鬱林内及び貝加爾湖沿岸の諸山、エニセイスク縣の南部に於けるウシンスク地方、サイヤン連山の森林ある諸山嶺、セミバラチンスク州の東部及黑龍江の下流殊にヒンガンより烏蘇里河の河口に至る迄及其下流約二百露里間並に皇帝灣附近の諸山、烏蘇里地方一帯(同地に於ては班紋ある新なる鹿の一種を有す)に於て養殖す。馴鹿は亞爾泰にてはマラリと稱し、ウシンスク地方に於てはスキン、其他の諸地方に於てはイジユブルと稱す。此の動物に於て主要なる産業的價値は未だ充分なる成全の域に達せず、血管充溢し恰も膠状を呈せる其角(バンツキ)は沸騰せる鹽水中にて磚茶と共に之を煮たる後通風良好なる場所にて陰干す。而して角は一定の時期に自ら鹿の頭臚より落下するものなるを以て、之を鬱林中に搜め又は馴鹿狩の際斃死せる馴鹿より抜き取り(現今は馴鹿狩は南部烏蘇里地方の僻遠なる地域に於てのみ行はる、蓋し爾餘の地方は到る所之れを禁止せしを以てなり)若くは半家畜的馴鹿の角を鋸截する等の方法に依りて之を採取するものとす。特別の養殖場(マラリニク)に於ける馴鹿の養殖は亞爾泰に於ては前世紀の三十年代既に開始せられしが、今尙南部烏蘇里地方に於ては馴鹿一頭に付半デシヤチン宛の割合を以て森林、小川及草地を供し、平方露

里以上の面積に柵を廻したる廣大なる養殖場を存す。亞爾泰に於ける馴鹿養殖場は其面積大なるを以て秀で五十デシヤチンの地積を有す。後貝加爾に於けるものは稍狭く且つ家畜の附近に於て馬追込に接し、又は田地に設置す。馴鹿の生後約十二年間は其角益々増大して約三十乃至三十五フントに達し、其枚數をも増加するものとす。鹿角は之を二種類に區別す。鋸截したるもの(半家畜的の馴鹿より得る)及額附のもの(頭蓋骨の一部を有し野生の馴鹿より得るものにして此方を優良とす)是なり。亞爾泰に於て一フント五乃至九留を以て購求さるゝ鹿角は支那に於ては二十五乃至三十五留を以て販賣せられ、體力の復興に效驗ある或る秘薬の製造に使用せらる。十四五年を経過するも猶鹿角小なる時は、馴鹿は之を食用として飼育せる後屠殺す。馴鹿の皮よりは甚だ良質の鹿皮製造せらる。馴鹿は概して人に馴るゝ事薄く、養殖場内に於ける繁殖力弱くして、如何なる方法を以てするも成功する事稀なり。亞爾泰に於ける養殖業は概して小規模ならざるも、就中最大なるものはウララ附近(六十頭)エレクマノール附近に在り。チユヤカツウーニ兩河畔に於ける養殖場は各二百頭宛の馴鹿を養ふ。其他ゾフタルミンスク地方セントレーナ(ピースク郡)及びクズネツク、アラタウにもあり。亞爾泰

全部にては合計四千六百頭の半家畜的馴鹿(ズマイノゴールスク郡内四千四百二十八頭ビースク郡内二百十頭)を數ふ。セミバラチンスク州南部に於ける馴鹿養殖業は、二十五年前始めてバプロウスコエ村に於て開始せられしが、今や九個村内に行はれ(養殖場約三十個の内十個はウラヂミールスコエ村に在り)、養殖場は一乃至二十五デシヤチシの面積あり。良好なる雄鹿は其價格百五十乃至二百留にして、一年間約六十五留の收入を齎らす。現今に於ては農民は中介人の手を経ず、自ら鹿角を蒙古に搬送し、茲に支那隊商と交易し同地に於て一フント十留乃至十一留を以て販賣す。後貝加爾に於て養殖場に飼養する馴鹿數は約一千頭に達するも、黒龍沿岸地方は養殖場の數甚だ尠し。同地は積雪淺き爲初冬捕獲せる馴鹿を農民は菩提樹及枯草を以て飼養しつゝ、柵内に繋留し、夏期之を撲殺す。馴鹿は種類に依り約七百留の收入を齎すものあり。産業として馴鹿養殖業は唯支那に於ける鹿角の需要に埃つのみなるも、或は又歐洲醫學界も鹿角の膠質中に天然スベルミンを産出する或る特效ある性質を發見し得るやも知るべからず。若し此事にして確實となり、實驗と學術の孰れに於ても野生馴鹿と半家畜的馴鹿との角を同一質たらしむる方法を指示し得るに至らんか、本業は前掲地方に於ても一大發

達を期すべし。蓋し森林と山岳とは馴鹿の生育に必要な條件なればなり。

七、養禽

西伯利に於ける養禽は、歐洲市場に於て同地産家禽に對する需要益々増加しつつある爲に、今や農民の間に於ける有力なる生業たるに至れり。西伯利は鶏及鶯家鴨の養殖に極めて便利なり。蓋し此養殖に必要な水と廣潤なる草地に富むが爲なり。農民の飼養する家禽は飼料上に好尚なく又周密なる手入を要求する事なきが故に、貧困なる農民すら尙且つ大規模の養鶏をなす事を得て、開始後幾何ならずして甚だ有利なる事業となるに到れり。外國商社及事務所が家禽及鶏卵の買収を開始するに至りし同地に於ては、農民は既に鶯家鴨及鶏等の養殖の有利なるを認識し急速なる發達をなせり。現下クルガンスク郡は其首位を占む。西伯利産家禽は今や英獨兩國市場へ輸出せられ佛國人も亦其輸出に従事せり。

八、駱駝

曠原地方及後貝加爾の如き乾燥せる曠原地は駱駝の養殖に適し、駱駝は重量物運搬用に使用せらる。曠原地方の飼養は近時局地交通の頻繁となれるに伴ひて其數を増加せると他の一方に剪毛の收穫漸く有利となれる結果著しく増加せり。

九養蜂

養蜂業は専ら西伯利の南部に普及せり。蓋し同地方は野生の含蜜植物に豊富にして最も河川に富むを以てなり。西伯利に於ける養蜂業は十八世紀の中葉リッデルスク地方に發現し始め、ウバ、ウリバ兩河畔に擴張し、次で亞爾泰一帶に普及せり。トムスク縣のズメイノゴルスク、ビースク兩郡は西伯利に於て養蜂業の最も盛なる地方にして、亞爾泰全體に於て蜂房四十萬個を有する約一萬三千個の蜂窠あり年々約四十萬留の收入あり、ソツデルスク地方は亞爾泰養蜂業の中心地たり。地方住民の無教育は亞爾泰に於ける養蜂業の發達を大に阻害せり。即ち殆ど到る所の蜂房は原始的飼桶にして人工蠟は殆ど用ひられず、且つ冬期に於ける蜜蜂の人工飼養法は殆ど講せられざるを以て、蜜蜂は之が爲に斃死し、蜂蜜は手を以て不器用に分離さるゝが故に汚濁し且つ長く起泡す。含蜜植物は亞爾泰養蜂業者の殆ど播種せざる所なるに拘らず、野生含蜜植物を有する廣野は、著しき勢を以て増加する開拓の爲に益々縮少す。曠原地方に於ては養蜂業はウスタカメノゴルスク及びザイサンスク郡内に盛に行はれ、之れに次てパウロダールスク、セミパラチンスクの兩郡内に普及せるも、全州内に於て二萬の蜂房を有する蜂窠三

百個弱に過ぎず。エニセイスク縣内に於てはアチンスク、ミヌーシンスクの兩郡内のみ行はれ、僅かに蜂窠千二百個蜂房二萬八千に足らず。蜂蜜は住民の遠心力に關する觀念を有せざる爲に自流蜜にして、蠟は大壺内にて焚燒して之を得。蜂蜜は單に家庭用として用ひらるゝに過ぎず。後貝加爾は野生含蜜植物を有する草地に富み養蜂業に適するに拘らず僅に約千五百蜂房を有するに過ぎず。黒龍沿道に於ける養蜂業は南部烏蘇里地方に於て最も發達し、同地方には郷里に於て養蜂事業に慣熟し且つ此等地方に含蜜植物の豊饒なることを熟知したる多數の南露西亞移住民を有す。南部烏蘇里産の蜂蜜は甚だ香氣高く透明にして西伯利全土に於て最良の蜂蜜たり。該蜂蜜の水分多きは之を寒冷紗張の蓋にて蔽へる木桶に入れ日光に乾して矯正す。沿海州に於ける十四萬個の蜂房は(一九一三年)蜂蜜四萬六千三百十五布度を得たるも、黒龍州の狀況は養蜂業の有利なる條件を具備せず。極東に於ける養蜂業は地方市場に制限せられ露國及歐洲市場は距離遠くして運賃高く支那及日本は蜂蜜及蠟に對し需要尠きを以て需給の關係斯業の發達を促がすに至らずと雖之が利用の方法發見せらるか若くは海路歐米輸出の路開くに至らば烏蘇里後貝加爾兩州の養蜂業は急速の進歩を告ぐべし。

一〇、畜産食料諸品の輸出

西伯利産牛酪輸出の發達は、腐敗し易き畜産諸品の輸出方法技術的に完備して外國市場に向つて安全に送達し得る時に至り初めて同地方に之を庶幾するを得たるなり。冷蔵貨車の實施及び一般に冷蔵輸送法の稍調節されし爲に、一九一一年中に於ては變質し易き各種の畜産物(生肉及鶏卵)一千九萬五千三百布度を輸出せり。然れども尙未だ冷蔵装置の輸送不完全なる結果、西部西伯利よりする畜産食料品の輸出は其發達極めて遅々たりしが一九一一年之れが改良を加へたる結果一九一三年度に於ては著しく其量を増加せるを見る。

品名	一九〇〇年	一九一〇年	一九一一年	一九一三年(單位千布度)
屠獸	二、六九〇	三、〇四七	二、九六七	六、三二一
生牛	六七六	一、二七一	一、〇八七	二、四三二
山羊及羊	—	—	三	一六七
生馬	—	〇、三	〇、三	七八
鶏卵	二五二	二四三	二三七	三八六

之と等しく肉類の輸送も亦其發達著しからず。

品名	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年	一九一三年(單位千布度)
各種肉(豚を除く)	一、七九五	二、二六四	二、五六二	三、九八四
豚肉	五八四	三九四	二五二	六八七
屠殺したる家禽	四四	四七	四九	九八
同野禽	四五	九五	四九	一四三

此等物資の輸出は主として冬期に於てのみ行はれ、夏期に於ては屠殺用家畜及鳥類は生きたる儘輸送せらる。冷蔵輸送法完備せざる爲年々多數の羊を屠殺する油脂製造業者は之を鹽漬にしたる上船舶に依りて輸送しつゝあり然るに、單に一山羊肉のみにても年々約百萬布度以上を輸出し得べき狀況なるを以て屠肉の冷蔵輸出法發達せんには畜産業は一般に左表に示すが如く西部西伯利内に急速に發達しつゝあるを以て、巨額の肉類は外國市場へ輸出さるゝに至らん。

住民百人當りの家畜數

トポリスク縣	一九〇七年	一九一一年	一九一三年
牛	七五九、一	八四、〇〇	五五九、七
羊綿羊及山羊	—	—	七六六、〇
豚	—	—	一一一、九

トムスク縣	一九〇七年	一九一一年	一九一三年
トムスク縣	八二,九〇〇	九一,四〇〇	一一四,九〇〇
阿克モリンスク縣	八六,三〇〇	九四,〇〇〇	一一三,三〇〇
阿克モリンスク縣	一九〇七年	一九一一年	一九一三年
阿克モリンスク縣	一〇九,〇〇〇	一四四,〇〇〇	一八四,〇〇〇

此等地方に於ける草地の面積は一九〇七年より一九一一年迄五ヶ年間に於て各縣共一割九分以上増加し、牛類數は一割六分乃至二割八分羊類數は一割六分乃至三割三分又豚は二割八分乃至五割六分方増加し更に一九一三年に於ては僅々二ヶ年の経過に於て極めて顯著なる増加を見る、是れ比年歐洲に於て増大しつゝある肉の缺乏と並行して西伯利牧畜業の前途の如何に有望なるかを表證するものなり。

今西伯利各州縣に於ける一九一三年度の家畜數を擧ぐれば左の如し。
(勸察加、ヤクーツク、イルクラー、ツク、三州は一九一二年度)

州縣名	牛	馬	豚	羊及綿羊	小羊	駱駝	馴鹿
勸察加	五五,〇〇〇	二,三〇〇	—	—	—	—	一五,〇〇〇
樺太	四,八二二	一,八五五	—	一,四二五	—	—	—
沿海	八九,〇五五	二七,二五五	—	一六,五三三	—	—	—
黒龍	一〇〇,五〇〇	二八,五〇〇	七五,七五七	三,六三三	—	—	—

後貝加爾	一九〇六年	一九一三年	一九一三年
ヤクーツク	二〇,八〇〇	九六,五〇〇	五〇〇
イルクラー	三三,一〇〇	三三,三〇〇	八九,五〇〇
エニセイスク	五五,七五七	五〇,五三三	七五七,九七六
トムスク	二,五七〇,九九九	二,三六八,九八八	五七二,三四
トボリンスク	八六,〇〇〇	七九,〇〇〇	二五四,〇〇〇
セミパラチンスク	八六,八〇〇	九五,九六六	八,〇三三
アクモリンスク	一,五八,三三三	一,〇五,六五一	四七,三六四
			一,八〇,八五五
			二五五,三三六
			一〇,九三三
			四,四七〇
			一,五〇〇
			(六,六〇〇)
			一,一六六
			八,〇〇〇
			六,五三三
			一〇,一四二

第二節 漁業

現今の状態に於ける西伯利の漁業は魚族の増殖改良は勿論其保護に對してすら何等人爲的勞力を加へず、又單に其舊態を維持する爲にも些少の人爲を加ふるなく唯天然の富源を奪取するに過ぎざる純收穫的經濟の範例を示せり。斯は全く西伯利に於ける最良の漁業地域が極めて少數にして、且非文明の住民を有する最も僻遠なる無人の境に存在し、殆ど専ら可及的多數の魚類の獲取を唯一の目的として全く他を顧みざる移住米人の手に收めらるゝに由れり。年々西伯利の北部及東部に於ける諸河口に現はるゝ無數の魚群は、魚類富源は無限なりとの思想

を生せしめしも、若し繁殖の目的を以て西伯利の諸河へ上り來る此等の魚類が途中に於て、殊に河口に於て間斷なく常規的に漁獲さるゝとせば、其繁殖は當然停止せられて其減少を見るに至らざるを得ず。縱令漁業に従事する者の益々増加するに伴れ、市場に於ける魚類の數量増加すと雖、之は決して魚群總數の復活しつゝある證左にあらず。不規則の漁獲法を行ひ、單に魚類の漁獲をのみ目的として何等保護法なからんか、魚類は速に其實數を減すべく、此事は既に多數の魚類が棲息する西伯利諸河川の支流地方に於ける住民、殊に上流第二段の支流地方に於ける住民の痛感しつゝある所なり。

一、西伯利の漁業地域

西伯利の漁業地域は其地層及氣候の農牧業に適せざる地方に集中せられ、農業地方に於ける漁業は單に第二級の副業たるに過ぎず。西部西伯利の北部に於ける漁業地域はオビ河の下流、同河口及ヤムサレ岬に至る迄の洲に於て、ナヅキム、イルツイシ、兩河バラバ湖及曠原地方、就中ノール、ザイサン等に於て、東部西伯利に於てはエニセイ(主なる漁業はブレホーウスキー諸島の砂洲及ヅヂンスコエ村よりチャチナヤ、グルボーカーヤ兩河の河口に至るエニセイ河の右岸并に一部はズウエ

レウスク岬及オシマリンスク海岸の砂洲に至る殆ど同一距離の左岸に於て)レナ、コルキマ諸河の下流、アンガラ、セレンガ兩河及貝加爾等にして、黒龍沿海兩地方は黒龍、黒龍江の下流、烏蘇里河、興凱湖、露領日本海沿岸及勘察加の三地域を有す。

二、渡り魚及地方魚

西伯利各地に於て産業的關係に於て最も價值あるものは所謂渡り魚即ち産卵の爲各種族毎に夫々一定の時期に海洋より河川の上流へ溯行するものにして、西部西伯利に於ける渡り魚は蝶鮫、香魚、西伯利鮭、スキロク、鯡等なりとす。黒龍江及一般に黒龍沿海兩地方の諸河に於ける渡り魚は鮭、鱒、鱒(十布度)、海鱒(地方の沼池に於ては九十布度に達するものあり)鯡等とす。西伯利諸河の地方魚はステルリヤド(鱒鮫屬の一種にして黒龍江には産せざるもイルツイシ河に特に多し)、ナリム(鱒の一種)、石斑魚、梭魚、海鱒、ハリウス(亞爾泰の諸河に於ける等にして)、ヤクーツク州の諸湖沼に於ては多數の鯉及ウグヒ魚(小き鯉族を有し、黒龍江流域は各種の地方魚の種族に富めり。曠原地方の諸湖及バラバ湖に於ては、所謂「白魚」即ち鯉、エーレット、梭魚等を漁獲す。西伯利に於ける漁獲法は之を三個の方法に大別し得べし。即ち魚類を捕獲する移動漁法(魚網及手網)、魚類の進行を阻止し且つ之れを梁柵形の

特種装置の罾に向はしむる非移動漁法(魚梁)及引網に依りて行ふものは是れなり。魚網及手網を以てする漁撈は、太河の河口、オビ、エニセイ兩河岸の砂洲より水深部に向ひ河底の徐々に傾斜し平滑にして窪所なき淺瀬及春期河水の滿注する灣狀をなしたる泥地に於て行はる。魚網は時として五百サトセンにも達するを以て大規模の漁業者にのみ使用せられ、非移動漁獲具(ベレンソフ、オブドルスク間のオビ河上に於ける)は各種の大きさの魚梁(最も大なるは蝶鮫用なり)を簾入する孔を有する桿及樹枝を以て編綴したる筏及楯に依りて作らるゝものにして、黒龍江の下流に於ては斯かる設備をザエズカ(追込の意即ち「」字形の障害物と稱し、其後部に魚網を囊狀となして装置す。目下日本式ザエズカは最も便利なる様式として益々廣く使用せらる。即ち同式は、梁内側の囊に代へて其短き方面より大なる魚網を置き其後部に魚禦を装置す。魚網の側端は水面に出で尙梁柵の内部に面せる一端は河底に垂下す。一度魚網に充分なる魚類の聚積するや、漁夫は之を魚禦に轉せしめ更に之より大なる船(クンガサ)に收容す。此の外黒龍江の諸、入江及黒龍江の下流に於ける漁撈は、大魚網に依りて之を行ひ、引網も亦到る所に普及す。網は重鉛及浮標を以て水底より一定の距離に水面と併行して保持せられ、又ク

ユーチカ(小き餌魚を差したる釣具を繩に點綴したるもの)は稍傾斜して張らるゝを以て、大なる魚類は水流に逆ひて進行しつゝ容易に魚網に衝當るものとす。各種の障害物及魚網は無益に多數の魚族を殺害す。即ち最初は何等の用にも適せざる幼魚之に入り來り、第二回には屢々單に魚類を傷くるに過ぎずして、彼等は遂に之が爲に斃死す。イルツイシ、河に於ては、魚群漁業即ち冬期水底の深部たる窪地に蟄居する紅色魚、蝶鮫及ステルリヤチの漁獲法發達し、十一月の下旬及十二月の上旬窪地の水に鎖さるゝや魚類は普通の手捕法に依りて漁獲せらる。此方法は僅々數日間に行はれ、其獲物は住民全體に分配せらるゝものとす。秋期の漁撈はアンガラ河に於ける濶所(窪地)に於て行はれ、バラバ湖及曠原地方の諸湖沼に於ける漁撈は網に依りて行はる。貝加爾湖漁業の主要なる魚類はオムール(鮭の一種)にして、同魚は五月より六月に至る間貝加爾湖の南部より北部へ移動し、湖の西岸とオリヤン島間の瀬戸(オリヤン水道)を通過す。貝加爾オムールの移動は、諸入江に於ける蝦蟹様の餌を求むる目的に出づるものにして、越冬の爲には更に湖の南部へ歸還して窪地内に入る。オムールの外、貝加爾湖に於ては、蝶鮫、ダイヤモンド、石斑魚、梭魚等の外、總計十二種の魚類を漁撈し、漁具に對しては魚網及手網を用ふるも、

手網は専ら小漁夫の集團たる農民組合のみ之を用ひ、大漁業者は自然スバルカなる一團を形成し居れり。オビ河下流に於ける漁場の持主は異種族民なるも、漁區の大多數は漁獲を主要收入とする大漁業者之を租借し、エニセイ河下流(ブレホフスク島附近及沿岸附近のエニセイ浦に於ける最良の漁場)に於ける最も便利なる箇所は、異種族民より吸收して競争入札を以て之を借區せしむ官有漁場に變更せられ、イルツイシユ河に於ける漁業収入は西部西伯利哥薩克族に屬し、バラバ湖及曠原地方諸湖沼并にアングラ河に於ける収入は、地方農民の所得に歸し、貝加爾湖に於ける漁業に好適なる箇所はイルクーツク主教館及修道院の所有に屬し、其優良なる漁區は所有者より大漁業者に貸附し、其不良なる箇所は特に湖の南岸に普及せる農民組合に屬せり。又レナ河下流に於ける漁區は異種族民に屬し、黒龍江沿岸地方に於ては商人、哥薩克農民及國庫等の所有に屬せり。一九〇七年に於ける日本との漁業條約に依りて日本漁業家は國庫の所有する漁區を長期間租借するの權利を有するも、日本人は露國臣民を名義上の租借人として殆ど全漁場の實際の所有者たり。一九一三年の入札に於て露國人に落札したる漁區は、僅かに二割六分(日本人七割四分)にして、一九一二年二割二分、一九一一年九分、而して一九一〇年に於ては僅々六分に過ぎざりき。

○年に於ては僅々六分に過ぎざりき。
オビ河に於ける漁期は之を三期に區別す。即ち魚類が産卵の爲上流及諸支流に溯江する期、オビ河に於ては五月の下半期、レナ河に於ては六月にして、魚類は孰れも充分に卵を有するを以て此の期を最良の漁期とす。生存せる魚類が水流に沿ひて下江する秋期并にオビ河にザモール、蘇苔地より成るオビ河の中下流及其支流に於ける河水涸渴し魚類の棲息に適せざる如く腐敗し來たる事を生じ、爲に地方魚類の或はオビ河の下流に或は烏拉爾に源を發するザモールなき其諸支流へ逸出せんとする冬期とす。鮭及鱒の黒龍江に溯江するは夏秋の兩期にして、其期間短きも勘察加に於ける諸河に對するレンセーウイ(鯡の一種)は夏期中間斷なく溯江す。イルチキン、アングラ兩河及目下貝加爾湖に於ける地方魚の漁獲は、結氷せざる河川に最も多額なるも其漁期は前に述べたるが如し。

西部西伯利に於けるオビ河下流の漁業は可なり大規模に行はれ、企業者約三百五十人労働者一萬人に達す。労働者の内約七割は異種族民なり。労働者の最も多數雇傭せるはカラワンタイにして、之に亞ぐは一の小さき組合を組成し且つ設備及魚網に對し漁獲物の五分の四を漁業者に與ふる歩合者パインチクとす。終りにポニソ

フの半網主(オブドルスク以下)の河岸に於けるは、其漁獲物の半部を主人に納め、餘は之を賣却す。一般に大漁業者は小漁業者を意の儘に左右せり。如何となればトポリリスクへ魚類を運搬し得べき汽船は唯彼等のみ之を所有すればなり。但最近オブドルスク、ベレソフスク兩地に於ける多數の漁業者は、自己所有の汽船を以て交通を開始するに至り、官有汽船も亦地方に於ける小漁業者の地位を容易ならしむるに至れり。オビ河及其支流に於て漁獲する魚類の數量は約二百萬布度に達し、イルツイシ河及曠原地方の諸湖沼に於ては大規模の資本家の經營する企業存せずして、小組合多し。資本家の經營に係るものと、組合組織に依るものと、の兩漁業を有する貝加爾湖に於ては、勞働者階級及アングアルシチナと稱する者より募集する約二千五百人の勞働者を有し、オムール五百乃至八百樽(五百萬乃至八百萬尾)蝶鮫約一千布度及ソロツヤ魚約十萬布度を漁獲す。レナ河の漁業は左して發達せずして大規模の漁業を營む企業は殆ど無かりしが、極めて最近に至りて貝加爾湖に於ける漁業の不振と共にレナ産魚の需要ある爲に漸く發達の運に向へり。黒龍沿海兩地方には、大規模の漁業と、又小規模の即農民及び異種族民(黒龍江の下流に於けるギリヤーク)の行ふ漁業とあり。黒龍江口は露國に於ける大

漁業の中心地にして、同地には四百乃至四百五十人の露國勞働者を有し、自己の汽船を有し完備せる冷蔵庫を有する多くの企業家あるも、其漁場は販賣市場より遠距離にある爲地方漁業は日本市場に從屬し、之と密接なる關係を有す。即ち日本人は露國村落附近の河口に自己の鹽藏所を設け、且つ露國漁業者は管に豫め契約せる價格に依り魚類を彼等に供給するのみならず、更に之れを日本式に鹽漬す。斯かる状態なれば、魚類の輸出市場たる勘察加沿岸は經濟的に日本人の掌裡に在り。勘察加の河川は概して大ならず、其河口はザエズツカ(梁柵)を以て殆ど完全に壅塞するを得。又之を以て溯江する魚類の殆ど全部を遮斷する事を得るが故に、諸河川の畔に集團して殆ど魚類を主食とする騎用犬唯一の食料も亦魚類なり。勘察加住民は字義通りに飢餓に陥らざるべからず。又何等顧みらるゝ所なき勘察加諸河に於ける魚類の數量が、其繁殖に對して斯の如き絶對的の障害ある以上當然減滅せざるべからざるは勿論なるも、露國及日本の密漁者に對する勘察加諸河の保護亦極めて不充分にして殆ど言ふに足るものなし。黒龍江流域は約千五百萬尾の魚類を提供し、勘察加は稍之に勝り、又黒龍沿海兩地方の全水面にては約三千五百萬布度の魚類の收獲あり。而して西伯利全部にては年々五千萬留に下ら

ざる漁獲あり。

西伯利産魚類は優美なる甘味とチール、オムーリ又はチャウイチャの如き唯西伯利にのみ特有の種屬とに依りて勝るも、其製法甚だしく拙劣なり。即ち清淨法不良にして施鹽薄く且つ不潔なる樽に之を累詰す。ペレソフ以下のオビ河に於ては「束魚」を製す。そは薄く施鹽せる魚を大桶に詰め、之を重量物にて壓したる儘に放置し、次で漬汁(若鹽にて作りたる)にて洗滌し、更に之を「束」(香魚三尾を幅とし、高さは十六、七尾)として推積する時は、遂に食用前長く水中に漬け置ざるべからざる程に極めて辛き鹽魚となるに到る。薄鹽の魚は唯八月中にのみ製し、其保存期も短し。蝶鮫の魚卵は最も原始的の方法に依りて製し、之に塊鹽を濃く施す。スキロクよりは干魚を製し、又他の大なる魚類よりは燻製を製す。燻製は干魚となしたる後軽く之を炙焼して製す。目下貝加爾産オムーリの鹽魚は其製法甚だ拙劣にして、製品は概して劣等なり。即ち魚腹の内部は血液の除去不充分にして、魚卵も不潔なり。沿黒龍及勘察加産の魚類の大部分は日本式に依りて製造せらる。即ち脊割したる魚を洗滌し鹽を施し、席上に並べて之に鹽を撒布す。斯くして第二列第三列と順次推積したる魚類の鹽漬倉の屋根に達する迄之を行ひ、然る後

推積は兩側及上部より席を蔽ひ、繩を以て緊縛し、一週間の後魚は更に積み更へ、隈なく鹽を撒布す。日本人は海水より精製し苦味を含み黄味を帯びたる粗鹽を用ゆ。オビ河の下流地方に於ける魚類の凍結法は、漁獲せる魚類を砂洲の附近に設備せる魚禦イグヌに移し入れ、自然的方法を以て之を凍結す。この法は舊來より行はれ、之が爲には或は上流及下流の二個所に障柵を設けて河流を利用し又は湖沼を利用す。魚類は此の魚禦内に晩秋の交迄放置し、然る後之を捕へて凍結せしめたる上、トボールスク縣の南部へ送附す。

西伯利の異種族民は全然原始的の方法に依りて鹽漬魚を製造す。彼等は鹽と樽とを用ふるを知らず。魚類に鹽を施せるあるを發見せず。従て其製造法は次の如きものなり。先づ魚を其尾部に至る迄縦に切斷し干魚となす爲に之を桿に懸下す。此方法は西伯利の東北部全體に行はれ其名稱も地方によりて夫々異れり。即ちオビ河畔に於ては之れをユーロクと稱し、レナ河畔に於てはハハ及ユコラ(製造せられたる魚體の部分に依りて異る)と稱す。尙斯の如くして製造せられたる魚は、西伯利の東北部に於ては一般にユコラと稱す。オビ河畔の異種族民は魚を釜にて幾回となく煮沸して魚體の内臓及び背部の脂肪分ある部分より或る濃厚

なる練物即ちワールク(煮込)を製す。尙オビ河畔の異種族民は、魚デンプ、魚煎餅等をも製す。コルキマ河畔に於ては、八月中漁獲したる鯡を木桶様のものに入れ置き、最早結氷期に入らんとする九月の交に至れば、之を河岸に撒布し凍結せしめたる上倉庫内に堆積す。而かも此時に到る迄に鯡は著しく變質するを常とす。

然れども最近に到りては、西伯利産の魚類に現代的技術の方法を適用する大資本の企業出現し、罐詰製造所、鹽藏所、魚鱗にて他の製品を製し、又は廢物利用をなす工場等を開設し、代辦事務所を設け、同業組合及び労働組合を組織し、冷蔵庫網に關する問題を解決し、地方製産者は外國市場と直接取引を行ふに至れり。オビ河口に米國漁業者家の渡來する者多く、彼等は新に魚類の罐詰をなす新會社を設立せしもの少からず。されど、恐らく此種事業に於て最も完備せるは黒龍江口及勘察加ならん乎。黒龍江口に於ては電氣等を利用して優秀なる設備を有する技術的企業存在し、鮭卵の罐詰に硼酸を使用する方法は盛行はれ、獨逸に對する輸入を禁止せられし今日と雖、之より製したる鮭及其魚卵は既に西伯利以外の外國市場に現はれたるを見る。韃靼海峽沿岸に甚しく多數なる鯡の鹽漬及燻乾は、ゲイゼリング伯爵經營の漁業會社之に従事し、其製品の質は蘇格蘭産のものに譲らず。西

伯利の他の漁業地域について之を見るに、鯡はツヌワ(ベレンソフ附近のオビ河支流)に於ても鹽漬及燻乾し、又ツルハンスク地方に於ても燻乾(實際は鮭の一種なり)するも後者に於ける燻乾法は原始的なるを以て其製品は甚しく劣れり。市場の遠隔、冷蔵庫の不足、施鹽事業の設備及勞銀等の騰貴(特に黄色人の雇傭を禁じ、且外國船舶の沿岸航行を禁止せし爲め)等は孰れも極東漁業者に對する重大なる障害なり。勘察加に於ても亦露國労働者四百乃至四百五十人と自己の汽船及罐詰製造所を有する眞面目なる企業者出現せしが、露人としては概してオビ、エニセイ兩河、勘察加及極東の魚類は、露國及外國市場に對する輸出の甚しく不便にして之が利を享けざる地方住民に良好にして安價なる食料品を提供するに止まるべきか。

現在に於ける鹽漬魚の製造及其輸出の條件に於ては、オビ、エニセイ兩河及貝加爾湖に産する魚類は單に漁獲地より僅少の距離の地に送附さるゝに過ぎず。即ちオビ河の魚類はトボリスク及附近の市郡内に向けられ、エニセイ河の魚類はエニセイスク及クラスノヤルスク、又貝加爾湖産魚はイルクーツク縣後貝加爾州及ウイチムスク、オレクミンスク等の採金所(同地へはレナ河産魚も仕向けらるゝ)に供給せらる。鮮魚、凍結魚及魚卵は一九〇九年中西伯利より合計五十九萬三千布度

を輸出し、一九一〇年に於ては八十二萬七千布度、一九一一年に於ては六十五萬六千布度を輸出せり。

比年益々増加しつゝある西伯利に於ける魚類の漁獲は、同時に其絶對數を減少しつゝあるが如く、之に關してはオビ、ユニセイ、アングラ諸河及バラバ湖并に曠原地方等より愁訴を聽く事あるも、是は一に多數の幼魚を絶滅せしめ、且つ魚類の産卵する上流地方諸支流に於ける土砂堆積の防止を妨ぐる前述の如き密漁に歸すべけれど、森林の濫伐も關係あり、バラバ湖及曠原地方に於ける魚類の減退は、湖沿自體の乾燥及魚類の産卵する河岸の蘆を燃料に使用する事益々盛なる爲にも因れり。無論北氷洋及太平洋は、鮭科の諸魚及鯡の繁殖に適する如き廣大なる流域を有するが故に、聰明にして節制ある漁撈を行はんに永久魚族の盡きる事なからんも、若し之に反する場合には露領太平洋沿岸が曾て異常に魚類豊富なりしに關らず、今や其産出すること甚だ少きと同一の運命に逢着せざるべからず。其極東の諸河川に出て來る際に於ける魚類を密獵者より保護し、湖江の際に於ける漁撈を調整し及幼魚を保護するの必要なるは言を須ひず。太平洋の露國沿岸は宛然全世界の一大天然魚類の如く魚類の自然繁殖に最も有利なる條件を具備する

に拘らず、若し掠奪的にして濫獲的なる方法を以て漁獲せんには、結局同地に於ける魚族は絶滅すること近きにあるべし。

著しく人工的にして大規模なる勘察加沿海地に於ける魚類富源開發の營業は又危険にして好ましからざる半面を有す。政府は露國資本が勘察加の天然富源（魚類）の開發を努めんと希圖せりと雖も、露國企業家の缺乏せるが爲に止むなく凡ゆる特典を與へて之を外國人（日本人）に認可せるなり。

刻下勘察加の魚類富源に對する經濟政策は、現在に於ける濫獲的漁撈を避け難きは勿論ならんも、主眼とすべきは其開發にあらず、寧ろ之を聰明なる其保護に歸着せざるべからず。亂獲的漁撈は、世界三大漁場の一たるオホーツク沿海に魚族をして著しく減少せしむるの虞あり。彼の明治四十年の交日本出漁漁船の一萬尾を優に積み來るを得べき船腹を有し乍ら、その小樽若くは函館に歸來せる漁船の船腹は僅かに其の四分の一にも達せざる慘狀を見たり。是れ連年の濫獲がこの不漁を來たさしめたる一大原因ならずんばあらず。自令海方面に於て海獸保護の協約を見たるが、このオホーツク海魚族保護につきても亦日露兩國の留意して何等かの協定を遂ぐるの要あり。

一九一〇年以降ニコライエフスクより四十乃至四十五露里のオホーツク海上にては、地方市場に於て甚歓迎さる、鱒魚の漁獲開始されたり。同魚の漁獲は極めて簡短なる設備と爾餘の諸魚類の既に黒龍江へ溯江せし後(九月に於て約一ヶ月間に亘り)之を行ふを得るとに依り將來益々發展し且つ有利なる事業たるを得るものなり。

目下其發達不充分なる南部烏蘇里地方沿岸及浦潮斯德附近に於ける海參及蟹の漁獲は現に地方的天然條件と外國市場(海參)に對する支那市場に於ける需要との兩者を以て更に之を一層著大なるものとなす事を得べし。

三、極東地方に於ける漁業

漁業は、日露協約に依りて、日露人同等に競賣することを得るものと、露人のみ漁業權を有するものとの二種あり 後者は、多く河岸又は港灣に在りて、二百留内外若くは無料にて貸下げ、漁量一布度毎に五哥を國財廳に納付せしむ。今一九一三年以來の漁區を示せば、左の如し。

年次	日露協約に依る漁區		露人のみ漁權を有する漁區		總計		
	日本人漁區	露人漁區	長期漁區	短期漁區			
一九一三	二二七	三三	二六〇	二四	六五	八九	三四九
一九一四	二二九	四四	二七三	二五	五九	八四	三五七
一九一五	二三一	三四	二六五	二三	六八	九一	三五六

漁區數は、年々國財廳に定むるとも、日露協約に依る漁區の中には、入札評價に達せずして、落札せざること、又は全然入札せざることあり。漁獲の状態は、年々異なれども、近年は平調にして甚しき變動なし。今一九一三年以來の漁獲量、價格、及國財廳收入を示せば、左の如し。

年次	數量(千布度)	價格(千留)	國財廳收入(千留)	
			日本人漁區	露人漁區
一九一三	八、二三一	一四、一五二	一、一三〇	一、二八〇
一九一四	八、〇〇七	一六、二〇〇	一、二八〇	一、三二一
一九一五	八、五六二	二二、一〇〇	一、三二一	一、三二一

魚類の繁殖は、濫獲の結果、漸次減少するの傾ありとは、露國水産監督者の稱ふる處なり。此に於て當局者は一九一五年に許可したる東海岸、勘察加河のデンビ氏漁區及西海岸、ポリシヤ河のグルシエツキ氏の漁區の長期貸付條件として、毎年鮭鱒の幼魚の放流を命じ、一九一五年には、五十萬尾、一九一六年には、百萬尾、一九一

七年以後には、毎年三百萬尾、放流の計畫にて兩氏は孵化所各一箇を設備せりと云ふ。

漁區は、監視の便宜上、ニコライエフスク地方、マリンスク地方、ハバロフスク地方、西南區地方、樺太地方、オホーツク地方、勘察加西海岸地方、勘察加東海岸地方の八地方に分ち、五名の漁法監視七十六名の製魚守衛を置きて各地方の漁區を監視せしめ、コマンドル、ペーリング、ロイテナンド、ツイツイイモーフの三小艦、ストロージの機關併有帆船、フリードリッフ、ゲークの發動機附漁船、デリフイン、ネルバの小蒸汽船、シチュエーカ、及ナリリムの石油發動機附鋼艇、ストレールカ、ラルナー、チャイカ、クンヂヤの石油發動機附木造小艇等の十二艘の船舶を以て監視用に供す。而して、漁區の監視に要する政府の費額は、二十二萬留以上(十二萬三千留監視人手當船舶乘組人等の俸給手當等七萬七千留船舶修繕其他の費用二萬留以)に達すと云ふ。

一九一四年以來、最近の漁業に關する情報は、日本人漁區の分は多少之を得たれ共、露國人漁區の分、殆んど皆無なるを以て、以下載する所の地方別の記事は、悉く、一九一三年の調査に依れり。

(イ) ニコライエフスク地方

一九一三年度に於ては、漁區百三十九ありて、其内箇人租借區、百十一、ニコライエフスク市租借區、二百十八なり。即ち左の如し。

(A) 漁區別

事項	箇人租借區				ニコライエフスク市租借區			
	長期	短期	長期	短期	長期	短期	長期	短期
租借區數	三	七	七	三	二	一	—	—
租借料(留)	三、八〇三	二、三三四	三、九八四	四、九三三	三、〇七六	二、三五四	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—

(B) 漁獲量

事項	日本式ザエーヅカ		ザエーヅカ		曳網	露國向製魚(尾)	日本向製魚(尾)	氷漬	露人	外人
	計	漁獲總數	計	漁獲總數						
秋 鮭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
夏 鮭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
魚却(布度)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

右の如く、漁獲數約千八百萬尾にして、露國向生魚千五百萬尾、日本向三百萬尾とす。漁場には、特別許可を得たる外人の外は、其使用を禁ずるが故に、我日本人は多くは製魚所にて働けども其數少し。

此他、漁獲量に應じて納税する方法を以て、定住の農民及土人に漁獲せしむ。

一九一三年の漁量約七百八十萬尾、其關係村落百四十五、戶數二千百三十にして、自家用魚類百八十三萬尾を除き、五百九十七萬尾は市場に出賣せり。左に一九一三年度に於ける其漁獲一覽を示さん。

事項	村落數	戶數	人口	漁獲法				
				ザエーツカ曳	三	網		
農民	四九	一、〇三六	四、二二九	五六	一、二六六			
土人	九六	一、〇九四	四、九五七	一八五	四七六			
計	一四五	二、一三〇	九、〇八六	二四一	六〇二			
事項	漁獲數	生魚販賣數	製魚販賣數	自家用數	漁獲數	生魚販賣數	製魚販賣數	自家用數
秋	三、六〇一、三三三	一、九四四、三五七	一、〇〇〇、九二二	七六、〇〇四	四、五八、八〇五	二、九九九、四四四	七、八三五	一、〇九七、六三三
夏	一、九〇〇、七九一	一、一三、八五三	六二、〇〇〇	一、五、八六六	一、六六二、八五二	一、三五一、〇九	四三、三〇〇	二六八、六三三
計	六、八〇二、〇二二	二、九六、六七〇	一、〇六二、九二二	九一、八七〇	六、二五一、六五七	三、二九〇、五三三	一一一、六三三	二八六、二六六

魚類中鱒、カルガ、シীগ等は繁殖保護の爲め許可票を有するものに非れば漁獲することを得ざらしむ。一九一三年に於ける其漁獲量は約四萬布度に達せり。

價格は鱒生魚は百尾一留乃至一留五十哥(オセルバールに於てのみ七十五哥)にして、鹽魚は二留五十哥乃至三留五十哥、夏鮭は四留乃至五留、鹽魚は十四留乃至十五留、時に十八留に上りたることあり。

(ロ) 西南地方

本地方の北部には、日露協約圏内の漁區多く、一九一三年の總數は、三十二箇、其内露人の租借せるもの九箇にして、國財廳の租借收入は、七萬八千四百四十六留なり。

殆んど鯨漁のみにして、同年度には、二千五百萬尾を獲たり。

ワニーナ、イムベラトルスカヤ、ガワニ、スウヤータヤウラヂーミラ、スウヤータヤオリガ等の灣内に於ける漁區及オリガ灣に注入するアウワクモールカ河の一漁區は、日露協約圏外に在りて、其數十二、鯨漁を主とす。一九一三年は、不結果にして僅に二百四十萬尾を得たりと云ふ。

南部は、彼得大帝灣、及ボセツト灣を含み協約圏外に屬し、一九一三年には、七十六漁區あり、彼得大帝灣の漁獲は、鯨千四百萬尾、ナワীগ八十六萬尾、鱈六萬五千尾、香

魚二百八十三萬尾を主とし、其の他若干の鯖、鱈、蟹、牡蠣、蝦、海鼠等なり。
 一九一一年五月二十九日發布の規則を以てダッタ河口兩側四露里の間を禁漁地とし、以て魚類の繁殖を計れり。今尙西南地方の全漁區に於ける一九一三年度の漁獲數を左に示さん。
 (單位千布度)

魚名	協約圏外の漁區		協約圏内の漁區	
	協約圏外の漁區	協約圏内の漁區	協約圏外の漁區	協約圏内の漁區
鮭	一〇二	二八七	二八七	—
鱈	二一三	七九	七九	—
鯨	一五、八四九	四六	—	—
ナローガ	九三三	—	—	—
香魚	三、四〇〇	七六一	—	—
鯖	一五〇	—	—	—
計	—	—	二一、八二〇	二六、〇三二、七
蟹	七、五〇〇(布度)	—	—	五六五(布度)
昆布	—	—	—	一七三〇(布度)

同年の製魚高は、歐洲向十一萬六千三百三十九布度、日本向十二萬六千五百五布度、支那朝鮮向七萬布度を算せり。
 本地方に於ける價格は、殆どニコライエフスク地方と異ならず。

(ハ) 樺太地方

一九一三年の協約漁區は、九箇にして、其内四箇は露人、五箇は日本人の借區に屬す、而して同年度の漁獲は、鮭三萬八千尾、鱈十八萬三千尾、鯨四百四十八萬三千尾なり。

協約圏外の漁區は四箇なるが、其内二箇は漁場にして、ナビール及チャイノ灣内に、他の二箇は製魚場にして、ギリツン入江に存し、同年の漁獲は鮭三萬九千尾、鯨千尾なり。

同年の製魚高は、四萬千三百八十布度にして、その内譯次の如し。(露國向四、七五〇布度、露國向魚卵一、三三三布度、日本向鹽引一六、四三八布度、鯨粕一六、四四二布度、魚油二、二五四布度、日本向魚卵一八二布度等)。

價格は生鯨千尾に付二十八留内外なり。

(三) オホーツク地方

一九一一年五月二十九日發布の規則に依り、オホーツク河口の西五露里と、クフツイ河口の東五露里と、左記河口の兩側四露里の海岸とは、禁漁地と指定せられたり。

- (1) ウリヤ河口 (2) ウラーク河口 (3) イーニヤ河口 (4) コーラ及タウ河口 (5) ヤナ河口 (6) アルマシ河口 (7) オラ河口 (8) ヤマ河口 (9) タフタヤマ河口 (10) ナ

ヤハン河口 (11)ギジガ河口

一九一三年に於けるオホーツク河附近の海岸には、協約漁區七箇あり、鮭六十八萬尾、鱒二十萬四千尾を漁獲し、其他河上及海岸に於ける露人特有漁區には、六箇の製魚所、十箇の漁場ありて、鮭百二十三萬五千尾、鱒二十四萬五千尾、其他の魚類二十萬尾を漁獲せり。製魚高は、露國向三萬二千百布度、日本向十六萬二千布度と、露國製法に依る魚卵一萬二千五百布度、日本製法に依るもの四百布度にして、價格は、鮭(生)千尾に付五十七留、鱒五十留内外なり。

(ホ) 勘察加西海岸地方

勘察加中最も盛なる地方にして、一九一三年には、百五十二箇の協約漁區あり、其内九箇の外は悉く日本人の漁區にして、總漁區租借料三十四萬千三百四十六留を算し、協約外の漁區は河岸に在りて其數十三あり、而して河口漁業制の地は、左の九箇所にして、漁業家に多少の不滿を與へたりと云ふ。

- (1)チギール河口西南各四露里
- (2)オブルユーウイ河口兩側四露里半
- (3)コルバコーワ河口北六露里半南四露里半
- (4)ヲローフスカヤ河口北六露里半南四露里半
- (5)コーリ河口の兩側四露里半
- (6)クイクチク河口北四露里半南二露里半

(7)ボリンアヤ河口北八露里南四露里 (8)オパール河の北四露里半南二露里半
協約漁區に於ける漁獲數は、三千九十萬九千尾にして、其量二百二十五萬六千布度に上れり。左に日露兩國人の漁獲數を比較せん。

事 項	チヤウイチヤ	鮭	紅 魚	キジユーチ	計 (尾)
露人借區漁獲數	九五	一九二、八七三	一、三四〇、六八五	二五、四四七	一、一九八
日本人借區漁獲數	五、二一六	三、九〇二、六四六	二四、一六〇、七六二	二、二六九、一七六	九七、〇七六
計	五、三一一	四、〇九四、五一九	二五、五〇一、四四七	二、二九四、六三三	九八、二七四

協約圏外の漁區はボリシアヤ、オゼールナヤ、コルバコーワ、クルトゴロワ、ユリ、ヲローウルカヤ、オパール等の諸河に於けるものを主とし、其漁獲數左の如し、單位尾)

チヤウイチ	四、一九一	鮭	三七三、八一二	鱒	一、八四二、〇九〇
紅 魚	二二六、六五三	キジユーチヤ	三三三、一九五	ゴリョツア	九九、六九〇

河岸の製魚區は十六箇あり、重に魚卵を協約圏外の漁區に求めて之を精製し、其量一萬千四百八十一布度に達したり。
協約圏内外の漁獲數、及製魚量を綜合すれば左の如し。(尾單位)

漁區	魚類	チヤウイチ	鮭	鯉	紅魚	キジユイ	チヤ	ゴリーツア	計
協約圏外		五、三二一	四、〇九四、五九	三、五〇一、四四七	一、九四四、六三三	六、二七四	五、〇六〇	三〇、九六九、三三四	
協約圏内		四、一六六	三、七、八三三	一、八四一、〇九〇	三、六、六三三	三、一、九五	九、六、六〇	二、五九、六六六	
合計		九、四八七	四、四、六、三三	二、七、三、四、五三七	一、五、一、二、七、七六	一〇、一、四、六九	一四、七、七、七〇	三三、五、六八、〇〇〇	

之に依て製魚したること左の如し。(單位布度)

露國向魚類	一七〇、六三二	露國向罐詰	六八、〇九一
日本向製魚	二、二四五、七六七	露國製方魚卵	八〇、九五五
日本製方魚卵	九、一四五	肥料粕	二五〇
合計	二、五七四、九四〇		

價格は魚卵一布度一留三十五哥乃至二留五十哥 鮭(生)千尾五十八留内外なり。

(一) 勘察加東海岸地方

年に依りては勘察加西海岸よりも大漁なることあり。一九一三年に於ける協約圏内の漁區は六十一にして、其の内四十九は日本人、十二は露人之を租借し、租借料約十八萬留を算せり。カムチヤツカ河口の西十露里東四露里は禁漁場にして、同年度に於ける協約圏内の漁獲數は、大約チヤウイチ三〇、〇〇〇、鮭六、四六四、〇

〇〇、鱒二、六二四、〇〇〇、紅魚三、九七、〇〇〇、ギジユイチヤ九八、〇〇〇、其他三、〇〇五 合計一二、七一五、〇〇〇尾なり。

同年に於ける協約圏外の河上漁區は、デンビ、グルセーツキ、エリクソン等を重なるものとし、總數三十一區にして其内一區は製魚所なり。其漁獲數は、チヤウイチ一、三一五、鮭一、〇五五、〇四五、鱒六、四七、五九五、紅魚四、六〇、四九四、ギジユイチヤ四、七八〇、ゴリーツア一八、六七、一、鱒八、八、七、四〇尾なり。尙地方全體の製魚高は左の如し。(單位布度)

露國式製魚	九九、三〇二	露國式罐詰	九八、四六六	日本式製魚	一、二八〇、二〇七
露國製方魚卵	五三、八六九	日本製方魚卵	八、一九五	合計	一、五四〇、〇三九

價格は鮭(生)千尾に付六十留、魚卵一布度に付二留五十哥内外なり。

(ト) マリンスク地方

本地方の漁區租借者は、全部露人にして、外來者あり、土着者あり、漁場附近には十八箇の農村、四十九箇の土人部落、合計七百餘戸(露人三百戸、土人四百戸)あり。而して、農民及土人は、自家食用として、租借區外にて無償漁獲を許さる。一九一三年に於ける漁區は、短期のもの十三箇、長期のもの六箇と、短期製魚所十一箇にして、租借

料一萬千四百留に上れり。鮭鱒の外鱈及カルガの漁獲頗る多く、年々一萬布度に達すと云ふ。鱈及カルガは流水期より六月十五日(露曆)迄漁獲を禁じ、其他の時期に於ても二重網の使用を禁じて其濫獲を防ぐ。今左に一九一三年の紅魚類漁獲數を示さん。

	夏 鮭	秋 鮭	計(尾)
農 民	四四、四〇〇	四八〇、三二一	五二四、七二一
土 人	六五〇	三三〇、三三四	三三〇、九八四
租借漁區	三二、四一〇	一七四、四〇一	二〇六、八一
計	七七、四六〇	九八五、〇五六	一、〇六二、五二六

製魚量は左の十六萬布度以上に達し悉く露人向なり。

夏 鮭	一一、三六一、布度	秋 鮭	一四一、一四四布度
魚 卵	七、八三二布度	計	一六〇、三三七布度

價格は魚卵一布度一留八十哥、鮭生千尾六十一留内外とす。

(チ) ハバロフスク地方

本地方に於ける漁區は僅に三箇、租借料金僅に六百萬留にして、其内二箇は漁場

一箇は製魚所なり。二十の農村、十九の土人部落、當地方に散在し、漁區以外に於て自家用として無償漁獲を許さる。鱈及カルガ多く、一九一三年には鱈四、六二三尾(二六〇布度)カルガー、六〇〇尾(二三〇〇布度)を漁獲し、其漁期及漁法に關する制限はマリンスク地方と同様なり。秋鮭の走り亦少なからず、二七八、四一四尾(租借漁區尾他は農民及土人の漁獲とす)を獲たり。夏鮭は頗る少なし。

鱈、鱈カルガの外、シチーカ、レーレチャ、鯉、鮒、ソーマ等、亦少なからず。農民及土人が、ハバロフスク市場に搬出したるもの約一布度に對し、五哥納稅法を以て、九人の漁夫内八は夏期のみ一は全期に漁獲權を與へて、其漁獲狀態を見るに漸次好成绩なりと云ふ。

價格は、マリンスク地方と殆ど同様なり。

第三節 狩獵業

前掲の如く北部及東部西伯利に於ける諸河川の下流地方は天然的に漁業地域たり、從て漁業は同地方に於ける人類の最も自然的にして且最も有利なる事業たるが如く、西伯利は其氣候及風土の條件に依り又其植物の性質に依りて、最も狩獵業に適せる廣大なる地域を有す。斯の如き地方に於ける狩獵——陸棲動物の單純

なる狩獵——は寧ろ單に其住民が經濟的發達に於て甚しく劣等なる爲のみならず、更に前述の風土的條件によりて彼等の生計上之が主要なる資源をなすものなり。廣大なる北東西伯利は、森林獸類の棲息に最も適當なる條件を呈し、此等獸類中には林棲獸類たる鹿及特に麋の如く最北部及鬱林地帯の最も繁茂せる部分(北緯六十度に至る迄)を好むものあれど、他の獸類并に或種鳥類は鬱林中よりは寧ろ河谷及比較的森林の疎なる地方に棲息す。是れ飼草密生せるが爲なり。

一 狩獵地域

鹿及び北極狐を主なる産業的獸類とする西伯利の北部及び東北部の蘚苔地帯の後方には、多種多様にして豊富なる食物を有する鬱林地の廣大なる地帯連りて、其の極北部地方に於ては鹿を産し、其の南部に於ては麋熊^{オシカ}及狐を産す。同地方には又栗鼠其他の小動物を食する黒貂及栗鼠の棲息するありて、柏林は此等の動物に潤澤なる飼料を提供す。此地帯の左して鬱叢たらざる針葉樹林に於ける松鷄、蝦夷山鷄は茲に其好餌を發見す。彼等は皆産業的の鳥類にして樹鷄は殊に然り。更に其以南の亞爾泰、サーヤン山麓、黒龍及特に沿海州に於ける鬱林中には深林帯の獸類の外野生の山羊、小鹿及麝獸を加ふ。西伯利の行政區劃及其水路學と關

聯せる西伯利特有の狩獵地域の最も正確なる區分は次の如し。西部西伯利に於ては概してトボリスク、トムスク兩縣に於て比較的多くの住民を有する諸地域の北方の森林帯即ち詳言せば柏樹と黒貂の名所(タウダ河に沿へる)たるベルキムスク地方、ベレソフスク、スルグーツスク兩郡并にトボリスク、タールスク(トボリスク縣)兩郡の北部、トムスク縣内のナルキムスク地方、トムスク郡の東部、チユルキマクマリインスク郡内(口沿岸地方)、トム、ムラスサ、コンドム、クズネーツク郡、ビイ、チユルキシマシ(ビーイスク郡)諸河沿岸の森林等東部西伯利に於ける産業的狩獵地域は、ツウルハンスク地方、タソフスクと共に(ミヌーシンスク郡の鬱林地、ウシンスク地方、プリアンカリエ、ツウンキンスク地方、イルクーツク縣の西南部、キレンスク郡附近の鬱林地部)エニセイスク、イルクーツク兩縣内(後貝加爾の北部諸郡就中バルグジンスク郡)及ヤプロノイ山脈に沿へる鬱林、ヤクーツク州及勘察加とし、極東地方に於ては狩獵業は到る所に發達せるも、就中北部に於て著しきこと勿論にして、概して極東地方は柔毛獸類に豊富にして、其種類の多種多様なるに於て、恰も魚類の豊富と種族の多様に於けるが如く、實に世界唯一の地方と云ふべく、その然る所以については、廣大無邊の面積(約二百五十萬方露里)の間多種多様の森林の外には空

漠たる山嶺沼澤及び恐らく永久に人跡未踏の儘に委せらるべき(北部に於ける)空地等の散在するあるのみなる地方の異常なる自然的條件も亦與つて力あり。而して前記の諸事象は若し人類が同地に於ける柔毛獸類を尙一層聰明且つ慎重に利用したらんに、極東西伯利をして地球上唯一の廣大なる自然的狩獵公園たらしむるを得なければなり。然れども極東西伯利は現在の儘にても西伯利に於ける最良にして最大なる狩獵地域なること勿論なり。

狩獵業は、ツウングス、オロチヨン、カラガス、ラムーツ、コリド等の如き放浪的異種族民の爲には、特殊的職業たると共に其生存の唯一の源泉にして、又前記の西部及東部西伯利の狩獵地域に於ける未開の異種族民及露國人の爲には、重要なる副業たるも、ベルキムスク地方、キレンスク、バルグジンスク兩郡及極東北部諸域に於ては、寧ろ唯一の生業たり。唯だ極東南部は異種族民のみ専ら狩獵に従事す。

二、黑貂

往時に於て黑貂は烏拉爾山よりベリリング海に達し及西伯利の南境より北緯六十八度に至る北部亞細亞の東部全體に於ける普通の林棲獸なりしが、今や其棲息地域は雜草の最も繁茂し且西伯利に於て最も人跡稀なる地たる綠地地方(極東

北部の大部)に變せり。西部西伯利の區域内に於て未だ黑貂の棲息する地方はタウダ地方のベルキムスキー地方、コンダ、ツウルタス兩河畔(トボリスク郡)、ベレソフスク(ツシワ河畔)、スルグーツスク兩郡内、トボリスク縣、トムスク縣内に於ては、ナリキムスク地方、クズネーツク、ビーイスク兩郡内(孰れも其山地及鬱林地方)にエニセイスク縣内に於てはツルハンスク、ウシンスク兩地方及びアングラ河沿道、イルクーツク縣に於てはキレンガ、イリム兩河沿道、後貝加爾に於てはバルグジン、チコイ、ネルチャ諸河沿道、ヤクーツク州に於てはウイテム、ムイ兩河沿道及コルキムスク地方沿黒龍兩州に於ては黒龍、烏蘇里及ウヅスク諸郡内(シヤンタルスキー島を含む)其他樺太及勘察加とす。

西伯利に於ける産業的柔毛獸類は全部とは云ひ難きも、東方に寄るに従ひ良好となる(一層柔軟且つ暗黒色となり來る)傾向あるを以て、西部西伯利産の黑貂は其毛色と密度と孰れに於ても最も劣る。即ち就中良好なるはベレソフスク、ナリキムスク兩郡産にして、最も不良なるをベルキムスク、トボリスク、タタールスク諸郡産とし、ビーイスク、クズネツク兩郡産は中位に位す。ツウルハンスク産黑貂は暗色の濃密なる毛皮を有するも、其毛は硬くして光澤なし。従て暗黒色にして濃密、

柔軟且つ光澤あり其尖端銀色を帯ぶと云ふ。黒貂の毛の理想に合致せず。目下殆ど其影を見ざる斯かる理想的の黒貂——ウイテムスク、バルグジンスク、クムイスク諸郡産——は、寒威酷烈にして海岸より離隔せる純大陸的地方に棲息す。従つて勘察加産黒貂は土地の氣候餘りに濕潤なる爲に其質著しく劣れり。沿黒龍産中良質のものこそせらるゝは、ゼイスク産にして、之に亞ぐをアムグンスク、黒龍兩郡産とし、樺太産最も劣れり。黒貂の平均價格は、毛皮一枚に付バルグジンスク産四百留、ゼイスク産三百留、勘察加産百留にして、黒龍産は僅に二十五留なり。黒貂皮の特種品は、一種千五百留にも達すれども、最も經驗ある専門家のみ唯正當に貂皮の評價をなし得るものとす。現在貂皮を最も多數に産するは黒龍——沿海地方にして、ハバロフスク、浦潮斯德、ニコリスクウスリスク、ブラゴウエシチエンスク等は、同地方に於ける最も大なる毛皮市場なり。

黒貂は先づ通例三種の毛皮即ち頭部(上物)中部(中物)及尾部(並物)の三種より組成して一組となさるゝものとす。組はその含む毛皮數不定にして其價格も亦一定せず、又一組内に含まるゝ毛皮の種類も亦多種多様なり。頭部のみは勿論中部のみの一組を購入する事も尙至難なり。そは毛皮商人の何人も下等品のみ自己の

手許に残存せしめんと努むるが故なり。是れ黒貂の皮が甚しく損傷し易き爲にして、同皮は一年後には著しく淡色に變じ、従つて其價格を失ふが爲なり。沿海黒龍兩州に於ける黒貂は、他の柔毛皮類と共に異種族民の定期市に於て多數のヤク——ツ族を有する買出商人に購入せらるゝものにして、外國人及露國人は直接異種族と取引せんと試みしも、其の企圖は悉く失敗に終れり。然れども今や買出人相互に競争して長驅鬱林地方に於ける異種族民の許に進入するに至りしが故に、同地方異種族民は彼等の爲に惱まれて益其の經濟的從屬は甚しきに到れり。

三、栗鼠

栗鼠も漸次東方に進むに伴れて其毛は暗黒色を帯び且つ柔軟となる。即ち烏拉爾地方に於ける淡灰色より漸次暗色を帯び、次に栗色となり、ネルチンスク地方に於ては終に暗碧色に變ず。栗鼠は杉及柏の成長せる西伯利の各地に棲息し、其數は異常なる増殖力によりて層一層増加するを以て、殆ど西伯利各地に於ける狩獵業の基礎をなせり。西部西伯利に於ける栗鼠并に一般柔毛獸の販賣中心地はオブドルスク、ベレゾフ及ムージ(ベレゾフスク郡)、ベルキム、ガリ(ツウリンスク郡)、スルグーツ、エガンスコエ(スルグーツスク郡)、ナルキム、チキムスコエ及バラベリスコ

エ、ナルキムスク地方)にして、東部西伯利に於ける栗鼠は、西部西伯利に比し更に一層大なる地方の毛皮市場(エニセイスク、イルクーツク、ヤクーツク其他)に出づ。

四、狐

狐類は西伯利に於ては管に森林内のみならず、曠野地方にも到る所に普及す(曠野地方の狐—コルサク—は帶白色褐色又は橙黄色柔軟且つ濃密にして甚だ温暖なる毛皮を有す)。西伯利産の狐は露國産より稍軀幹大にして、其色は東方へ接近するに連れて益々濃厚なり。即ちレナ河畔に於ては其毛皮は濃黄色なるも、勘察加に於ては既に濃橙色(赤狐)なり。橙黄色の狐はシウオヅウーシカと稱し、又全然黒色のものは黒鳶狐、銀色狐と稱して、一頭約四千留の價值あり。黒鳶狐は特別の種族にあらざるも、其毛色の好尚さるゝ事は、恰も白貂又は黒兔の如し。狐及び狐の最も好んで食する兔の關係は認知されたり。即ち兔の在る所には狐も亦必ず所在す。北氷洋沿岸には白色及極めて稀に藍色の北極狐を産す。北極狐はレナ産を最良とす。

五、黄貂

西部西伯利に於ける黄貂は東部に比し優良にして體軀大なり。バラビンスク、

イシムスク兩地産を優良とし、トボーリスク、エニセイスク及レナ産之に亞ぐ。

六、兔

兔類は開濶地のみならず、曠野地方にすら多數棲息す。夏期灰色にして冬期雪白なる西伯利兔は、其毛濃密なるも脱毛する事尠く有孔膜厚くして歐洲産のものに勝れり。兔は管に其價格に於てのみならず其數量の點に於ても西伯利獵夫に良好なる収入を與ふ。即ち其獵獲は年々百萬乃至百五十萬頭に達す。タールスク、チュメンスク、クルガンスク諸郡は既に多數の兔を産し、クルガンスク産は、西部西伯利に於て最良なるも、西伯利全部に於ては、ツルハンスク産兔最も優種なり。

七、他の毛皮獸類

産業的價值より西伯利に於ける爾餘毛皮獸中特記すべきは鼠狼(良種は東部西伯利に産す)、熊、ヤクーツスカヤ産を優良とす、臭猫、山撥鼠(後貝加爾に於けるタルバガン産良し)とす。山撥鼠の皮は獨逸ライプチツヒに於て多大の需要あり。是れ同皮が他の毛皮類に比し最も小細工物に適するが爲なり。

最近一年間に於ける獸類の獵獲状態を表示せば左の如し。

(△は一九一二年、○は一九一一年、他は一九一三年若くは一九一四年なり)

州縣名	熊	猪	麝	狐類	黑貂	栗鼠	羚羊	山猫	兔	狼
勸察加	三,〇五〇(頭)三,〇五〇 五九,八〇〇(留)五九,八〇〇				一五,〇六六 三,四八,九〇〇	六,五〇〇 四,五〇〇				四,五〇〇 二,五〇〇
樺太	一八			一七	一三	一七			五,〇八二	
沿海	二,九〇〇	一三,〇〇〇		三,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇			五,〇〇〇	
黒龍	二,〇四五	三,九〇〇		七,〇〇〇	二,九〇〇	三,六〇〇	三,六九八		一,八八〇	二,三三五
後貝加爾	三三八	一八,〇四六		四,〇二二	一,〇〇五	三,六〇五	六,九六六	四三三	一,〇三三	五,七四四
△エニセイスク	五,七〇八	一八,七二四		三,三三〇	一,〇〇五	一,七三三	六,九六六	四三三	七,七七	七,四四二
○ヤクーツク	一,九五	二,六二四		三,三三〇	一,〇〇五	一,七三三	一,〇四五	一,〇四五	七,七七	一,九七七
トムスク	三三三			二,五三	一,四一五	一,九一〇			二,一五二	二
イルクーツク	五,三三			七,〇〇五	八,三三	一,五三,三七一			一,六八	六二,八五五
キレンスク、ウエルホレンスク、ニーツネウァヤンスク三郡盛んにして一九二二年十五萬三千留の獵獲あり。						六三,九〇六			三,七九〇	二,九〇七
トボリスク	一九一五年獸類三十六萬二千留の獲あり。									
△アクモリスク		四〇〇		五,一〇〇		二,三〇〇			一五,六〇〇	二,五〇〇
セミパラチンスク	狼兎熊虎等にして一九一三年の調査には獵獲二萬留を算せるのみ。								四,六〇〇	

八、鳥類

更に西部西伯利の主要なる鳥類は、雁、鴨、松鷄、蝦夷山鷄、鷓鴣及び樹鷄にして、森林

の豊富なる事は樹鷄の繁殖を助長す。鴨及雁は主として毳毛及羽毛を得る爲に鐵道より最も離隔せる地域にて之を屠る(トボリスク郡の北部及雁及鴨の卵を其巢より奪取する最も慘酷なる習俗の廣く行はるゝスルグツスクに於て殊に著し)。輓近曠原地方に於ては甚だ美味なる灰色鷓鴣の輸出額増加せり。東部西伯利に於ては、地方市場の制限的なる外部市場の遠隔する爲に鳥類の狩獵殆ど行はれず、唯南烏蘇里地方は雉子獵發達し、獲る所多くは莫斯科及彼得堡へ送附せらる。

九、狩獵の方法

狩獵の方法は異種族民の用ふる方法轉じて露國人の用ふる所となれり。技術の上に於ては孰れも原始的なるに拘らず、西伯利異種族民の創意に係る獸類捕獲器具は其目的に叶ひ、且つ異種族民の經濟狀態に相當するものなるを以て其結構最も完全し居れり。此等の設備は之を三種に大別するを得、即ち落下式(及び其一種たる緊壓式)弩弓式及係蹄是れなり。第一種(各種の罾、スループキ、バスター、狐窠等)のものは餌に依りて誘惑されたる動物の其裝置に觸るゝや否や窠を掛けたる板又は丸太上方より落下して之を壓着す。チエルカナ及クリヤブツキ(窠罾)は特別の裝置に依りて餌に觸れたる動物を緊壓する弩弓と垂直に掛けられたる窠罾

なり。弩即ち弓は接近し來る動物に水平に面し、彼等が弦と連絡する裝置に觸るゝや否や夫を發射して之を傷くるものとす。係蹄に依りては二個の森を連絡し、栗鼠の爲に恰も空中の小徑の如く思惟さるゝ樹上に毛製の係蹄を附したる樹枝を水平に垂下して、栗鼠、黒貂及樹鷄を捕ふ。東部西伯利に於ては、黒貂はクルガウオクを以て捕ふ、即ち十月初旬黒貂が眞實の橋と思ふ如く大なる樹木を小川に横へ、其樹枝の間に小枝に結縛したる毛製の係蹄を隠匿し置き、小枝は腕曲せしめたる上小き鈎を以て之を支持せしむ。係蹄の鈎より放るゝや小枝は忽ち眞直に復して之に掛りたる黒貂と共に係蹄を上部に跳ね揚ぐ。栗鼠は緊壓的裝置ブラシエクに依りても之を捕へ、兎は二個の丸太を以て製し獸類を壓着するバステイに依りて之を捕ふ。桎梏、網及ベレウエス(桶落しの類)に依りては、雁鴨を捕ふべく、ブレソツア(毛製の罟)に依りては樹鷄、シリシエク(罟)に依りては松鷄を捕ふべし。狐及他の稍大なる動物は各種の弩弓ロッシ(狝罟)に依りて捕ふる事あり。

一〇. 狩獵動物數の減少

狩獵地積の減少と狩獵者數の増加とは當然産業的動物の數をも減少せしめざるを得ず。狩獵業を一定の程度に置かんは廣大なる狩獵地積と増加なき狩獵者

とを有し以て初めて行ひ得べし。西伯利に於ける産業的狩獵地積は減少し、又獵夫の數も放浪的なる異種族民獵夫の一般的減少に依り其數を減せしと雖、其代償として露國人たる獵夫の數を増加し、且經濟的原因と市場の要求とに依りて柔毛皮を可及的多く市場に供給する必要は極度に達せり。西伯利に於ける陸棲獸獵獲第一の時期は濫獲の爲に既に經過して今や即ち必要なる物資の缺乏及狩獵獸の不足を感ずる第二の時期到來せり。蓋し西伯利に於ける柔毛皮獸の減少は一點の疑を挾むの餘地なき事にして、西部西伯利に於ける狩獵業は僻遠の地に於てすら著しく不振に陥り、東部に於ても甚だしく縮少して黒龍沿道に於て既に柔毛獸の數は減少せり。内國毛皮市場に搬出する柔毛皮の數量は益々遞減するも其價格の益々昂騰する事はヤクーツク定期市に出荷する柔毛皮の數量及び其價格に關する左記の二表に依りて之を看取するを得べし。

品名	自一九〇〇年 至一九〇五年	自一九〇六年 至一九一〇年
黒貂	三、五〇〇頭	一五〇乃至二〇〇頭
栗鼠	八〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
赤狐	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇

北極白狐

一四、〇〇〇

一〇、〇〇〇

同地に於ける毛皮一枚の價格に關する表は更に一層興味あり。

品名	一九〇九年	一九一〇年
黑貂	八七留	一六〇留
北極狐	一一留	二一留
赤狐	一〇留	一八留
栗鼠	四四哥	七五哥

一九一〇年に於けるイルビーツク定期市の取引(柔毛皮類)は總額八百三十五萬三千留を算し、一九〇九年に於ける六百十萬留に比して二百留以上の超過を見たるが其數量は前年度の半數に過ぎざりき。即ち柔毛皮價格の著しく騰貴せしこと知るべし。一九一三年に於てはイルビーツク定期市場に於て栗鼠四百三十五萬五千頭(一九一二年に比し二百七十萬頭尠し)の取引あり。柔毛皮取引の總額は七百四十三萬五千留(前年に比し六十萬留方尠し)なり。産業的獸類の減少は、黑貂の例に於て特に明瞭に之を看取するを得。十九世紀の終末及二十世紀の當初より以降西伯利に於ける黑貂の撲殺とイルビーツク定期市場に對する其輸出は益々

々盛大となれり。即ち一八九九年六萬千頭、一九〇〇年五萬五千頭、一九〇一年四萬六千五百頭、一九〇二年五萬二千二百頭、一九〇三年二萬五千五百頭、一九〇四年二萬二百頭、一九〇五年一萬二千八百頭、一九〇六年一萬二千七百八十頭、一九〇七年一萬三千七百頭、一九〇八年一萬五千百頭、一九〇九年二萬百七十五頭、一九一〇年一萬二千五百七十七頭、一九一三年一萬五千五十頭にして、其價格も一割五分乃至二割方騰貴せり。尙ほ前掲以前の諸年も亦其輸出高は著しかりしが、一九〇五年以降に至り、一轉して輸出減少の度著明となり、終に脅威的程度に達するに至れり。稍近年に至る迄西伯利全體に於て一年十萬乃至十二萬頭の黑貂を獵獲せしも、一九一〇年に至りては遂に二萬三千頭を出づる能はざりき。蓋し西伯利に於て黑貂減少する原因は(一)狩獵業者の増加、(二)早春等に於ける時期外れの狩獵(三)カブカナルガウカ其他の係蹄が全然無益なる殺生をなして黑貂を各種猛獸の食餌となし終るか乃至は單に負傷せしむるに止まりて屢々之を逸走せしむる等の諸點に歸す。特に有害なる影響を與ふるは、黑貂の交尾時及母貂の懷胎時たる早春に於ける狩獵にして之がために千頭につき五千頭の雛兒を有する黑貂の後裔を減少せざる能はざるに至らしむ。尙又早春に於て狩獵を行はざる黑龍州に於てすら、

黑貂の獵獲は最近に至りて四五割方減少せり。採伐及火災に依る森林面積の廢滅も亦、他の狩獵獸類の如く黑貂の減少に影響す。毛皮業者の運動の結果一九一三年二月一日以降各地に於ける黑貂の狩獵を一九一六年十月十五日迄禁止すべき法律實施せられ、總じて柔毛獸の保護は喫緊の要務とせらるゝに至りしも西伯利の現狀に於て之が實行は、狩獵業に對する實際的の監督不可能なると同時に其地域僻遠にして且つ廣袤殆ど際涯なく、又本事業に對し何等の協力をも期待し難き住民の非文明なる等の爲に恐らく之を想像するだに不可能なり。其外ゴリドオロチヨン其他の異種族民は唯黑貂業に依りてのみ生計を營むものなるが故に單に此一事を以てするも同狩獵を三年間禁止せるは實際に於て不可能なりしが如し。スーチャン河上流より北方黑龍江に至り、更にツウグルスク入江及ウダ河口附近のオホーツク海に至る各支流を含むシホタ、アリン山脈の廣大なる地域に於ては、二百五十萬留以上の黑貂を輸出する大規模の密獵行はれ、支那人専ら之を指導せり。同地に於ける支那人は其數數萬人の多きに達し、鬱林内に於て秘密に屯所、部落及其市場等を設置すれど、何人も彼等が何處より渡來し且つ何處へ西伯利の毛皮産物を搬出するかを知る者なし。又單に一警察の禁止的處分を以てし

ては、嘗に各種の密獵を絶滅する事のみならず、栗蠟の獵期を整正する事すら不可能なるに依り、之が爲には地方民側よりの發起と監督とを必要とす。目下全西伯利中唯ビノイスク郡内に於てのみは、繁殖及約獸哺育期たる二三月の交に於ける高價獸の狩獵を行はざる慣例を固く制定し、又毛皮獸類の保護は、決して狩獵を行はざる禁制地即ち禁制林を設けて西伯利の所々に行はれ來り、既に此種の動物保護地は西部西伯利に於てはトボリスク縣のツウリンスク郡内に存し、聖オリガ灣附近の沿海州にも私設(地方獵夫の設置せる)及官設の二ヶ所を有す。

一一、養獸業

終りに西伯利各地方に於ては、既に産業的獸類に對する關係の第三時期の徵候を認む。亞爾泰に於ける養鹿業者(馴鹿)は、前掲の如く既に前世紀の三十年代より特殊の養鹿場を設置し、一部のヤクトツ族は狐穴より幼狐を捕獲し、彼等の生來食餌とせざりし梭魚を以て食餌とし、特に設備せるサイド(木組の小舎)内に於て之れを飼養す。斯かる幼狐は之を飼育狐と稱し、其毛皮は野狐の毛皮に比して價格稍低廉なり。エニセイスク縣カンスク郡内に於ても同じく所々に此の養狐法行はれ、狐は廣濶なるスタイカ營内に住するも、其毛皮は殆ど野狐の夫に等し。リヤ

リン氏は最近トムスク市に於て狐の爲に特殊の養育場を設置し、又コンラド、マズニコフ兩氏は、浦潮斯德附近のベスチャヌイ半島に於て雌三頭雄四頭を有する黒貂の養育場を設置せしも、産業的目的を以て狐及黒貂の如き獸類を完全に馴らす事は、此等の獸類が野性と狡猾性を帯ぶる結果困難なる事業たるが如し。

一、二、臘虎

コマンドル諸島沿岸及勘察加沿岸に出現する臘虎も亦密獵の結果絶滅せんとしつゝありて、貴重なる柔毛獸に屬す。勘察加産臘虎の價格高價なるは毛皮一枚に付約三、留、益其絶滅を速進するものにして従て其保護は喫緊の急務なり。

一、三、臘肭獸

一歳中常に氣候極めて濕潤にして何等の植物をも有せず、永久濃霧に鎖されたるコマンドル諸島(ベーリング海に於けるベーリング島及メーヅヌイ島)に於ては、自然は地方住民に唯一の生業を與へたり。臘肭獸業即ち是なり。此等の島嶼には往時毎年四月の下旬の頃臘肭獸の無數に集團するを見るが常なりしも、今日に於ては、益々其數を減じたり、牡臘肭獸の多數が先づ渡來して家族的棲息をなす場所を撰定し、牝獸は五月下旬渡來す。獵獲すべき臘肭獸は唯ポルーセヲカ(二三歳の幼獸のみなるべきに、目下其毛皮は益々騰貴しつゝあるを以て倫敦に於ては生皮一枚に付四十五乃至五十留)老幼の間はず一切無差別に無思慮の濫獲を爲すに

至り、之が爲に幾何もなく其數を減少せざる能はざるを思はしむ。即ち一八九〇年に於て、露國當業者は五萬頭を撲殺せしに、一九一〇年に至りては僅に三千三百四十頭を獲たるに過ぎず。主なる密獵者は日米人殊に勇猛膽するなき日本人にして、彼等は一九一〇年に於てすら一萬二千頭を獵獲せり。日本人は早春の交出獵するも、露國密獵監視船は漸く六月に至り初めて出勤し、日本人はコマンドル諸島より百五十露里の外海に於て臘肭獸を漁獲するも、露國の監視船は六十海里の沿岸地帯を保護するに過ぎざれば、自己領域内に毫も臘肭獸獵域を有せざる日本は一九〇八年に於ては約五萬頭の臘肭獸を世界市場に供給せり。一九一二年露國、北米合衆國及日本の代表者參列の上ワシントン府に開催されし國際會議に依りて、臘肭獸獵は一般に十五ヶ年の間禁止されしが、若し該會議の規定、確實に實施されんか、臘肭獸業は後日コマンドル諸島に於て擡頭するや必せり。

第四章 工業

第一節 手工業

半開的なる西伯利の全部が、嘗に工場的工業のみならず手工的工業に對しても

尙何等の要求を感ぜざりし事は、今猶ほ現代人の記憶に新なる所にして、凡ての農民の家庭に於ては独自の勞力と資力とを以て衣服、履物、什器、家具及運搬具等に對する要求を充足するを常とせり。即ち彼等は羊皮製の皮裘、皮製の靴を製し、麻布、條布及羊毛より粗布(シユブリナ)を織り、また蠟燭、油浸糕の机、椅子、車輪、橇、車輛等をも製造せり。狩獵によつて得たる毛皮は、租税及磚茶購入の支拂を爲すに必要な金錢を農民等に供給したりしも、それは所在に普及せるにはあらずして、前世紀三十年代に於ける採金業の出現と其發達とは、地方住民に彼等が未だ曾て手にせし事なき多額の金錢を與へ、先づ第一に其隣接地域に對する新なる要求を惹起せり、其分離に基く在來の多數農家族の減滅又は有無相通する商業の發達に於ける保護法其他簡單なる保護法をも講ずる事なく、而も必要に應じて何等の不足を感ぜざりし在來の天然富源の無際限なる利用を減縮せしめたるは、渡來者の増加に因するもの大なり。即ち一面よりは從來の家庭工業の程度を制限して其製品をして最早新時代の要求を充足する能はざるに至らしめ、他面よりは他人に必要な家庭日用品を製作することにより、これを或は金錢と或は物品と交換するは、自己の爲一層利益ありと認むるが如き多數の團體(特に渡來者中にて)を出現せしむ

るに至れり。斯くの如くにして西伯利に於ける手工業は生じたるものなり。無論此の過程は一時に全西伯利に普及せしものにあらず。それは歐露より渡來する者の屢々現はれたる商業路に近接し比較的人口稠密なる地方に於て遠隔の僻鄙に比し一層迅速に行はれしなり。從來手工業の最も發達せるをトボーリスク縣の南部諸郡とし、之に亞ぐを亞爾泰とす。

西伯利の或る一地方に手工業の存する事は其天産物の豊富なると附近市場の需要及隣接地の事情等と重大なる關係あり。故にトボーリスク縣に於て森林を有する諸郡(チユメンスク、トボリスク、ツウリンスク及びタルスク郡)に於ては桶(針葉樹に富める地方に於て)、篩、挽物細工、家具、橇、車輛及樹脂等の製造業發達し、木製手細工品の製産に於てはチユメンスク、ツウリンスク及びクルガンスク郡等その首位を占む。即ち専らイルビーツスク、及びイシムスカヤ定期市に販賣する橇、車輛、桶類(多數の油樽、櫃、クルガンスク郡内に)小舟及船(ツウリンスク郡内及トボーリスク郡の北部)等を製出し、ツウリンスク、チユメンスク兩郡の或る一部に於ては全村民の約四分の三は桶職を營み、タルスク郡内に於ては樹脂製造業發達し専ら移民のみ之に従事す(約三百三十三戸産額八萬留に達す)。たゞ憾むべきは同郡の原

料に富むこと徒らに大にして、従業者に技術上の知識なきことなり、故に同地産テ
ルペンチーヌの如き品質甚だ悪し。同郡にては樹脂を製するに坑式に依り、其主
産品は遠隔せるセミバラチンスク及セミレチンスク州に販賣さるゝを以て、此地
方に於ける斯業の發達を甚しく阻害せずんばならず。菩提樹皮蓆業はトポーリ
スク縣全般就中トポーリスク、ツウリンスク、タールスク諸郡内に普及し、トポーリ
スク、タールスク兩郡にはオビ河の漁業地に接近せる結果、郡内に網及魚網の製造
發達し、又イルツイシユ河のオビ河に會流する附近のサマロウオ村に於ては同一の
理由に依りて粘土製のキバシ即ち魚網の重錘の製産發達せり。烏拉爾採金所の
近接せることはチュメンスク郡内に皮履物(長靴の一種)の製造を促し、トポーリスク
縣内チュメンスク、ツウリンスク兩郡に於ては隣地烏拉爾の如く鐵を得ること容易
なるが故に、鐵の手工業普及し、前者にありては鋤の製造、又後者に於てはクルガン
スク郡内及ヤルトローフスク郡の南部に於けるが如くイルビーツ及東部西伯利
に仕向けらるゝ鋤尖、小刀、斧、鎌及大鎌并に漁業用碇の製造業普及す。トポーリス
ク附近のスズグナに於ては銃器の製造發達し、トポーリスク縣の南部なる曠野諸
郡は曠原地方と隣接するため畜産業特に牧羊業發達し、從て動物性産物の製造著

しく發達し居れり。ヤルトローフスク郡内には羊皮の製造と皮裘の裁縫發達し
(中心地はシャツロウスコエ村、チュメンスク郡に於ては馬毛にて製作する篩の製
造、チエルウイシエワ、ウイリヤンスカヤ村等)行はれ、各靴製造業は特にクルガン
スク郡内(リャブコウオ、ガルキノ村等)に發達す。柔草の精製及び之を以て製する手
袋(ベルチャツキ及ルカウイーツキ)の製造はトポーリスク及ツウリンスクに於て
行はれ、柔毛皮及毛皮の精製(重に栗蠶)は森林地帯に接近せる諸市邑に於て行はれ、
手袋(ルカウイーツキ)の製造はチューメン及ミリモフスカヤ、クキズキルバーエツスカ
ヤ等の部落(遊牧民の)に於て行はれ、特にクキズキルバーエフスカヤに於ては一年
約二萬對を製産す。チューメンスク郡カーメンナヤ郷に於ては絨氈製織業チュ
ーメン絨氈は特に發達せり。往時絨氈用獸毛は草より製したる手製の染料及礦
物性染料を以て染色せしが故に其の製産品たる絨氈は光澤を以て優れざるも、其
の染色は甚だ堅牢なるものありしが、今や絨氈業者は輸入品たるアニリン染料を
使用するに至り、而して其製品は甚しき光澤を有すると雖も速かに變色するの弊
あり。又此等の絨氈は其種類豊富ならず、美術模様を輸入する事なく、唯相互に舊き書模
のあり、是れ當業者が他より嶄新なる書模様を輸入する事なく、唯相互に舊き書模

様を復寫するに止まるが爲なり。而して基礎既に確立せる事業としての本工業は、斯業者に對する貸附、良好なる販路の開拓及技術的指導を有するに至らば、一、大發展の域に達し得べき見込あり。タールスク郡内の或一部に於ては毛皮を得る爲に養猫業行はれ、専ら黒猫のみを育成し其皮はチユメンスク郡チエルウイシエウスカヤ郷へ送附す、西部地方より來れる移住民はヤルトローウスク郡の一部村内(シャツロウスコエ、モストツヤ村等)に於ける製絨、シヨール毛織の手袋及帶等の製産業の發達を助成せり(麻地を以て作る毛織の帶は著しく完全せる製品となりて出づ)。尙トポリスクには其市特有の工業を有す、巨象マンモスの骨を以てする各種の製作品即ち是れなり。然れども該製作品の雅致に乏しき事は外部市場に於ける販路の普及を阻害すること尠からず。クルガンスク郡には製糸業發達し(約四十萬留)ヤルトローウスク、イシムスク、チユメンスク諸郡内には粗麻布製織業盛なり。

手工業發達の點に於てはトポリスク縣、専ら西南地方は西伯利に於ける各州縣の首班を占め其全手工業の四分の三は同縣に集中せらる。販賣市場たる市邑の近接せる事は、チユーメン、クルガン、トポリスク諸市に隣接せる地域に於ける手

工業の發達にも大に與つて力あり。唯同縣全體としては手工業は其常業たるが如きも、其一部に於ける個々の家庭に於ては全然農業を顧みざるにあらず。但だ同地に於ける手工業の盛衰が農作物收穫の良否に著しく關係あることは止む得ざる所にして、此現象はヤルトローウスク、及イシムスク郡特にチユメンスク、タールスク兩郡の諸地方に於て看取するを得べし。即ち不作の年には豐作の年に比し遙に多くの手工製品市場に現はれ併も其價格低廉なるが、此の傾向は最近に至りて特に著しくなれるを見る。蓋しトポリスク縣に於て、比年不作の打續くが爲なり。而してトポリスク縣に於ける手工業者は之を三大別する事を得べし、即ち(一)農業に依りて少許の資産を有し唯家庭の收入を増加する爲に農閑なる時のみ手工業に従事する富裕なる手工業者(二)唯家計困難なる時のみ手工業に従事し原料を懸買し時としては其製品を更に逆に購入する一時的手工業者及(三)往々に於ける渡り労働者の雇傭は手工を生存の唯一の源泉とする家庭なき放浪的労働者(壺匠、各靴工)を有するトポリスク縣に於ては可なり廣く普及せり。然れども大體の上より之を見れば同縣に於てすら尙手工業は農業と密接なる關係を有

し、東方へ赴くに從ひて同業の種類は減少し、且つ發達の程度低し。唯市邑の隣接地域に於てのみ稍之に反するを見るに過ぎず。

トムスク縣に於ては二十六種の手工業存するも、唯此内の一部のみ同縣下の七郡全部に行はるゝを認む(マリインスク郡内に最も多く總類十六種を算す)。同縣内に最も多く普及せるは桶職、大工、陶工、各靴工及皮革業にして、桶職はクズネーツク(ドムスコエ村は最も多く桶を製し、戸數百四十二戸の小村なるに關らず、その産額一年約一千個に達す)ピーイスク(コマロワ村)及トムスク(エメリヤーノワ村)郡に最も發達するも、雇傭労働者なく其利得も亦劣れるものあり。馬車業者及桶職はバルナウリスク郡(最近家具をも産す)内にも存す。各靴製造業は同縣の各郡内一般に普及し、殊にピーイスク及バルナウリスク郡(約二千戸)に著しくトムスク郡ウスベンスク工場に於ては年々約一萬足の各靴を製作する二百人の職工斯業に従事す。皮革業はクズネーツク郡内(二十ヶ村に於て)に普及し、トムスク市に於ては馬具(約十萬留)及約十萬足のチルコフ及ブローヅニヤ(孰れも皮製履物)を製造する生柔皮を製産し、後者はトムスク、マリインスク兩郡の採金所に於てその需要多きを見る。ピーイスク郡内にはカツウーナ河(亞爾泰郷)の中流沿岸に於て羊

麋及馴鹿の皮より製する柔毛業并に之を材料とするの手袋類の製造發達し、又皮革業はズメイノゴールスク郡内に於ても發達す。トムスクに於ても毛皮類精製業稍發達せるが故に、バルナウールに於ける皮裘製造業の發達は可なりの程度に達し、一八八五年物故せし有名なる西伯利の實業家エス、イ、グリヤーエフの發明せる特殊の方法を以て彩色せるバルナウルカ(皮裘)は柔皮に代用することを得べきものにして同地の名物とせらる。クズネーツク、トムスク兩郡はその地産鐵地たる亞爾泰に近接せるに依り、グリエーウスク及目下廢止されたるトムスキ(クズネーツク郡内)兩製鐵工場の例に倣ひたる結果鐵手工業の出現を見、曩日トムスキ工場に使用せられたる労働者は相競つて手工業に轉業せり。バルナウーリスク郡のズブーンス工場及オルヂーンスキ村に於ては馬車用鐵金物の製造行はれ同郡内に於ける農業の特殊の發達はマリインスク手工業者の製作する箕及パウロウスキー工場に於て製作する各種の器具の如き手工業を勃興せしめ、ピーイスク郡に於けるザイチャノウオ村はピーイスク市と共に紡糸^{ツムギ}、麻織機、箕、獸毛延伸用具等の製作を以て名あり。縣内に於ては麻布を家庭の用途以上に製織し、クズネーツク郡の異種族民は苧麻より網及魚網を製し、手工業に依る麻網の製造はオ

ビ河の下流に於けるトムスク及びビーイスク郡に於て盛なり。又同郡内の大なる柏樹林は魚類罐詰製造に需要多き胡桃油の原料を供す。之を要するに一般にトムスク縣の手工業は極めて微々たるものなり。ブリオムスキー地域にはアクモリンスク、セミパラチンスク兩州に於ける農具の需要益々増加する爲に之を製造する手工業發達せり。主としてミノーシンスク郡にのみ製油(大麻、日向葵より製する)石鹼製造、網魚網及麻網の製造(エニセイ河下流の漁業と關係ある)、皮革の精製及煉瓦製造等の諸業を集中せるエニセイスク縣の手工業は更に一層振はず、一般に同縣の手工業は家庭工業とさしたる差違なし。

イルクーツク縣に於ける手工業の存在及發達に對しては四大要因の存することを思はざるべからず。即ち陸運、レナ河の水運、貝加爾湖沿岸の漁業及イルクーツク市場の存在是れなり。往時運送業に需要され居たる頸木、車輪、橇、車輛等の製造は今や鐵道の開通と共に甚しく減少し、唯専ら各期イルクーツクよりオレクミンスク、ウイテムスク地方採金所へ商品搬送の爲めカチユーグ、(レナ河畔)に通ずる大道に沿ふイルクーツク郡内に維持せらるのみ。又平底船(ボツカ)及小舟(ボツカ)に對する需要を生せしレナ河の水運は、今や同河に於ける汽船業の發達と共に従前の

如く手工的造船業を支持せざるに至れり。貝加爾湖に於ける漁業は樽、小樽、貯水樽、網、魚網、網に對する需要を惹起するに依り、此等物資の製産はオリオン河畔及エランチーンスコエ地方(貝加爾湖畔)に盛なり。同地に於ける此等諸品の製産高は貝加爾湖に於ける漁獲の多少に關係あるを以て、數年來漁業の不振の爲に寧ろ其製産を減じつゝあり。手工業製品、需要の點に於て最も確實にして且つ持續性を有するは壺、木片細工、粗紡絲、炭、樹脂及樺脂等を需要するイルクーツク市場なるが、煉瓦製造業(夏期に於ける)はイルクーツク縣に於て可なり普及せる手工業の一種なり。尙柏樹よりは油滓を製する事を得べし。之を要するにイルクーツク縣に於ては手工業は漸く其端緒を開き、従つて極めて小規模に行はるゝに過ぎずと言ひ得べく、人口の稀薄、農村住民地に於ける人口の元來稀薄なる上散住せる事、交通の不便及地方的需要の制限等は、凡て地方の手工業を技術的に極めて不完全ならしめ且つ其産額を貧弱ならしめ居れり。

後貝加爾州の手工業はイルクーツク縣と同じく微々たるものにして、唯地方住民の多嗜的ならざる需要(羊皮、毛氈、粗製羅紗、車輛頸木、木製什器、オムラ(魚鹽漬用樽等)を充すに過ぎず。後貝加爾州に於ける手工業の爾く不振なるは、地方斯業者間

に職業的連繫の全然缺如せると、又一は住民が採金所に於ける一層有利なる業務及び同所へ各種農産物を供給することの有利なるに心を牽かるゝ結果に外ならず。

ヤクーツク州に於ける或る一部の異種族民は、甚しく制限的なる地方市場の爲に牧畜業の副業として煉瓦、蠟燭の製造及皮革の精製に従事す。

黒龍州に於ては木製工業最も多きは樹脂製造業にして斯業者約百戸、樹脂の蒸餾は坑に於て行ふ、労働者の雇傭は稀なり、最も普及し、樹脂製造の外約二十五戸は樺脂の蒸餾に従事し、尙之より稍小なる戸數は木炭、車輪及輪縁の製造に従事す。同州内には鍛冶職、陶工等存し、又農具の製造及耐火煉化(セーヤ河畔)の製造行はれ、プラゴウエシチエンスクに於ては柳條製藍等の製造行はる。

沿海州に於ては木製工業最も發達し、車輪、頭木等の製造(蓋し同地は黒龍州に於けるが如く可なり陸運業の發達せる爲なり)樹脂及樺脂の蒸餾等盛に行はる。其他黒龍江漁業に要する樽の内大物は専ら製材所及木工工場に於て製作し、又漁業企業者中一部のは自己独自の樽製造所を有すと雖、樽の製造業は可なり盛大なり。尙沿海州に於ける手工業者の戸數は千四百七十三戸(内百戸は舊住民)にし

て、其製産總額約三十萬留に達す。

一般に西伯利に於ける手工業は廣く普及する能はず、且つ其發達の程度低く特にエニセイ河以東は甚しきものあり。併も同地に於ける一部の手工業は猶且つ衰退の傾向を呈するものすらありて、此等の現象は或は之を一層大規模に行はるゝ工場工業に代へたる結果、又は地方製品が爾く價格低廉なるも、體裁優美にして品質良好なる歐露製品若くは輸入商品の爲に壓迫されたる結果に外ならず。之れを例へば、チユメンスク郡に於ては地方の手工業に依る皮革製品は同品の製作が依然として同地手工業者の手に殘存すと雖も、工場製品等しく同地に於けるに其位置を譲り、多數の木製品及鐵製品は鐵道運賃の低廉なる結果輸入品にその位置を奪はれたり。斯くてトポリスク縣の諸地方に於ける手工業は、唯農民の嗜好及要求に適應する最も安價且つ單純なる製品に依りて保持せらるゝのみにして更に進んで趣味及優美の點に於て市邑購買者を満足せしむることは、彼等の製品の能くする所に非ず。嗜好の極めて單純なる需要者のみ華客とする農村手工業の製品は、殆ど原始的の製作を其特色とするが故に、其製産力も發達の第一歩に停滯しつゝあり。但し稀に而も殆ど専ら移住民たる手工職工の從業に依りて

（移住民は往々或る地域に各種の手工業を輸入せり、其製品は粗朴なる原始的形式を脱するを得、延いて當該地域の販路を擴張せし事あり。凡て手工業は購買者側の多數の需要が當該手工業の原始的状態に停滯する事を許さざる市邑地に於ては著しき發達を遂ぐるものなるが、西伯利の手工業は若干地方に於てのみ斯くの如き域に發達せしものあるを見る。

西伯利の經濟的生活に於ける或種の新傾向は、地方手工業の一部に對し不良なる影響を及ぼせり。例へばズメイノーゴルスク、バルナウリスク兩郡に於ては陶器業を衰退せしめしが如きは是れなり。是れ同地に於ける製油業者が市場へ出荷する爲に特種の金屬製容器を用ふるに至れる結果、陶器製の壺を要求せざるが爲なり。新森林保護法施行後從來特殊の斷株支拂に依りて細工用木材を購入し居たる森林が官有に變じて木材の價格騰貴せし結果トムスク縣に於ては籠の製作及大工業衰退し、トポリリスク縣に於ては、深林内に所在する多數の村落例へば瘦地多きトポリリスク郡内の如きは從來木材業をのみ生活の方途とせし爲め目下其生計甚だしく困難となり居れり。鐵道も亦在來の莫斯科街道に依る陸運を絶滅せしめ、延いて木材業を壊滅せしめたり。即ち今や運送用機、車輛并に樹脂

（特に樺脂）に對する需要は著しく減少せり。

移民移住後の初期に於て其副業として特に重要な手工業の發展及改善を期し、政府は西部西伯利に於ける木工業、陶工業、毛皮業、皮革業、織物業及農業用の機械製造業等に助力する爲各種の施設を爲し、且つ之が爲に相當の模範工場を設立し、各戸に製造用器具を配附し、教師をして製法を教へしめ、且希望者に忠言及指導を與ふる爲に熟練せる職工を官設工場に招致し、一方手工業者に原料及製造器具を供給せり。又ツウリンスク、タールスク、トムスク諸郡内に於ては車輛及建築大工の模範工場を設立すべく豫定し、トムスクに於ては手工業の特別委員會を設置し、ヤクーツク州にては數年前、牙彫、揉皮の製法及び之を材料とする各種製品の製作法等を實地練習せしめ、以て地方に於ける斯業の生産力を増加すべき目的を以て州人四名を莫斯科に派遣せり。現在農業及牧畜地方たる西伯利に於ては、手工業に依る製産法は、住民勞力の製産を最も平等に配分するを以て、同地の經濟的狀態には極めて適當しつゝあり。手工業は最も確實有力なる消費購買者にして、従つて又農業住民に對する最も有力なる製産者たるを以て、企業に對する報酬と其組織に對する支拂とは、依然住民の手に殘存し、彼の工場式工業の如く外間へ流出

する事なし。

第二節 工場工業

目下西伯利は、盛大なる工場工業の存在すべき必要なる條件、即ち高級なる工場工業の製品に對する著大なる需要を有せず、且つ多數民家の間より訓練を経たる労働者を供給すべき充分なる一般教育の設備なし。又高尚なる文化的要求を有する稠密なる人口を具有せず、更に問題たるは西伯利が充分なる資本を存せざることなり。即ち現金は、西伯利にては、最も高價なる企業投資を避け、現在最も有利なる商業の仲介に依る事業に専ら流用せられつゝあり。又西伯利は其工場工業の製産品を販賣し得べき外部市場を有せず。併も歐露の精製工業は、目下西伯利工業の比較的高等なる種類を以てするも到底勝算なき強敵手たり。従つて西伯利の地方的需要と密接なる關係を有す。即ち有益なる植物の培養及家畜の養殖はその需要の六なるものなり。製粉業、釀酒業、製油業、麥酒釀造業等は前者と關係し、皮革業、乳脂製造業及石鹼製造業等は後者と關係あり。纖維質の精製者は、殆ど存在せず、但だ粗悪なる羅紗を製造する三個の製造所あるのみ。金屬製品の製造も

亦殆ど皆無に近し。

トムスク縣は最も人口稠密なる縣として、精製工業發達の點に於ては西伯利の諸州縣中首位を占め、之に亞ぐをトポリスク縣とす。但しトムスク縣は食糧品製産の點に於ても西伯利に於て首位を占め、又トポリスク縣は畜産物の精製業に於て第一位を占む。西伯利諸精工業の狀態に關する最近年間の詳細なる統計報告なし、即ち官府の資料は陳腐用を爲さず及民間のものは個々相違して憑る可き所を知らず。

製粉業は人口の稠密なる(約五百萬人)と移住民最も多く集中せると及最も多く作附反別を有する等の關係により、トムスク縣に於て特に著しく發達し、縣内に於ける工場工業の六割はこの製粉業なり。嘗にトムスク縣のみならず全西伯利製粉業の中心地はノーウオニコライエフスク地域(年産額千百萬布度)にして、之に亞ぐをトムスク(約四百萬布度)バルナウリスク(約二百五十萬布度)ピースク及カメルンスク(各百萬布度)等の諸地域とす。トポリスク縣に於ても、同業は全製産業の半數以上(五割五分)を占め、特に秀づるはチューメンスク郡にして年産額約三百萬布度に達す。クルガンスク、オムスク、セミパラチンスク諸地域も亦約一千萬布度

を製産し、西部西伯利全體に於ては年額約三千萬布度を産す。西部西伯利に於ける或る一部の製粉場は優良なる佛國式及奧國式粉碎機を備へ、電燈を點じ、學校病院及醫師を常備し、幾百の勞働者を使用する一大企業にして、ベルスカ(ノウオニコライエウスク附近)に於けるゴロホーウキフ製粉場并にバルナウリウスク郡に於けるボゴモーロフ、ワシリエフ兩製粉場、コルマコーウキフ製粉場、ヤルトロウスク郡)トムスク市に於けるフークスマン製粉場等は特筆に値す。或る一部の製粉場に於て精製せられたる麥粉(例へばゴロホーウキフ産の如き)は粉質極めて良く、獨り、東部西伯利に於て需要多きのみならず、歐露内にすら其販路を擴張しつゝあり。エニセイスク縣に於ては、製粉業は唯ミューシンスク郡内に於てのみ比較的大企業として行はるゝに過ぎず(年額十五萬布度を産するに過ぎず)。イルクーツク縣に於ては、一九一〇年に於て比較的廣大なる製粉場二十六箇所を算せり。黑龍州に於ける製粉業の中心地はブラゴウエシチエン(スク市(約五百萬布度)なり。沿海州に於ける製粉場は南部烏蘇里地方に特に多く、水力のもの六十九個、風力のもの二百十五個を有す。製産高に於て製粉業に亞ぐものは造酒業なり、一九〇六年の報告に依れば西伯利には四十八個の造酒所(西部西伯利二十五個、東

部西伯利十八個及極東五個)を有し之を各縣別とせばトムスク縣十五個(西伯利全體の酒精醸造の四分の一)、エニセイスク縣及イルクーツク縣各九個、トポリスク縣八個、後貝加爾州及黑龍州各二個、爾餘の諸州は各一個宛にして、其勞働者の總數二千三百八十四人、酒精醸造高五百三十一萬八千ウョーヅロに達す。然れども上記の數量は地方の需要を充足する能はざりしに依り、左の如き多量の酒精を西伯利に輸入せられたり。即ち「トムスク」縣七十七萬ウョーヅロ、トポリスク縣四十九萬ウョーヅロ、イルクーツク縣四十四萬ウョーヅロ、後貝加爾州六十六萬ウョーヅロ等總計約四百萬ウョーヅロに達す。斯の如き西伯利に於ては酒精の不足と馬鈴薯作附反別の増加(最近五年間に六割二分を増加す)とに關聯して、一九一一年造酒所の數を増加し民間の報告する所に依れば約五十五個に達せり。又トムスク縣に於ては酒精の製産は其の額三百七十六萬五千三百八十二留に増加せり。製粉業と等しく西伯利の造酒所は諸般の優良なる器具を有し設備完全なる大規模の企業なり(殆ど全部蒸溜精製法なり)、酒精製造用としては馬鈴薯の外裸麥も亦需要あり(寧ろ裸麥の方多し)。大麥の作附反別は最近五年間に六割二分方増加し、従て麥酒の醸造も亦増加せり。一九〇六年度の報告に依れば、西伯利には勞働者

一千五十七人を有する六十七個の麥酒釀造所あり。其内譯はトムスク縣十五個、イルクーツク縣及後貝加爾州各九個、沿海州八個、エニセイスク縣及セミパラチンスク、アクモリンスク兩州各六個、トボリスク縣五個、黑龍州三個(總釀造高約百五十萬ウヨージツロ)なるも、現在西伯利に於ける麥酒釀造所の數は恐らく百個を超過するならん。搾油業は最近西伯利に於て日向葵、麻亞麻、大豆及芥子等の脂肪分を有する植物の栽培普及せし結果著しく發達せり。一九〇六年度の資料によるに、西伯利に於ては、煙草製造所僅に二個、燐寸製造所七個(内四個は西部西伯利に在りて燐寸百十億個を製産す)あり。皮革業は一九〇六年以降最も原料の豊富なるオムスク、ノーウオニコライエフスク、ペトロパウロフスク、バルナウル等の中心地に於て著しく發達し來れるが、トボリスク縣のチユメンスク、クルガンスク、タールスク諸郡に於ても皮革の製産は共に著しき程度に達し、就中チユーメン市に於ける皮革製造業は最も注意を要す。イルクーツク縣は製産額一百万留に達する總數三十二個の製革工場を有し、油脂製造工場はトボリスク縣内(クルガン、イシム)に多く殊にアクモリンスク州の北部(ペトロパウロフスク)に甚し。油脂は地方の石鹼工場に需要せられ、又カザン及びウラコウオ等にも輸出せらる。西部西伯

利に於ける皮革業は其土地に巨額の原料を有する一事に依りても、既に充分なる發達を遂ぐべき資格を有すること明かにして、目下其製産品の七割五分は西伯利以外に於て精製せらる。單に一亞爾泰地域及之に隣接する地方のみを見るも、年々次の如き多數の原料を蒐集しつゝあり。

地域	大形の皮	犢牛皮	羊皮	山羊皮
バルナウルリスク	一七〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	—	—
ヒリスク及ズメインゴールスク	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—
ウスチ、カメンノゴールスク	二五、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	—
セミバラチンスク	二〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
蒙	九〇、〇〇〇	—	一〇〇、〇〇〇	—
合 計	五八五、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇

西伯利に於ては年々約四千萬留の快暖なる衣服及各靴を歐露より輸入すると同時に同地に向つて約一千万留の絨毛及皮裘用羊皮(製造所に於て精製せば一億留に達す)を輸出するも合理的なる原料の精製法は現在に於て一物をも残さざる如く既に之を蒐集し盡せるを憾むべしとなす。然れども前記の如く西伯利に於

ては、同事業現時の技術的狀態及地方資本の欠如せる結果、單に粗惡なる民用及軍用羅紗を製造する三個(トポリリスク縣内二個、イルクーツク縣一個)の羅紗製造所を有するに過ぎず。西伯利に於ける冶金業も亦其發達極めて稀々たり。即ち鑄鐵鑄解工場は、恰も機械工場の如く、製作場の性質を帯び、硝子工場は甚だ鮮く(製品粗惡なり)、陶器工場も二個乃至三個之あるに過ぎず。往時有名なりしイルクーツク附近のペレワロフ製造所は今や已に衰微せり。蓋し其陶磁器製品は到底歐露よりの輸入品と競争する能はざるが爲なり。製紙用木材の豊富なると其需要多きとに拘らず、西伯利には唯一個の製紙場(チユイメン附近に)を有するに過ぎず。トムスクに於ては近くゴロホーク氏に依りて初めポール紙及包紙(一晝夜約五百六十布度)の製造を開始せられ、次で新聞用紙及筆寫用紙の製造を行ふ製紙場設立さるゝ等にして、其設備費に約三十五萬留を充つる豫定なり。現在に於ける西伯利の製造工場の製産の總額は七千五百萬留、之に従事する勞働者六萬人に達す。尙最近西部西伯利に於ける製造工業の特殊の發達は素と植物的及動物的産物の精製業に基因すること大にして左の統計により其急速なる進歩の跡を認むる事を得。

一九〇〇年

一九二二年

	製造所及工場數	製産額(單位千留)	製造所及工場數	製産額(同上)
阿克モリンスク州	四七〇	六、八二〇	一、一六〇	二七、〇〇〇
トポリリスク縣	二、一二〇	八、九二〇	四、五〇〇	二一、〇〇〇
トムスク縣	五、六七〇	一四、三〇〇	八、五〇〇	二七、八〇〇

東部西伯利及沿海州に於ける精製工業の發達は極めて緩漫なり。例へば一九一〇年イルクーツク縣全部に於ては僅に製造工業的企業百一個を有し、後貝加爾に於ては漸く三個のセメント工場を有し、沿海州に於ては鑄鐵鑄解の小工場七個を有し、内一ヶ所(ブラゴウエシチエンスク)に於けるシャツリン機關及機械製造工場に於ては汽船の建造を爲すも、兩州に初ける一年の製産額は一千萬留を超過する事なし、されど沿黒龍州に於ては製材業著しく發達せるを見る。

無論西伯利の精製工業が弘く其製産品を外部市場に供給すべしとは恐らく何人も思惟し難からべし。然れども亦西伯利は巨額の低廉なる原料と多數の燃料及特に亞爾泰に於て格外に豊富なる水力を有するを以て、地方市場に物資を充實せしめ且つ地方の需要を満足せしむるの域に達し得べき將來を有することは之

亦何人も否定し難かるべし。外國資本家既に西伯利に於ける自己の地歩を鞏固ならしむる爲同地の實情精査を進捗しつゝあり。此の時に當り我日本國人も亦自ら進んで何等かの積極的方策に出でざるべからず。然れども西伯利製産業者にして目下製粉業に於て實施せる如く、その有せる原料の半製品に加工して販出せんか其利益は更に一層大なるべく、又畜産業産物は之を完全に精製したる皮革として輸出し、普通の木材は製材の上賣出す等の方法を講せば孰も其利益は更に大なるものあるべく従つて資本は自ら地方原料を以てする半製品の製産に投資せらるべき事疑なし。

概括

今最近西伯利に於ける工業の狀況を各州縣別に概括表示すれば左の如し。(一九一四年末調)

沿海州	工場數	一、三一五
	製産額	一、七四〇萬留
	工夫	九、一七〇人

工業の種類——製粉、鍛冶、煉瓦、製材、製油、麥酒。

一、烏蘇里鐵道沿線には家具、什器製造、農具製造を始め板、戸、額類の工場あり。一般木材に關する工場多し。

一、工業中心地は、浦鹽斯德市にして、同市には製粉、麥酒、石鹼、菓子、木挽、染色、精白米、罐詰、鐵工場あり。

一、ニコリスクウスリスク市は浦鹽斯德に亞いで工業盛んなり。

樺太州

酒精、麥酒、製材以外、他に工場なし。

勘察加州

一、土人が半鞣の毛皮に熊、馴鹿等の獸類又は樹木模様を刺繡する外工業と稱すべきものなし。

一、勘察加半島及オホーツク沿岸に夏季のみ就業する數多の製魚所及罐詰製造場あり。多く日本人の經營に屬し、其の大なるものは堤商會の經營する所にして、日露漁業會社之に亞ぐ。

黒龍州

工場數

五五〇

製産額

一、三〇〇萬留

工夫

三、九〇〇人

工業の種類——製粉(全産額の五割余を占む)、醸酒、製材、麥酒、鞣皮等

一、本州工業の中心地はブラゴウエシチエンスク市にして、當市には製粉工場九、鐵

工場六、麥酒四、醸酒二、其他燐寸、鞣皮、製脂、煉瓦、製材工場若干あり。

後貝加爾州

工場數

六七〇

製産額

三九六萬留

工夫

二、九六〇人

工業の種類——製粉、セメント、醸酒、麥酒、鞣皮、製材、煉瓦、石鹼、罐詰、菓子、硝子等

一、是等工場中食品關係の製造場は其の九割を占む。

イルクーツク縣

工場數

二〇〇

工業の種類——製粉、醸酒、製材、鞣皮、尙近時燐寸、膠漆、陶器、硝子業起る。

一、一般に工業は不振なり。

エニセイスク縣

工場數

一、〇三九

製産額

六二四萬留

工夫

六、〇八二人

工業の種類——醸酒、製粉、製銅、麥酒、製材、石鹼

一、本縣の工夫數多きに比して製産額少きは、鐵道工場に就業するもの多きが故なり。

ヤクーツク州

工場數

九〇

製産額

一二萬留

工夫

一七〇人

工業の種類——鞣皮、製油、製材、醸酒、煉瓦、製粉

トムスク縣

工場數

一、三〇〇

製産額

六、〇〇〇萬留

工夫

三四、〇〇〇人

工業の種類——製粉、製麻、製脂、釀酒、印刷、化學工業、金屬工業、鑛水工業、製材、製紙

一、牛酪製造所、二、六〇〇、工夫七、〇〇〇、生産額一、六一〇、〇〇〇、布度價額一七、〇〇〇、〇〇〇留を算す。年により三千萬留に上る。

製造所の動力は主に馬力、輸出額二百萬布度、積出地はノヲニコライエフスタ市を主とし、全額の八割餘を占む。

トポリスク縣

工場數(牛酪製造所のみにて)

一七九

(他工業には製粉、石鹼、麥酒、蠟燭、鞣革あるも微々言ふに足らず)

製産額(全部にて)

一九〇〇萬留

(中牛酪製産額

一二〇〇)

(羊毛皮革

一五〇)

(鞣皮、洗毛其他

二二〇)

(鑛物其他

一〇〇)

(麥粉、麥酒其他

二〇〇)

一、鑄鐘、羅紗工場あり。西伯利の工業として珍らし。

一、牛酪の外、木工、皮工盛んなり。

セミバラチンスク州

工場數

七〇

製産額

二〇〇萬留

工夫

一、二〇〇人

工業の種類——鞣革、牛酪、洗毛、石鹼、精酒、麥酒、酵母、製粉

一、工業は多く外來露人の手に依りて行はる。

一、工業極めて幼稚の域を脱せず。

アクモリンスク州

工場數

一、五〇〇

製産額

一、八七二萬留

工夫

八、六〇〇人

工業の種類——製粉、洗毛、鞣革、麥酒、鐵工

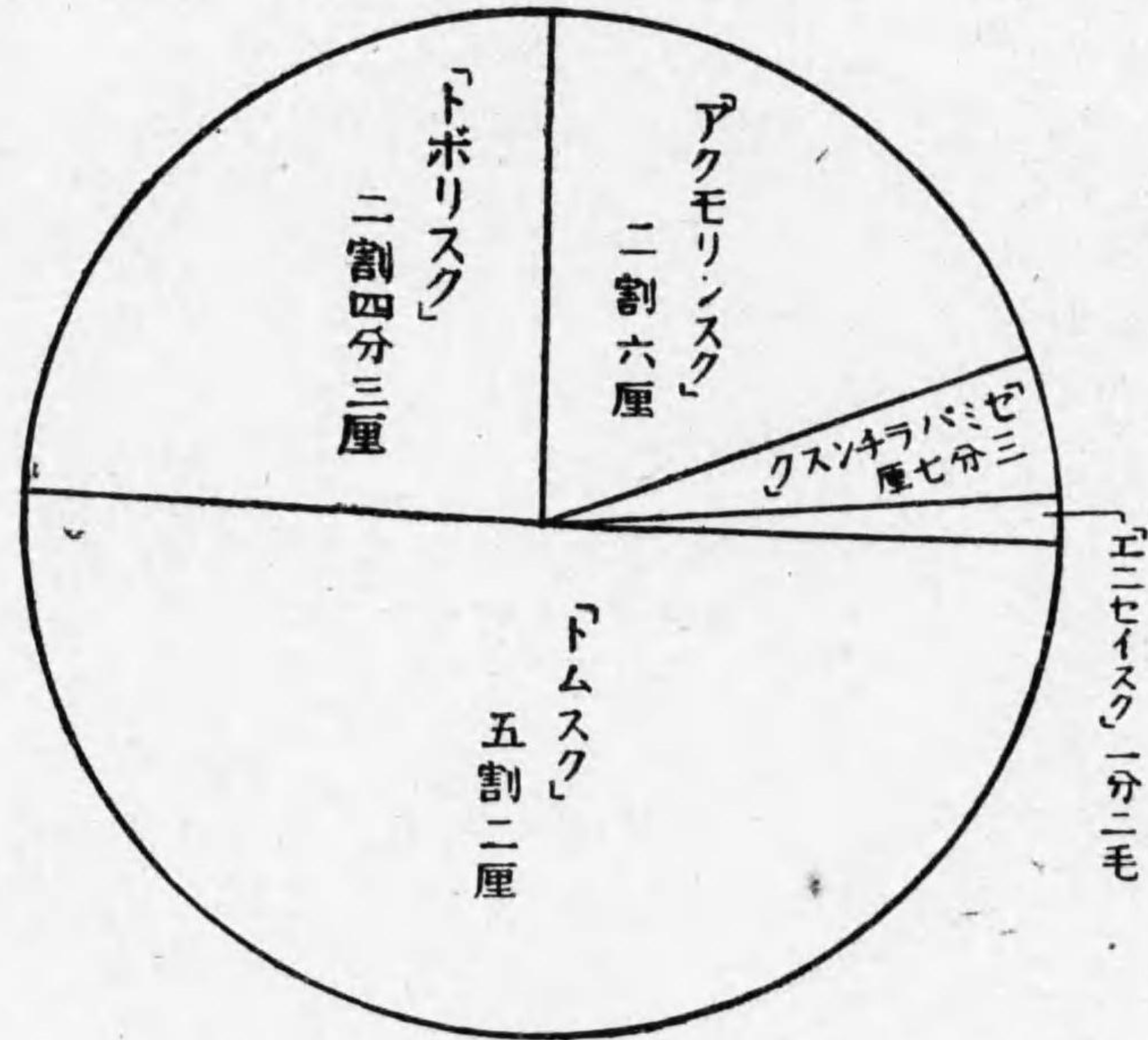
一、製粉業最も盛んにして製産額八百三十萬二千留之に亞ぐは鐵工業にて八十萬一千留を算す。

第五章 牛酪製造業

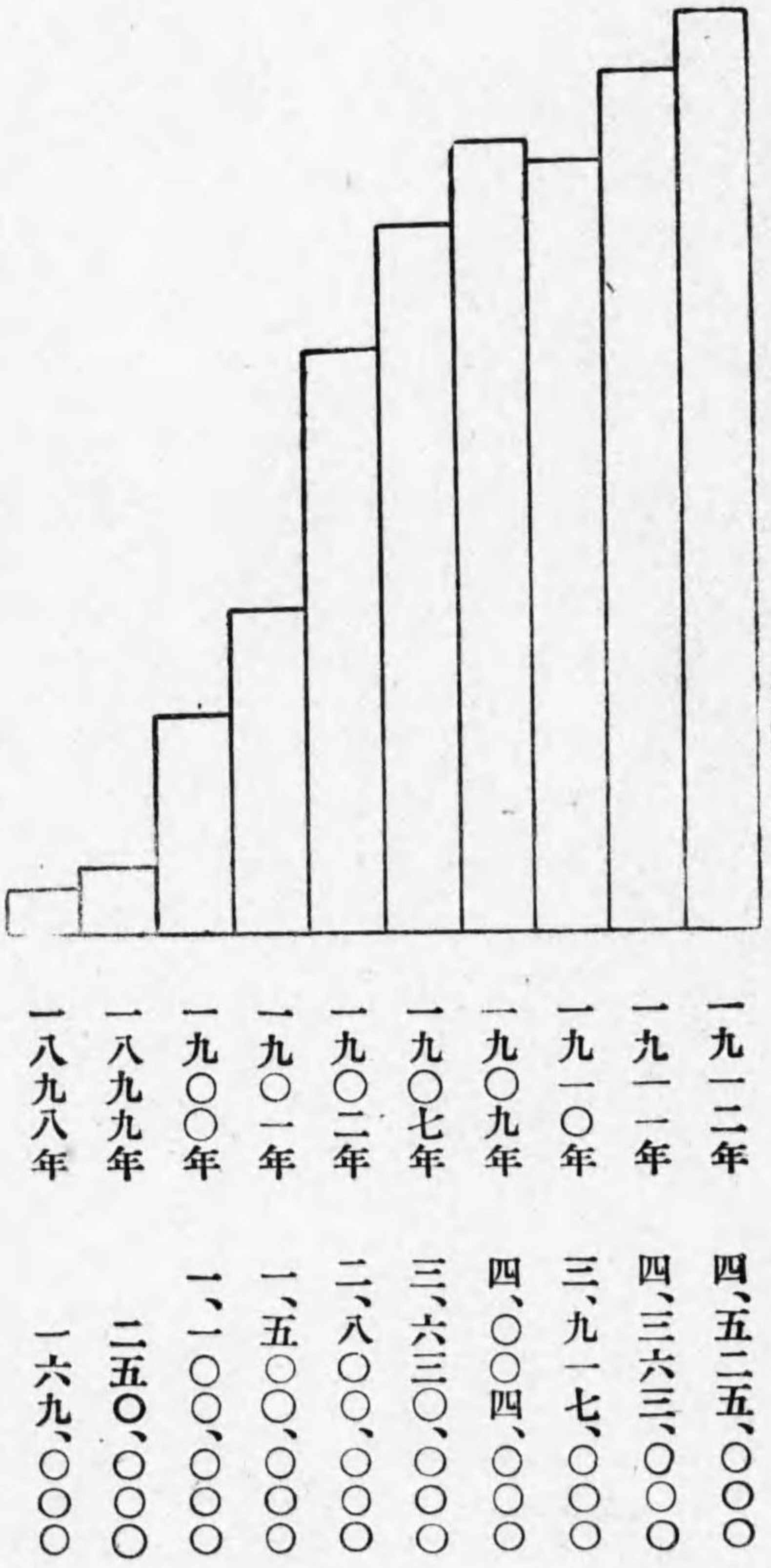
牛酪製造業は目下西伯利工業の最も顯要なる部類なり。蓋し年々産出する牛酪の價格は既に六千萬留に達すればなり。比較的歐露に近きトボリスク縣の南部諸郡及之に隣接するトムスク縣(イシムスク、チユカリンスク、クルガンスク及カインスク諸郡)に於ける家畜と廣大なる牧場の豊富なるとは、既に夙に此等の地方に於ける土着農民等をして冬期歐露へ送附する肉用家畜の飼養を努めしめ、それと同時に、等しく冬期西方へ輸出する油脂製造(總額三十萬乃至三十五萬布度に達す)に従事せしむるに至れり。一八八六年中既にチユメンスク郡内に於てはバシフイーロフ牛酪及乾酪製造工場設立されしと雖、其製品はチユーメン、エカテリシブルグ等の地方市場に普及せるのみなりしが、鐵道の敷設と共にトボリスク縣の南部より、外部市場に於ける其輸出區域リバウ、リガ、ウインダウ等に製品を輸出し得るに至れり。一八九四年中クルガンスク郡内に於て往時より農民の牛酪

製造に従事し居たる地方に於て商人ワリコフが二個の牛酪製造所を開設するや、外國事業家丁抹人及獨逸人等は直に西伯利に於ける斯業の光輝ある將來を感知し、農民に分解機を供給すると共に其事務所をクルガン及其他の市邑に開設し、又露國政府は専門教師を派遣して農民に製産技術を教習せしむる事に努力せり。斯くて同業は急速にクルガンスク郡より近隣諸郡に普及し、現在に至りては同郡の外トボリスク縣イシムスク、チユカリンスク、ヤルトローウスク、タールスク諸郡、アクモリンスク州ベトロバウロフスク郡、トムスク縣カインスク、ビーイスク、バルナウーリスク、マリインスク、ズメイノゴルスク、クズネーツク諸郡即ちナリキムスク地方をも含めるトムスク縣の全部に普及し居れり。エニセイスク縣に於ける斯業は、ミヌーシンスク郡内に急速に發達し、後貝加爾州に於ても、ブリヤート族の間に可成盛に行はるゝを見る。西伯利牛酪製造業の急速なる發達は次の圖表に依りて瞭かなり。

西伯利ヨリ輸出スル牛酪
各ノ酪牛ルセ輸出リヨ利伯西
調年九〇九一 表別縣州



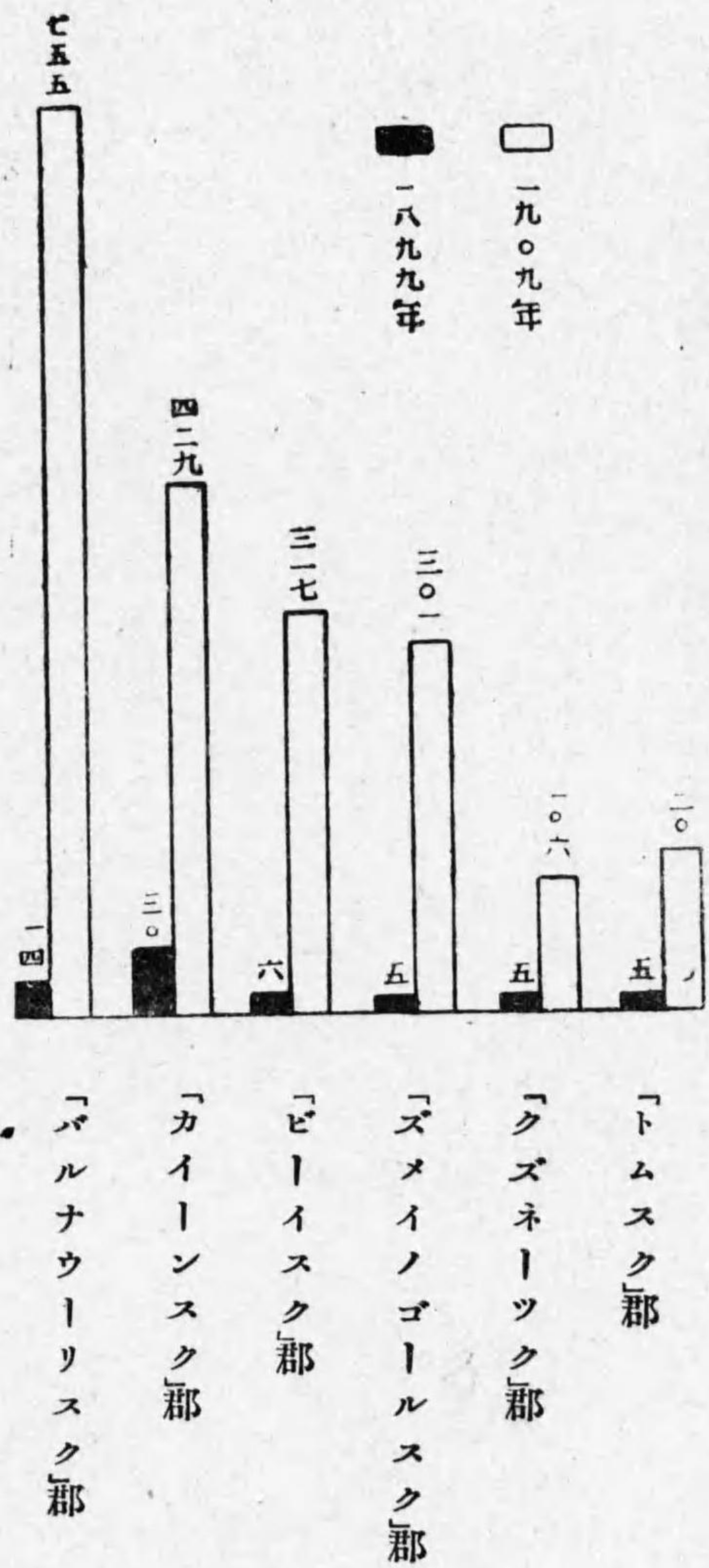
西伯利ヨリ輸出スル牛酪



一八九六年に於て西伯利産牛酪は露國より輸出する牛酪の八分七厘を占めしが、一九〇七年に至りては更に進みて其九割三分八厘を占むるに至れり。目下牛酪製造業の首位を占むるはトムスク縣にして、既に一九〇九年に於ては全西伯利産牛酪の五割二厘に達し、之に次でトボリスク縣の二割四分三厘、アクモリンス

ク州二割七厘、セミバラチンスク州三分七厘、エニセイスク縣一分二厘とす。トムスク縣内にては牛酪製造業の第一位にあるをバルナウーリスク郡とし、之に次ぐカインスク郡とす。トポールリスク縣に於ける牛酪産出額最も多きはクルガンスク郡にして、曠原地方に於ては、オムスク地方に亞でペトロパウロスク地方を推す。トムスク縣に於ける斯業の發達は左記の圖表に依りて明瞭なり。

トムスク縣ニ於ケル牛酪製造工場ノ發達



一九〇九年に於ては、トムスク縣内の百七十九郡に二千三十六個の牛酪製造工場の存在を見、更に之にタセエーウスク郡に於ける工場をも加へなば總數二千八十個に達し、其の産額は百六十五萬布度に達せり。牛酪製造業は縣の北部へも普及し來り、ブリナルキームスク地方に於ても一九〇〇年より一九〇九年に至る十年間に於て年額五十一萬千二百六十七布度の牛酪を産する五十個の工場を開設せり。縣内に於ける工場數は一九〇九年より一九一一年に至る間に一割方増加し、二千二百九十四個、且つ此増加率は依然繼續せり。牛酪製造工場は個人并に農民組合の所有に屬す。トポールリスク縣に於ける斯業の増加は次の數字に依りて明瞭なり。即ち一九〇〇年八十四個、一九〇五年四百六十個、一九一〇年千四十二個にして、農民組合所有の工場は個人工場より多く、六個の蒸汽工場を除く外トポールリスク縣の諸工場は孰れも其規模小なり。トムスク縣に於ては之に反し、組合組織に成る工場の増加一九〇〇年には僅に五個なりしもの、一九〇五年に於ては百六十七個、一九一〇年に至りては既に六百三十七個に達せる如く、斯く迅速なるに拘らず、個人經營の工場は尙之にも勝る盛況を呈せり。又トムスク縣に於ける工場の七割一分五厘は個人の經營に屬するも、組合組織の工場は全牛酪産額總額

百八十五萬千八百五十五布度)の四割四分三厘を産せり。トムスク縣に於ける牛酪販賣市場中更に之を外部市場へ仕向くるものは(一九一二年に於て)カインスク(三十三萬八布度)、バルナウ(百五十五萬布度)、ビーイスク及カーメン(各二十五萬布度)、タタルスク及びチャリヌキ(各十五萬布度)但し一九一〇年度報告なり。トムスクは隣接地域がその産出牛酪の品質粗悪なるに拘らず之に依り満足し居るを以て七千布度以上を要する事なし。トボリスク、アクモリンスク地域に於て主要なる地方販賣市場は、クルガン(七十八萬八千布度)、オムスク(百三十五萬三千布度)及ペトロバウロフスク(三十一萬四千布度)にして、全西伯利を通じて外部市場へ牛酪を輸出する地點十二個を有す。而して之を外部市場に迅速且つ便利に送達する爲既に一九〇〇年以降、同年は一日二列車、一九〇一年に至りては既に五列車となれり)リガ、レーウエリ、ノーウオイポールト、ウインダーウ、彼得堡、莫斯科等に對する特別牛酪(白色)列車(一九一二年に於ては千三百三十九輛を有せり)の運轉を制定せり(全輸出品の九割は同列車を以て運搬せり)。一九一二年に於て西伯利より輸出せる牛酪の九割六分は波羅的海沿岸の諸港就中ウインダーウ(三百四萬八千布度)并にノーウオイポールト(七十萬三千布度)に仕向けられ、彼得堡には僅に十八

萬八千布度、又莫斯科には十萬布度弱の仕向けらるゝを見るに過ぎず。一九〇八年度に於て西伯利産牛酪は主として英國(百五十八萬七千布度)へ輸出せられ、之に次で丁抹(七十二萬五千布度)及獨逸(七十萬五千布度)に輸出せられたるが、諸國に對する牛酪輸出額の一般的比較は今尙變更する事なし。英國は又西伯利産牛酪に對して他國より一層高價を支拂へり(二布度約十三留五十一哥)。一九一二年中に於ては、西部西伯利、東部西伯利に於ては總額五萬三千四百九十一布度の牛酪を輸出せしが、内地市場に對しては五分以下を仕向けしに過ぎざりき。

西伯利産牛酪の上等品は品質の優良なるを以て秀で、其化學的成分は脂肪八割五分五厘五毛、水分一割二分一厘八毛、鹽分一分七厘一毛及其他の物質五厘六毛にして、含窒素物體、加里、磷酸等を含む事なく、獨逸産のものに比して其脂肪分は二分二厘四毛方多し。西伯利に於ては二十一布度半の牛乳より牛酪一布度を得べきも、芬蘭及瑞典に於ては牛乳二十四布度を以てせざれば牛酪一布度を製すること能はず。而して是は一に西伯利牧草の品質の優良なるが故なり。牛酪中優良なるはクルガンスク、イシムスク、バルナウリスク諸郡及亞爾泰産にして、オムスク地方(キルギズ曠原、トボリリスク縣のチユカリンスク郡及トムスク縣カインスク郡

の一部產品は牧草中に苦蓬及野葱の混入する爲に其質遙に之よりも劣れり。西伯利産特に小規模の個人(組合にあらず)經營者の製産する牛酪の缺點は、技術の拙劣及製産上の不注意并に不親切に基因す。其味の不純(脂肪過多、魚臭、酸敗味、硫黄の臭ある等)飼料の移り香、鹽分の不足及び水分の過多、斑点ある等は其缺點なり。多數の牛酪製造所は全く何等の設備なき小舎にし、分解機并に製造用の什器は寒冷なる水にて洗滌し、乳漿は長時間氷を加へざる儘にて保存せらるゝが故に、腐敗せるものを工場へ送附し、若くは牛酪を往々搾分せざる儘小罐内に放置し、又は變質したる牛乳を用ふる事等の不行届全く之れなきを保すべからず。椰子油を乳脂に擬製する方法も普及し來りしが、その方法拙劣なるため時として小樽内に石の混入せるを發見する事あり、然れども、農民組合の經營する牛酪製造場は、管に同場へ供給さるゝ牛乳が一層良好なる監査を受け、且つ牛乳供給者自身が自己の利益の爲變質せざる良乳を供給すべく努むる爲のみならず、其工場の設備良好なるも、其製造法が獨修的方法にあらず即ち牛酪製造業に於ける若干の學理的素養を發揮せるとによりて、前者に比して一層良質の製品を提供することを得るなり。されど組合經營工場を多數に有するトボリースク縣に於ては、個人的牛酪

製造業盛大にして、工場總數の四分の三が獨修的製造業たるトムスク縣に比して、牛酪製造上の素養ある工場一割五厘方多し。西伯利には乳産工業學校甚だ鮮く(オムスク、カーメンスク及ベトロバウロフスクの三地)又短期牛酪製造講習會は良好なる素養ある牛酪製造法を教授する能はず。

西伯利に於ける牛酪製造業と密接なる關係を有するは産業組合問題にして、同組合は地方住民中牛酪製造業者間に組織せられしを嚆矢とし、順次他の部類に普及しつゝあり。纔に十年以前開始されたる(三十四組合)西伯利の産業組合的牛酪製造制度は其發達甚だ迅速にして、一九〇六年西部西伯利に於ては既に五百七十七箇村に亘り、此の組合員三萬七千八百九十八人(飼牛十八萬二千三百五十九頭)に達せしが、一九一二年に至りては組合員十二萬人飼牛三千萬頭に達せり。一九〇七年中該團體既に六百六十七村に達し居たるは總額五百七十七萬二千六百九十六留に相當する牛酪四十二萬七千九百十五布度を得、一九一一年に於ては四十七萬七千布度(價格六百二十萬留)を得、一九一二年に於ける團體の取引高は約一千萬留の巨額に上りたり。クルガンを中心とし、バルナウル、ビースク、ベトロバウロフスク及チエリヤピンスクに支部を置き、更に伯林及倫敦に其事務所を有する、西伯利

牛酪製造業聯合會は、現在最も確固たる團體にして之に加盟する組合二百個に達す。有名なる「西伯利牛酪製造業聯合會」の發起人たるバラクシン主宰の下にクルガンに於て發行さる「ナローヅナヤガゼータ」も亦盛に西伯利牛酪製造業者の産業組合論を鼓吹し居れり。牛酪製造業組合の示せる効果を考ふるに、各組合に於て飼牛數を増加し一頭の牛より搾取する乳量の平均を昂上せしめ、製産技術及製品の性質を改良し、且つ西伯利牛酪製造業者が仲介者の介在を避け、以て自己の利益を増加しつゝ、需要者と直接の交渉を開くに至りしことは其主たるものなるが、牛酪製造業組合の爲に産業組合制度夫れ自體が益々その適用の範圍を擴張せられ今や牛酪製産組合は茶、砂糖、石油等の如き日用品を商ふ組合附屬の消費組合販賣店を開設するに至ることも注目し値す。更に牛酪製造業組合は、必要に際し組合員を支持する目的を以て組合にて穀物の購入を行ふべき意見を生ぜしめつゝあり。西伯利の僻陬に於て電力を管に牛酪製造工場に於ける諸機械の動力としてのみならず農家の點燈用(トムスク縣ビーイスク郡スターラヤ、パールダ村に於て)として利用するに至るを見るも牛酪製造業組合の影響に外ならず。西伯利牛酪製造業聯合會は既に汽船二隻を借入れ、且獨力を以て汽船業を創始す

る筈にして、産業組合制度を以て早晚製粉所を設立すべき事既定の事實なりき。産業組合主義を以て連繫せらるゝ西伯利の村落消費會の間には商品共同購入の機運を生じ、特に西伯利農民を困難なる仲介貸金の苦痛より救済する信用組合の如き其業務の賑盛なるを見る。

東部西伯利即ち後貝加爾に於ける北部半鬱林地域に於ける林野區は、乳産家畜の養殖上極めて適當なるを以て、最近に至り、可成り有望なる將來を有する牛酪製造地域と認めらるゝに至れり。後貝加爾に於ける斯業は、若干の教養あるブリヤート族の發起に依りて一九一〇年漸く開始せられしものなるが、今や二百臺強の分解機を使用するの盛況に達せり。ブリヤート族の性甚だ組合組織を好むが故に、彼等間の組合數今や其數十五個に達せり。後貝加爾に於ける牛酪の製産は總額十三萬布度に達し、此等の製品は地方市場の外我國及び支那等へも輸出せらる。ヤクーツク縣内に於ける牛酪製造業も可なり盛にして、分解機と同縣内に使用せらるゝもの數十臺あり。

西伯利に於ける牛酪製造業の發達に好適せる條件は、最近に至りて同地に斯業の新部類即ち乾酪製造業の出現を促せり。ビーイスク牛酪製造業聯合會は